



えひめ防災フォーラム2013（平成25年8月20日）



防災キャラバン in 西条（平成26年1月19日）

愛媛県防災士養成講座（平成26年1月18日）



社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座（試行講座）（平成26年1月7日～9日）



台風18号調査 京都府嵐山
(平成25年9月24日)



被爆救命訓練 (平成25年10月27日)



宮城県女川町 (江島共済会館)
(平成25年9月24日)



東日本大震災 慰霊碑
(平成26年2月8日)



災害調査車納車式 (平成25年12月18日)



避難経路・場所検証 愛南町
(平成25年8月8日)

序 文

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

時の流れは早いものである。待ち望んだ桜もすっかり散って、今はツツジが満開となっており、フジも咲き始めている。本報告書が刊行される頃には、アヤメが花開き、アジサイが開花の準備をしていることであろう。

今年の2月には、関東を中心に豪雪に見舞われたことを覚えておられるであろうか。東京大手町で27cmの積雪、甲府市では114cmと過去最深積雪となり、山梨県全体が孤立した。関東圏の交通は完全にマヒした。僅か2〜3か月前のことである。昨年10月には台風26号の豪雨に見舞われた伊豆大島で大土石流が発生した。深夜の避難勧告の発令をためらった行政の対応が犠牲を大きくしたとも言われている。また、台風16号豪雨に見舞われた京都嵐山の洪水氾濫の様子は全国に放映され、注目を集めた。京都が大洪水に見舞われた豪雨の際には、運用され始めたばかりの「大雨特別警報」が京都府・福井県・滋賀県に発令された。また、11月にフィリピン中部レイテ島を襲った猛烈な台風30号では高潮で6,000名が犠牲になった。

このように振り返ってみると、昨年度も多くの甚大な自然災害が起こっている。しかし、同時に意識から薄れかかっていることも事実である。時あたかも、4月16日午前、韓国南西部珍島近くで、仁川から済州島に向かっていたフェリーが沈没した。乗客302人が犠牲になるという大惨事となった。犠牲者の多くが、修学旅行中の高校生であるということもあって本当に痛ましい事故である。連日のように、親たちの悲痛な叫びがテレビ画面を通して流れている。

これほどの大惨事になったのは、様々な要因が複合している。コンテナ荷物の固定が不十分であった、荷物を積み過ぎていた、3階・4階部分を増設したことにより重心が高くなっていた、急な右旋回をした、難所であるにも関わらず経験が浅い航海士に操船を任せていた、避難誘導が適切でなかった、乗務員に対して避難訓練が十分でなかった、そして何よりとんでもない人が船長をしていたことなどが被害を大きくした要因である。また、船内放送では客室内待機を呼びかけていた。これも被害を大きくしていることは明らかである。

しかし、浸水した場合に船内では助かる術が殆どない。船内放送でどんな指示があろうと、いち早くデッキに出なければならない。飛び込むか否かは、そこで判断すればよい。自分の命は自分で守らなければならない。楽しいはずの修学旅行が死出の旅となった。一寸先は闇で、本当に痛ましい、悲しい事故である。

南海トラフ巨大地震という未曾有の大災害に備えて、自分の命は自分で守るという最低限の自己判断力を養成する必要がある。愛媛大学防災情報研究センターも微力ながら防災意識と知識の普及に努めている。その他にも、多くの取り組みをしている。本報告書に昨年一年間の取り組みをまとめた。しかし、センター教員だけの取り組みには限界がある。本報告書を手にする方々が、本センターの活動に協力いただけるよう強く願う。

愛媛大学防災情報研究センター一年報 目次

序文

目次

1. 研究組織及び研究スタッフ	1
2. 活動状況	
2.1 平成 24 年度活動報告会	8
2.2 えひめ防災フォーラム	9
2.3 防災キャラバン	12
2.4 愛媛地域防災力研究連携協議会	16
2.5 災害現地調査・調査報告会	24
2.6 四国防災八十八話研究会	26
2.7 愛媛大学 GIS 研究会	27
2.8 要援護者避難支援研究会	30
2.9 社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座(試行講座)	31
2.10 西日本高速道路(株)四国支社との平成 25 年度連携推進会議	39
2.11 その他の講演会等	41
2.12 防災情報研究センターニュース(メールマガジン)	45
3. センターが受け入れた研究活動	47
4. センター教員による研究・地域貢献活動	50
5. 管理・運営	
5.1 運営委員会議事録	80
5.2 外部評価委員会議事録	90
6. 規程等	94

1. 研究組織および研究スタッフ

センター長、副センター長のもとに、5つの研究部門（災害救急医療・ケア研究部門、地域防災システム研究部門、社会基盤整備部門、アジア・地域防災情報ネットワーク部門、東南海・南海地震研究部門）を置く。下記に、平成25年度の研究スタッフを示す。センター長、副センター長の他、センター所属の教員が18名、客員教授・准教授が13名、客員研究員が3名、並びにセンター活動を支援していただく協力教員8名で構成されている。

センター長

氏名 矢田部 龍一 [YATABE Ryuichi]
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役職 教授・副学長・理事
専門 地盤工学
最終学歴 1979.3 京都大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻 修了

副センター長

氏名 高橋 治郎 [TAKAHASHI Jiro]
所属 教育学部
役職 教授・副センター長
専門 構造地質，防災地質
最終学歴 1978.3 東北大学大学院理学研究科博士課程 満期退学

氏名 竹田 正彦 [TAKEDA Masahiko]
所属 防災情報研究センター
役職 教授・副センター長
専門 河川工学，災害復旧制度
最終学歴 1991.3 名古屋大学工学研究科土木工学専攻博士前期課程 修了

<災害救急医療・ケア研究部門>

地域の関係機関との連携を考慮した災害発生時の救急医療・ヘルスケア体制及び搬送支援体制の構築・情報共有に関する調査・研究を行い、心的ケアを含む実践的な災害医療の教材を開発する。

部門長

氏名 相引 眞幸 [AIBIKI Mayuki]
所属 大学院医学系研究科医学専攻
役職 教授，附属病院副病院長（医療安全，危機管理，地域医療再生担当）
専門 救急医学，重症患者管理学
最終学歴 1978.3 金沢医科大学医学部医学科 卒業

氏 名 木村 映善 [KIMURA Eizen]
所 属 大学院医学系研究科医学専攻
役 職 准教授
専 門 医療情報学, 医療社会学, 看護情報学, 医用工学
最終学歴 2003.3 愛媛大学大学院医学研究科生体機能博士課程 修了

氏 名 加藤 匡宏 [KATO Tadahiro]
所 属 教育学部附属教育実践総合センター
役 職 准教授
専 門 産業保健領域における人間工学の視点からみた労働安全器具の開発および安全, 安心町づくり
最終学歴 1990.3 広島大学大学院医学系研究科社会医学系博士課程 修了

<地域防災システム研究部門>

自然災害発生のメカニズムや対策技術を研究し, 発生した災害実態や気象・地質・構築物などの地域特性を調査する。それらの調査・研究を通して得られた知見・知識を蓄積する。

部門長

氏 名 松尾 芳雄 [MATSUO Yoshio]
所 属 農学部生物資源学科
役 職 教授
専 門 地域計画情報学, 農村計画学
最終学歴 1980.3 京都大学大学院農学研究科農業工学専攻後期博士課程研究指導認定

氏 名 岡村 未対 [OKAMURA Mitsu]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 地盤工学
最終学歴 1993.3 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学博士課程 修了

氏 名 小林 範之 [KOBAYASHI Noriyuki]
所 属 農学部生物資源学科
役 職 教授
専 門 地盤工学
最終学歴 1991.3 京都大学大学院農学研究科農業工学修士課程 修了

<社会基盤整備部門>

国土保全という視点に加え，災害に強い都市計画，避難支援技術，復旧・事業継続のためのリスク評価と機能維持計画など防災・減災という視点や環境・景観保全の視点からの社会資本整備技術を開発・展開する。

部門長

氏 名 吉井 稔雄 [YOSHII Toshio]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 交通工学
最終学歴 1994.3 東京大学大学院工学系研究科修士課程土木工学専攻 修了

氏 名 千代田 憲子 [CHIYODA Noriko]
所 属 教育学部
役 職 教授
専 門 デザイン，パブリックデザイン(街路景観)，テキスタイル造形
最終学歴 2003.3 九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科生活環境専攻博士後期課程 修了

氏 名 中村 孝幸 [NAKAMURA Takayuki]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 海岸・海洋工学
最終学歴 1978.3 大阪大学大学院工学研究科博士課程土木工学専攻 修了

氏 名 山下 祐一 [YAMASHITA Yuichi] (10月～2月)
所 属 防災情報研究センター
役 職 教授
専 門 防災工学
最終学歴 1999.3 愛媛大学大学院理工学研究科博士課程 修了

氏 名 森脇 亮 [MORIWAKI Ryo]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 気象学，水文学
最終学歴 1997.3 東京工業大学理工学研究科土木工学専攻修士課程

氏 名 森 伸一郎 [MORI Shinichiro]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 准教授
専 門 地震工学, 地震地盤工学, 防災工学
最終学歴 1980.3 京都大学工学部土木工学科 卒業

氏 名 門田 章宏 [KADOTA Akihiro]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 准教授
専 門 河川工学
最終学歴 1997.3 京都大学大学院工学研究科博士課程環境地球工学専攻 単位取得認定退学

氏 名 羽鳥 剛史 [HATORI Tsuyoshi]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 准教授
専 門 社会マネジメント
最終学歴 2006.3 京都大学工学研究科都市社会工学専攻博士課程 修了

<アジア・地域防災情報ネットワーク部門>

地域の視点からの防災・災害対応に関する自然科学・人文社会面の教材の開発, 災害時のライフラインや医療に関する基盤情報ネットワーク構築に関する調査・研究を行う。その成果を用いて地域の教育・啓蒙を行い, さらにアジア各地域に重点的に展開する。

部門長

氏 名 榊原 正幸 [SAKAKIBARA Masayuki]
所 属 大学院理工学研究科数理物質科学専攻
役 職 教授
専 門 地質学, 岩石学, 応用地球科学
最終学歴 1987.9 北海道大学大学院理学研究科地質学鉱物学博士後期課程 修了

氏 名 二神 透 [FUTAGAMI Tohru]
所 属 防災情報研究センター
役 職 准教授
専 門 都市防災計画, 地震火災シミュレータ, 避難シミュレータ, 救急情報工学, 土木計画学,
中山間地防災計画, 住民参加, 合意形成
最終学歴 1990.3 金沢大学大学院自然科学研究科システム科学博士課程 修了

<東南海・南海地震研究部門>

東南海・南海地震に備えて、防災教育、避難行動、業務継続、防災 GIS、自主防災活動に関する研究を重点的に展開する。

部門長

氏 名 木下 誠也 [KINOSHITA Seiya]
所 属 防災情報研究センター
役 職 教授
専 門 建設マネジメント，国土マネジメント，河川・水資源の計画・管理，防災
最終学歴 1978.3 東京大学大学院工学系研究科土木工学専門課程修士課程 修了

氏 名 村岡 治道 [MURAOKA Harumichi]
所 属 防災情報研究センター
役 職 准教授
専 門 地域防災，都市水害対策
最終学歴 1999.3 大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻博士課程 修了

【客員教授】

氏 名 柏谷 増男 [KASHIWADANI Masuo]
所 属 愛媛大学 名誉教授・防災情報研究センター客員教授
専 門 都市計画，交通計画，地域計画

氏 名 江崎 次夫 [EZAKI Tsugio]
所 属 農学部生物資源学科
専 門 環境緑化学，森林造成保全学，緑地保全学

氏 名 山岸 宏光 [YAMAGISHI Hiromitsu]
所 属 防災情報研究センター客員教授
専 門 環境地質学，GIS 学

氏 名 羽藤 英二 [HATO Eiji]
所 属 東京大学大学院工学研究科 教授
専 門 交通工学，都市空間工学，都市交通計画，風景づくり

氏 名 廣田 清治 [HIROTA Kiyoharu]
所 属 防災情報研究センター（ホンジュラス・パンアメリカン農業学校 Zamorano）
専 門 地質工学

氏 名 川崎 正彦 [KAWASAKI Masahiko] (~7月)
所 属 国土交通省四国地方整備局 局長
専 門 防災行政

氏 名 三浦 真紀 [MIURA Masanori] (8月~)
所 属 国土交通省四国地方整備局 局長
専 門 防災行政

氏 名 鳥居 謙一 [TORII Kenichi]
所 属 国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部部長
専 門 海岸工学, 防災工学

氏 名 岡田 清隆 [OKADA Kiyotaka]
所 属 愛媛県県民環境部 部長
専 門 防災行政

氏 名 田村 弘文 [TAMURA Hirofumi]
所 属 愛媛県土木部 部長
専 門 土木行政

氏 名 福田 昌史 [FUKUDA Masasfumi]
所 属 (一社)四国クリエイト協会 理事長
専 門 社会資本

氏 名 MADHAV Kumar Nepal
所 属 ネパール制憲議会議員 憲法策定委員会委員長
専 門 ヒマラヤ環境学, 開発政治学

【客員准教授】

氏 名 DAHAL Ranjan Kumar
所 属 理工学研究科 客員研究員 (ネパール トリブバン大学 講師)
専 門 応用地質学, 地すべり防災学

【客員研究員】

氏 名 前川 聡一
所 属 南松山病院救急部 部長・愛媛大学医学系研究科非常勤講師
専 門 災害医療, 航空救急医療, 病院前救護体制, 外傷治療

氏 名 TULADHAR Gangalal
所 属 ヒマラヤ保全会 会長
専 門 防災教育, ヒマラヤ環境学, 開発政治学

氏 名 李 学森
所 属 桂林理工大学地球科学院 教授
専 門 地質学

【協力教員】

法 文 学 部 : 寺内 浩 (協力分野 : 古文書調査, 歴史研究)
理 工 学 研 究 科 : 渡邊 政広 (協力分野 : 洪水災害)
理 工 学 研 究 科 : 小林 真也 (協力分野 : 災害時の情報伝達)
理 工 学 研 究 科 : 井内 國光 (協力分野 : 渇水被害, 水資源システム, 地球温暖化, 地盤沈下,
土壌・地盤・水汚染, 災害発生時の災害調査と情報提供)
理 工 学 研 究 科 : 倉内 慎也 (協力分野 : 防災計画)
理 工 学 研 究 科 : 木下 尚樹 (協力分野 : 土砂災害, 大規模崩壊)
理 工 学 研 究 科 : 安原 英明 (協力分野 : 渇水災害, 水資源システム, 土砂災害, 地すべり,
大規模崩壊)
理 工 学 研 究 科 : バンダリ ネットラ P. (協力分野 : 地盤防災, 災害情報データベース)

2. 活動状況

2.1 平成 24 年度活動報告会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 24 年度の活動報告会を 5 月 31 日（金）に、南加記念ホールにおいて開催しました。防災関係や一般の方々など 162 名の参加いただきました。

特別講演は、東京大学大学院工学研究科教授の羽藤英二氏による「東日本大震災被災地の復興計画について」と国土交通省四国地方整備局総括防災調整官宮本正司氏による「南海トラフ巨大地震に対する四国地震防災基本戦略の取り組み」の 2 題で、巨大地震災害からの復興の在り方と備えについて、実に興味深い話題が提供されました。

東日本大震災の発生を受けて南海トラフ巨大地震への備えについて国民の関心が高まる中、防災情報研究センターでは、平成 24 年度に、来場者 800 名を超える「えひめ防災フォーラム」など、防災関連の主催・共催行事を 50 回開催し、延べ約 8,000 名の方に参加頂きました。平成 25 年度は、防災研究と防災啓発に一層の力を注いでいく予定にしています。

日 時：平成 25 年 5 月 31 日（金） 13：30～15：30

場 所：愛媛大学南加記念ホール

参加者：162 名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学社会連携推進機構長 矢田部 龍一

平成 24 年度防災情報研究センター活動報告

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦

東日本大震災被災地の復興計画について

東京大学大学院工学研究科教授

愛媛大学防災情報研究センター客員教授 羽藤 英二 氏

南海トラフ巨大地震に対する四国地震防災基本戦略の取り組み

四国地方整備局 総括防災調整官 宮本 正司 氏

閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦



矢田部センター長挨拶



会場風景

2.2 えひめ防災フォーラム 2013—最大犠牲者数 1 万 2 千人に備える—

国土交通省四国地方整備局，愛媛県，土木学会四国支部との共催による「えひめ防災フォーラム—最大犠牲者数 1 万 2 千人に備える—」を開催しました。ひめぎんホール・メインホールを舞台に，8 月 20 日(火)午後の暑い中にも関わらず，1,700 名の来場者を迎えての開催となりました。

柳澤康信学長の主催者挨拶を皮切りに，中村時広愛媛県知事の来賓祝辞で花を添えて頂きました。柳澤学長からは，大学が地域の防災力向上に取り組んできた経過と成果について言及し，中村知事からは，愛媛県がハード，ソフト両面に亘って精力的に防災対策を進めている姿勢が紹介されました。その後，基調講演として「四国地震防災基本戦略の推進に向けて 南海トラフ巨大地震について」と題して，三浦真紀四国地方整備局長よりご講演いただきました。三浦局長は，東北地方整備局道路部長ののち平成 23 年 1 月には国土交通省道路局国道・防災課長に着任され，平成 23 年 3 月の東日本大震災に正面から取り組まれた経験を踏まえて，基調講演の中でも東日本大震災の教訓を，そして南海トラフ巨大地震への備えの重要性について，わかりやすくご紹介して頂きました。

基調講演に続いて，四国防災八十八話の感想文コンクール入賞作品の紹介が行われました。受賞した小学生 4 人により感想文が音読され，過去の災害や先人の知恵に対する素直な気持ちが聞くものの心に響き渡りました。

後半に入って，愛媛県内の 20 市町の首長（4 名の代理を含む）をパネリストとして迎えたパネルディスカッションが実施されました。矢田部龍一センター長をコーディネーターとして進行が進められ，途中，村岡治道准教授による「うちわ」を使った会場アンケートを実施しながら，行政の取り組みと住民意識を踏まえた「自助」「共助」を考える議論が展開されました。

また，会場正面ホールでは，民間企業による防災グッズの展示，説明会が開催され，大勢の来場者が訪れるとともに，熱心に質問する姿も多く見られました。正面広場では，松山市消防局から起震車が子どもを中心に地震体験を行なわれ，大きな揺れになると歓声が上がっていました。

さらに，フォーラムの閉会后に，防災教育講習会が会場内の多目的室で開催され，地震時における火災の延焼をシミュレーションするシステムが紹介されました。

このように今年度のフォーラムの取り組みが，今後の地域における防災力向上に貢献できることを期待するとともに，愛媛大学防災情報研究センターの活動に生かして参りたいと考えております。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター，愛媛県地域防災力研究連携協議会

共 催：国土交通省四国地方整備局，愛媛県，(公社)土木学会四国支部

後 援：四国 4 大学防災関連研究センター連携協議会，(社)四国建設弘済会，NHK松山放送局，
南海放送，テレビ愛媛，あいテレビ，愛媛朝日テレビ，愛媛新聞社

日 時：平成 25 年 8 月 20 日(火) 13：30～16：40

場 所：ひめぎんホール メインホール

参加者：1,700 名

プログラム：

1. 開会挨拶

愛媛大学長 柳澤 康信

2. 来賓挨拶

愛媛県知事 中村 時広 氏

3. 基調講演 「四国地震防災基礎戦略の推進に向けて 南海トラフ巨大地震について」

国土交通省四国地方整備局長 三浦 真紀 氏

4. 四国防災八十八話感想文コンクール入賞作品の紹介

最優秀賞・優秀賞・審査員特別賞の作品紹介 愛南町立各小学校の皆さん

5. パネルディスカッション

『巨大災害から生命を守る, 「防災啓発」, 「迅速避難」, そして, 「地域防災力の向上」』

コーディネータ: 愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

パネリスト: 愛媛大学長 柳澤 康信

国土交通省四国地方整備局長 三浦 真紀 氏

国土交通省四国地方整備局 企画部長 石井 一生 氏

愛媛県県民環境部長 岡田 清隆 氏

愛媛県土木部長 田村 弘文 氏

愛媛県教育委員会 副教育長 井上 正 氏

松山市長 野志 克仁 氏

今治市長 菅 良二 氏

宇和島市長 石橋 寛久 氏 (代理) 副市長 岡野 昇 氏

八幡浜市長 大城 一郎 氏

新居浜市長 石川 勝行 氏

西条市長 青野 勝 氏

大洲市長 清水 裕 氏

伊予市長 武智 邦典 氏 (代理) 副市長 山先 森繁 氏

四国中央市長 篠原 実 氏

西予市長 三好 幹二 氏

東温市長 高須賀 功 氏

上島町長 上村 俊之 氏 (代理) 副町長 宮川 阪光 氏

久万高原町長 高野 宗城 氏

松前町長 白石 勝也 氏

砥部町長 佐川 秀紀 氏

内子町長 稲本 隆壽 氏

伊方町長 山下 和彦 氏 (代理) 副町長 森口 又兵衛 氏

松野町長 阪本 壽明 氏
鬼北町長 甲岡 秀文 氏
愛南町長 清水 雅文 氏

6. 閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一



柳澤学長



中村時広知事



三浦局長基調講演



四国防災八十八話入賞作品の紹介



パネルディスカッション



会場風景

2.3 防災キャラバン

「東南海・南海地震研究部門」の設置を記念し、近年日本各地で発生している自然災害に関する話題と、愛媛県並びに開催市町に関係する自然災害、そして、家庭力と地域力の強化による自然災害への備えをテーマに「防災キャラバン」として、県内の市町で地元自治体と連携した防災講演会を開催しています。

平成 25 年度は、下記の 3 市町で開催しました。



2.3.1 鬼北町

竹田副センター長の講演

平成 25 年 12 月 1 日(日)10 時から鬼北町立近永小学校屋内運動場において、愛媛大学防災情報センター、鬼北町及び鬼北町自主防災組織等連絡協議会主催の「防災キャラバン in 鬼北」を開催し、鬼北町消防団員、鬼北町役場職員、町民ら約 450 名の参加を得ました。

矢田部愛媛大学防災情報研究センター長、甲岡鬼北町長のあいさつの後、矢田部センター長から「迫り来る大規模自然災害の時代に備える」と題した講演があり、鬼北町では震度 6 強の揺れが予想され建物の崩壊が予想される点を説明しました。また、土砂災害や豪雨災害に備える必要があると注意を促しました。

竹田愛媛大学防災情報研究センター副センター長から「南海トラフ巨大地震を知ろう」と題した講演があり、東日本大震災の概要、特徴を説明しました。さらに、鬼北町では地震による揺れが強いと予想される点、特に急傾斜地、山腹崩壊、地すべりに対して注意を促しました。

最後に毛利消防科学総合センター防災図上訓練指導員から「中山間地域での防災の考え方について」と題して、過去に発生した災害例を紹介し、もし鬼北町が孤立した場合などをイメージしながら、自助、共助の大切さについて訴えました。

当日は、愛媛大学防災情報研究センターによる相談コーナーを設置、センター教員と消防団員等との個別相談が行われるなど活発な防災キャラバンとなりました。

日時：平成 25 年 12 月 1 日(日)10:00～12:00

場所：鬼北町立近永小学校屋内運動場

共催：愛媛大学防災情報研究センター、鬼北町自主防災組織等連絡協議会、鬼北町

参加者：450 名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一
鬼北町長 甲岡 秀文

講演

「南海トラフ巨大地震を知ろう」

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦

「中山間地域での防災の考え方について」

(一社) 消防科学総合センター防災図上訓練指導員 毛利 泰明 氏

閉会挨拶

鬼北町消防団長 水野 和昭

2.3.2 西条市

平成26年1月19日(日)10時から西条市総合文化会館小ホールにおいて、愛媛大学防災情報センター、西条市主催の防災キャラバン in 西条を開催し、西条市消防団員、市民ら約500名の参加を得ました。特に西条市は前年の愛媛県による地震被害想定調査結果最終報告で、津波による死者が2,592名と県内最大の死者数が予想されていることもあり、参加者は想定の内容や減災に向けた今後の取り組み、特に自助・共助を普段から意識して取り組むことが必要との各講師からの説明を熱心に聞いていました。

日時：平成26年1月19日(日)10:00～12:00

場所：西条市文化会館小ホール

共催：愛媛大学防災情報研究センター、西条市

参加者：500名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦

西条市副市長

眞鍋 和年

講演

「南海トラフ巨大地震を知ろう」

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦

「南海トラフ巨大地震の被害想定と西条市の減災に向けて」

愛媛大学防災情報研究センター准教授 二神 透

「愛媛県地震被害想定最終報告について」

愛媛県県民環境部防災局危機管理監 薬師寺 隆彦 氏

「身近でできる防災対策」

西条市危機管理課専門員兼係長 森本 素史

閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター准教授 村岡 治道

2.3.3 四国中央市

平成 26 年 2 月 8 日(日)13 時 30 分から土居文化会館ユーホールにおいて、愛媛大学防災情報センター、四国中央市主催の防災キャラバン in 四国中央市を開催し、四国中央市職員、消防団員、市民ら約 100 名の参加を得ました。当日は、雪の影響で高速道路が通行止めになるほど雪が積っていましたが、足下の悪い中、多数の来場を得ました。講演会では、愛媛大学防災情報研究センターの二神准教授から四国中央市で想定される災害について具体的な説明があり、災害から命を守るために、自助・共助の大切さについて訴えました。続いて、自主防災活動の事例紹介として、久保自主防災会会長から地域住民が楽しく参加する防災のイベント開催について紹介されました。紹介された事例では防災訓練に多数の住民の参加があったとの報告がありました。また上町自主防災会会長からは、防災に対して住民が盛り上がらない、地区の情報が得られない、備蓄の必要性和予算についての問題提起がありました。



二神准教授の講演

日時：平成 26 年 2 月 8 日(土)13：30～15：30

場所：土居文化会館(ユーホール)

共催：愛媛大学防災情報研究センター、四国中央市

後援：燧灘防災会

参加者：100 名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

四国中央市長 篠原 実

講演

「南海トラフ巨大地震の被害想定と四国中央市の減災に向けて」

愛媛大学防災情報研究センター准教授 二神 透

「わたしのまちの自主防災活動」

四国中央市内自主防災組織(久保自主防災会、上町自主防災会)

閉会挨拶

四国中央市消防本部 消防長 青木 基

2.3.4 上島町

3月30日(日)13時50分から上島町せとうち交流館多目的ホールにおいて、上島町と共催による防災キャラバンを開催し、一般市民ら約200名の参加を得ました。開催に先立ち、愛媛大学防災情報研究センター高橋治郎副センター長及び上村俊之上島町長から挨拶がありました。引き続き、愛媛大学防災情報研究センター高橋治郎副センター長から「南海トラフ巨大地震の発生メカニズム」と題して、過去の災害記録及び地震の発生メカニズムについての解説があり、今後発生するかもしれない地震が起きたとしても、上島町においては、安心・安全な町づくりを継続して進めてほしいとの話がありました。



高橋副センター長の講演

また、愛媛大学防災情報研究センター二神透准教授から「愛媛県の地震被害想定と上島町の減災について」と題した講演では、上島町で想定される災害としては、南海トラフ巨大地震、豪雨災害、強風、高潮などが挙げられました。対策として、家具の固定を含めた耐震補強が重要であること、津波が30cm以上予想される地域については、慌て

ずに高いところに避難すること、液状化しやすい場所では、建物が倒れるか、傾きやすいことから、早期避難が大切であることが説明されました。自然災害に対する備えと併せて日頃から地域における訓練の重要性について、詳細な説明がありました。また、意見交換会では、一般市民から(津波や自然災害など)多数のご質問があるなど、活発な防災キャラバンとなりました。

日時：平成26年3月30日(日)13:50～15:50

場所：せとうち交流館

共催：愛媛大学防災情報研究センター、上島町

参加者：180名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 高橋 治郎
上島町長 上村 俊之

講演

「南海トラフ巨大地震の発生メカニズム」

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 高橋 治郎

「愛媛県の地震被害想定と上島町の減災について」

愛媛大学防災情報研究センター准教授 二神 透

意見交換会

閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター准教授 村岡 治道

2.4 愛媛地域防災力研究連携協議会

2.4.1 5つの研究会活動の成果と次年度以降の計画

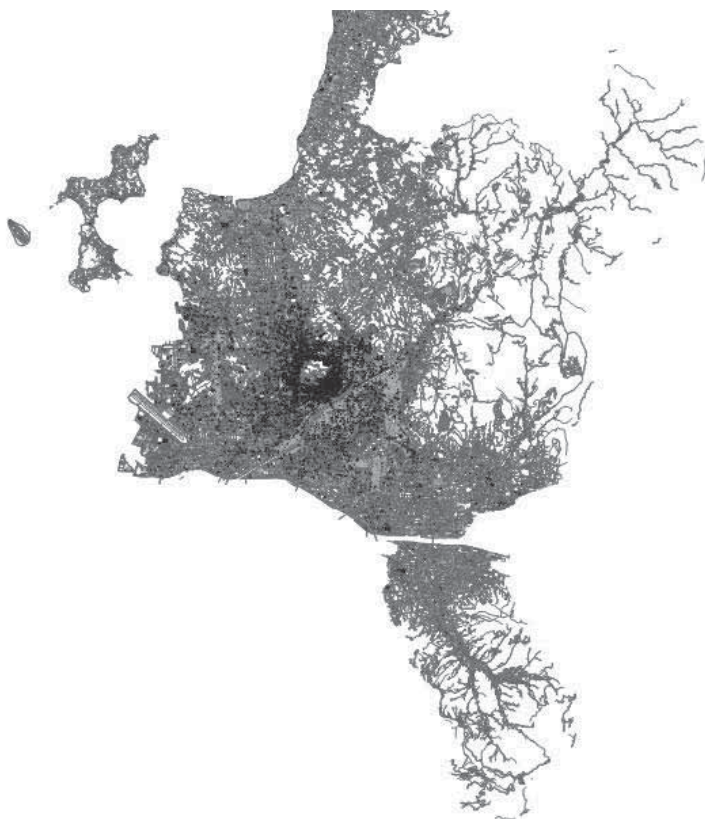
1 避難問題研究会

(1) 進捗状況

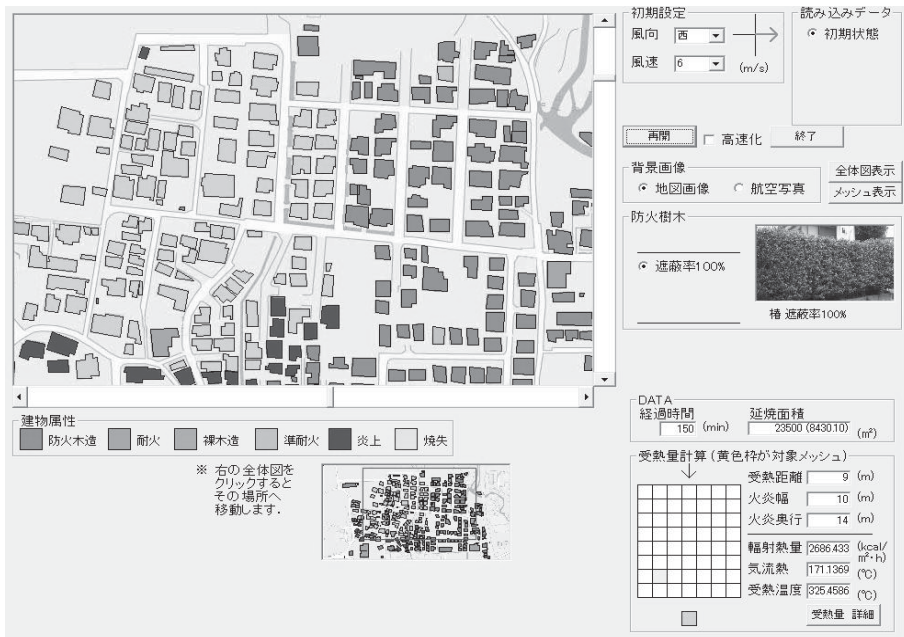
避難問題を考えるために、行政・自主防災組織と連携し、避難行動シミュレータ、大地震時火災延焼シミュレーション、内水氾濫避難シミュレーションを開発しながら、リスクコミュニケーションを行っています。具体的には、第4回避難問題研究会(平成25年8月20日、愛媛大学本部会議室にて、参加者：愛媛県危機管理課、今治市危機管理課、西予市危機管理課)の場において、地震火災から逃げるイメージを高めるための火災延焼シミュレーション・システムの操作説明を行いました。始めにパソコンを用いて、予め用意した国土地理院の松山市国土空間データ(2,500分の1の電子データ)を読み込み、任意の地域の都市構造データを読み込み、シミュレーション用のデータに変換しデータを作成しました。次に、様々な条件(出火箇所、風向、風速)でシミュレーションを実行しました。また、津波を想定した避難シミュレータについても要援護者を支援するイメージについてシミュレーションを実施しました。

(2) 平成25年度の成果

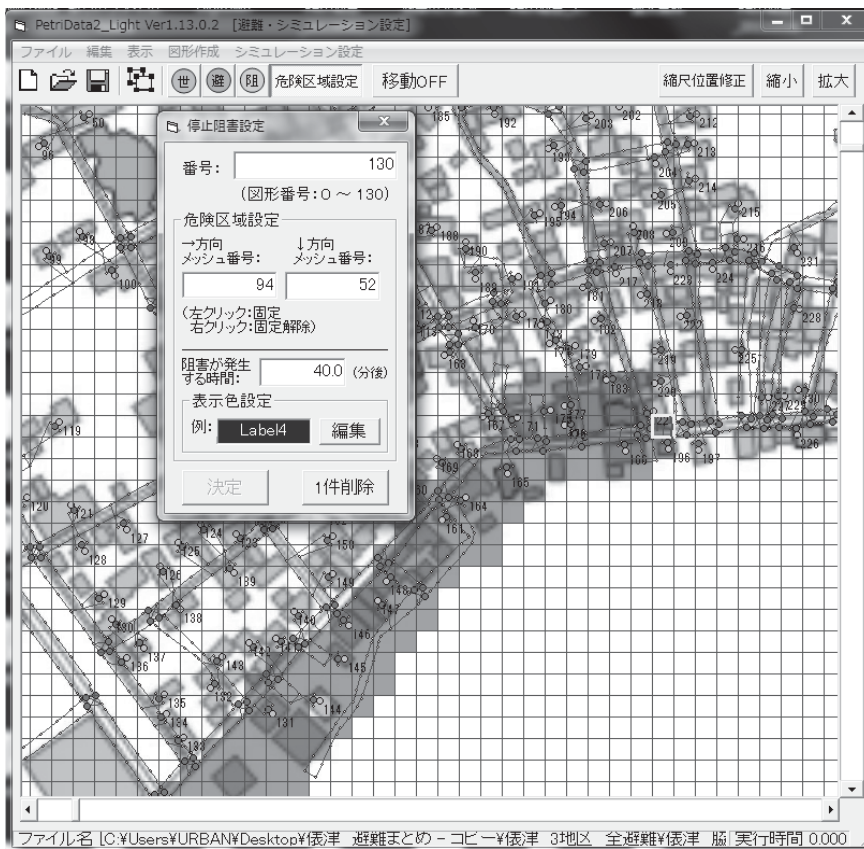
本年度は、上記研究会の場で松山消防関係者に地震時火災延焼シミュレーションならびに避難シミュレータを提供し、今治市危機管理課、西予市危機管理課の職員より、それぞれ、地震火災シミュレーション、津波避難シミュレーションについての質問を頂きました。



松山市国土空間データ



シミュレータの実行



津波避難シミュレータ(愛媛県西予市伊津地区)

(3) 平成 26 年度の計画

今後、県内を中心に、行政・住民が災害のイメージをより認識し、要援護者を含む地域住民が安全に逃げるための手段・方法を地域に応じた形で考えていく支援を行いたいと考えています。

2 自主防災研究会

(1) 自主防災研究会の目標

災害発生時の対応や、迅速な復興という観点から、平常時からの住民参加による防災まちづくりの必要性が指摘されています。近年、住民参加による防災まちづくりの表れとして、自主防災組織の結成と防災士の資格取得が全国の市町村で活発に進められています。

自主防災組織とは、地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づいて自主的に結成する組織であり、そこでは地域の防災力が問われています。元々、自主防災組織とは、地域防災力の低下が危惧され、これを補うことを目的に全国各地で行政主導の基で形成されてきた経緯があります。

これからの自主防災組織は、地域の災害を知り、そのための防災力を保持し、その能力を組織として地域に継承させていくことが重要であります。そのためには、防災リーダーの育成や、地域住民との連携による防災力の向上が必要であります。当研究会では、こうした諸課題を解決し、自主防災組織を核とした地域防災力の向上を目指しています。

(2) 平成 25 年度の成果

前掲の「避難問題研究会」の「第 4 回避難問題研究会(平成 25 年 8 月 20 日、愛媛大学本部会議室にて)」と合同研究会を開催しました。そこで、地震火災シミュレーションならびに津波避難シミュレーションの講習会を行いました。また、地域のルール形成支援について議論を行いました。

(3) 平成 26 年度の計画

巨大地震への対応は、それぞれの県が抱える地域特有の災害履歴を踏まえ、自主防災組織の役割を検討する必要があります。すなわち、地域の実情にあった自主防災組織を地域の人とともに構築してゆきたいと考えています。

3 防災教育研究会

(1) 進捗状況

学校防災教育を通して児童・生徒の防災意識の向上を図ることは極めて重要であります。児童・生徒は災害弱者であると同時に、10 年もすれば地域社会の防災の柱となります。そこで、今年度は昨年度に引き続き学校防災教育に積極的に取り組みました。

取り組みは、大別すれば二つであります。

一つは愛媛県下 20 市町に、防災情報研究センター教員 5 名が学校防災アドバイザーとして出向き、愛媛県による被害想定見直し結果の解説を行いました。また、避難判断の参考となる解説書を作成し、合わせて解説を行いました。

また、これらの業務遂行方策の検討や指導・助言のために「学校防災教育推進委員会」を設置したが、防災情報研究センター長が委員長として貢献しました。

(2) 平成 25 年度の成果

前掲の「避難問題研究会」の「第 4 回避難問題研究会(平成 25 年 8 月 20 日、愛媛大学本部会議室にて)」と合同研究会を開催しました。そこで、地震火災シミュレーションならびに津波避難シミュレーションの講習会を行いました。

また、前述のように学校防災アドバイザーとして出向き各学校の防災担当者に愛媛県被害想定見直し結果などの解説を行いました。

(3) 平成 26 年度の計画

松山市消防署と松山市の防災士研修カリキュラムと実施組織の検討を行います。また愛南町などで引き続き「四国防災八十八話読書感想文コンクール」を実施するとともに、「学校総合防災力強化推進事業」への連携を通して学校防災力の向上を図りたいと考えています。

4 自治体業務継続計画研究会

(1) 進捗状況

東日本大震災では、三陸沿岸地域を中心とした広範囲にわたり、多くの人命と貴重な財産を失う甚大な被害が発生し、県・市町村等の機能が喪失・停滞・混乱した結果、その後の地域への様々な支援、復旧・復興に向けての住民支援等が滞るなど様々な事態が発生しました。

東日本大震災による津波被害のみならず、平成 23 年台風第 12 号による大規模洪水・土砂災害、平成 24 年 7 月九州北部豪雨災害をはじめ全国で豪雨災害が頻発し、大規模かつ広域的被害がもたらされています。このような大規模災害時に、職員や庁舎の被災の回避、被害を最小限にとどめ、災害対策本部機能の確保、災害救助法に基づく対応はもとより、災害時の地域への様々な支援活動等への影響を小さくするため、自治体においても業務継続計画（以下、BCP という）の策定を図り、備えておくことが求められています。

そのため、本研究会では、平成 23 年より、自治体と連携を図り、策定にあたって検討すべき諸課題を抽出し、その解決を図ることなどを通じ、自治体の実効性のある BCP を策定する能力を開発すること等を目的に取り組んできたところであります。

(2) 平成 25 年度の成果

平成 25 年度は、平成 24 年度に引き続き巨大地震等に備えた自治体内での事業継続計画策定に向けての意識醸成、理解促進を図るための意見交換を行いました。研究会では、策定の手順が分からないなど、依然として策定の進まない要因のあることが分かりました。

計画策定にあたっては、全庁的な取り組みが必要となるため、各部署の方向性が一致するまで検討に取りかかることが出来ない状況が背景にあると考えられています。このため、検討に時間がかかったり、着手までに至らなかったりと計画策定が進まない状況であります。今後は様々な要因をクリアしていく必要のあることが明らかになりました。

(3) 平成 26 年度の計画

平成 25 年度に引き続き、研究会の開催を通じ、策定に向けた意識醸成に取り組んでいきます。進捗

が進まない要因は様々な要因をクリアするための解決策は複雑なものとなるため、策定に向けた検討を継続していきます。

今後は、策定の完了した自治体と策定の進まない自治体との比較により、策定に進まない要因を明らかにすることで、策定に向けた検討を行うこととしています。

5 防災 GIS 研究会

(1) 目標と進捗状況

防災 GIS 研究会の目標

- ①防災情報データベースの構築
- ②情報プラットフォームの形成
- ③GIS チームの設立と人材育成

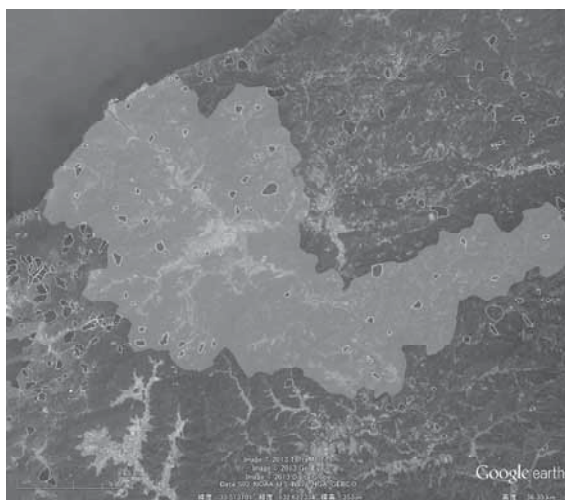
①については、国土地理院の基盤地図情報などの地図データやオルソ画像などの画像データを収集し(予算の関係で、松山市北部や大洲地域の一部)、内閣府から提供された南海トラフ巨大地震の津波などを集めます。愛媛県管内の種々の防災データや災害危険度情報を GIS で、Google Earth に載せ、だれでも見えるように KML 化する手法を開発します。②については、Google Map をベースとする「四国防災データベース」や、Google Earth をベースとする「東日本大震災」や「長崎アーカイブ」などのような、防災情報発信のためのプラットフォーム「Ehime 防災アーカイブ (仮称)」を構築します。③については、愛媛大学 GIS 研究会主催の例会、研究会をはじめ、「GIS_Day in 四国」や適宜、出前を含めた GIS 実習を実施します。

(2) 平成 25 年度の成果

以上の目標は以下のように一定程度達成しました。

① 防災情報データベース構築

GIS データ収集ならびにデータベース構築を行いました。具体的には、洪水ハザードマップ (浸水想定区域)、震度分布、津波浸水想定、土砂災害危険箇所、避難所、市役所・官公庁、紙媒体での情報提供、専用システムでの公開を行いました。

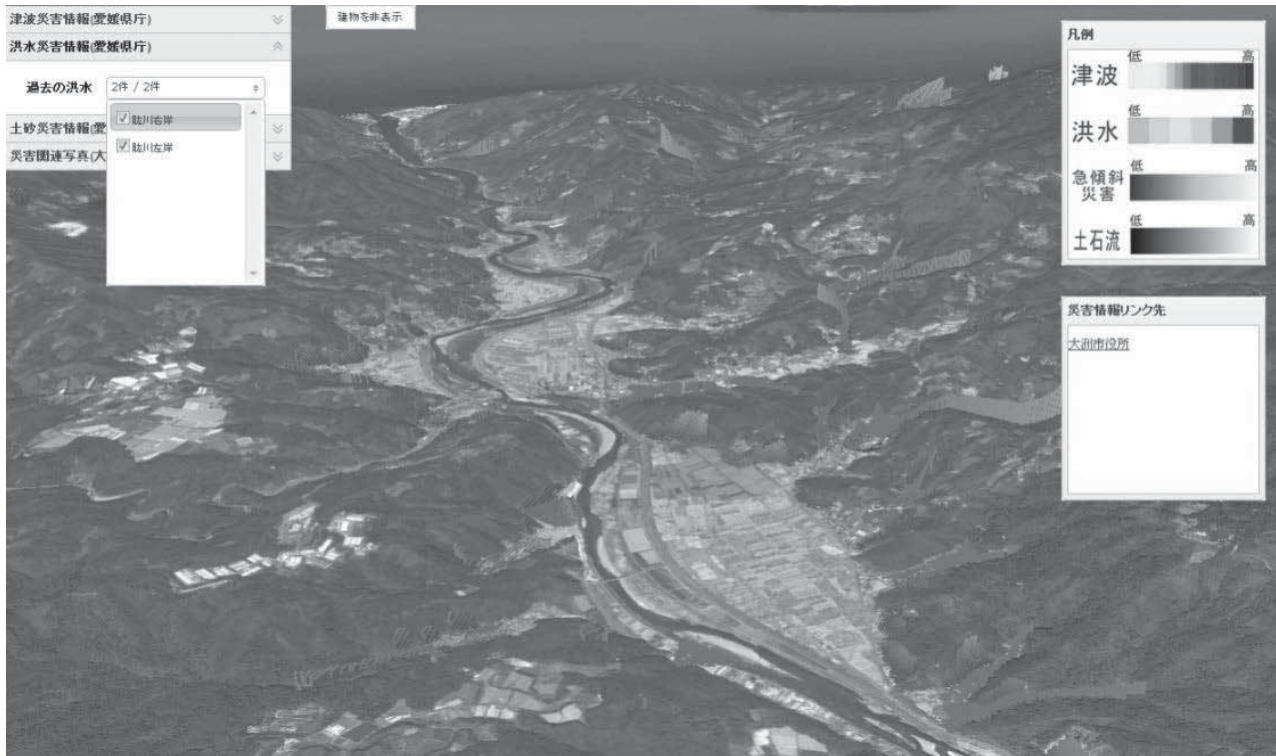


地すべり危険度マップ (大洲市)



土石流危険度マップ (大洲市)

- ② 情報プラットフォーム形成：GISデータベース活用に向けた整備を進め、防災業務への適用ならびに日常業務への適用の準備を進めました。



- ③ については、別途愛媛大学 GIS 研究会の報告の項で述べます。

2.4.2 愛媛地域防災力研究連携協議会 規約

(名称)

第1条 この協議会は、愛媛地域防災力研究連携協議会（以下「本協議会」という）と称する。

(目的)

第2条 本協議会は、愛媛大学防災情報研究センター、愛媛県、愛媛県教育委員会、愛媛県内市町が連携し、国の機関の協力を得ながら、地域防災力に関する調査・研究、情報交換を行うことをもって、愛媛県における地域防災力の向上に寄与することを目的とする。

(構成)

第3条 本協議会は、別表-1に掲げる委員をもって構成する。

2 本協議会には、会長および副会長2名を置く。

3 会長および副会長の任期は、3年とする。

(選任)

第4条 会長は、愛媛大学防災情報研究センター長をもって充てる。

2 副会長は、別表-1の第4号委員の中から会長が指名する。

(職務)

第5条 会長は、本協議会を代表して会務を処理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があった場合、会長に代わり会務を処理する。

(招集)

第6条 本協議会は、会長が招集する。

(研究会)

第7条 地域防災力向上の課題を解決するため、調査・研究・情報交換活動を行う別表-2に掲げる研究会を設置する。

2 研究会は、委員の推薦する者で構成する。

3 研究会の活動期間は、3年とする。ただし、継続を妨げない。

(えひめ防災フォーラム)

第8条 県民の防災意識の啓発ならびに研究会活動の成果報告のため「えひめ防災フォーラム」を毎年8月下旬に開催する。

(事務局)

第9条 事務局を、愛媛大学防災情報研究センター内に置く。

別表-1

第1号委員（大学関係）

愛媛大学防災情報研究センター長

第2号委員（国関係）

国土交通省四国地方整備局企画部長

第3号委員（県関係）

愛媛県民環境部長，愛媛県土木部長，愛媛県教育委員会副教育長

第4号委員（市町関係）

松山市長，今治市長，宇和島市長，八幡浜市長，新居浜市長，西条市長，大洲市長，伊予市長，
四国中央市長，西予市長，東温市長，上島町長，久万高原町長，松前町長，砥部町長，内子町長，
伊方町長，松野町長，鬼北町長，愛南町長

別表-2

避難問題研究会，自主防災研究会，防災教育研究会，自治体業務継続計画研究会，防災GIS研究会

2.5 災害現地調査・調査報告会

2.5.1 2013年淡路島地震調査速報会

愛媛大学防災情報研究センターは、4月18日（木）15時30分から情報メディアセンターメディアホールにおいて、「2013年淡路島地震被害調査速報会」と題した速報会を開催し、地方自治体職員、建設企業関係者、学生、留学生等100名が参加しました。

はじめに、竹田副防災情報センター長からあいさつ及び講師紹介があり、引き続き大学院理工学研究科生産環境工学専攻土木施設工学・防災情報研究センター森伸一郎准教授から淡路島で震度6弱を観測した地震が発生、4月13日と14日の2日間、現地で被害調査を実施した結果、橋脚に複数の亀裂があることを発見したとの報告を行いました。特に、14日午前を訪れた洲本市にある斜張橋・洲浜橋で、橋脚に複数の亀裂があることを最初に発見、亀裂は2メートルを超えるものもあり、地震で橋げたに水平方向の力が加わったことで起きたとの説明を行いました。また、今後、地震や強風などで、橋げたがずれる可能性もあり、通行人らの安全確保のために、対策が必要であることを地方自治体の職員に伝えたとの報告が併せてありました。

会場は、多数の報道機関が参加し、終了後30分間報道関係向けの取材を受けるなど、熱気溢れる速報会となりました。



森准教授による報告

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

共 催：地盤工学会四国支部愛媛県地盤工学研究会

日 時：平成25年4月18日（木） 15:30～17:00

会 場：愛媛大学総合情報メディアセンターメディアホール

参加者：100人

プログラム：

講演題目

「2013年淡路島地震調査報告」

愛媛大学大学院理工学研究科准教授 森 伸一郎

2.5.2 台風18号被害（京都・嵐山）及び突風災害（越谷市）被災地調査報告会

愛媛大学防災情報研究センターは、10月4日（金）14時から社会連携推進機構2階の研修室において、市民向け講座「被災地調査報告会」を開催し、市民など20名の参加がありました。

副センター長の竹田正彦教授から9月に発生した台風18号による（京都・嵐山）水害や関東地方で

発生した突風被害について、現地の被害状況の調査を行うとともに、有効な減災対策等についての説明がありました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

日 時：平成 25 年 10 月 4 日（金） 14:00～15:00（講演および質疑応答含む）

会 場：愛媛大学社会連携推進機構 2 階 研修室

参加者：20 名

プログラム：

「被災地調査報告 台風 18 号災害（京都・嵐山），および 9 月 2 日突風災害（越谷市）」

愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 竹田 正彦

2.5.3 伊予灘の地震速報会

3 月 14 日未明に発生した伊予灘の地震を受け、愛媛大学防災情報研究センターは、3 月 25 日（火）15 時 30 分から愛媛大学社会連携推進機構 2 階研修室において一般市民向けの講演会を開催し、一般市民、各自治体危機管理担当職員ら 45 名の参加がありました。

森理工学研究科准教授は、震度 5 強が観測された西予市を中心に行った現地調査結果から、目立った被害はなかったが、今後想定される地震への予行練習と自覚し、各組織や地域等で話し合っただけで避難してほしいと説明しました。また、竹田防災情報研究センター副センター長は、愛媛県内にある国土交通省の各事務所による施設点検活動とその結果を示しながら、今回の地震では迅速な対応がなされていたことを報告しました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

共 催：地盤工学会四国支部愛媛県地盤工学研究会

日 時：平成 26 年 3 月 25 日（火） 15:30～16:30

会 場：愛媛大学社会連携推進機構 2 階 研修室

参加者：45 名

プログラム：

開会挨拶

防災情報研究センター長 矢田部 龍一

「地震被害とその影響」

愛媛大学大学院理工学研究科准教授 森 伸一郎

「各組織の防災対応について」

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦

2.6 四国防災八十八話研究会

愛媛大学防災情報研究センターは、愛南町ならびに愛南町教育委員会と連携して、四国防災八十八話感想文コンクール表彰式及び作品発表会を、平成 26 年 3 月 16 日に御荘文化センターで開催しました。厳正な審査の上、小学校の部、中学校の部それぞれ最優秀賞 1 編，優秀賞 2 編が表彰されました。受賞した児童生徒は、それぞれの作文を、保護者などの多くの参加者を前に堂々と発表しました。この子供たちが地域の将来を担う人材となり、地域防災の柱になってくれる日も近いことと期待されます。

平成 25 年度の入賞者は下記のとおりです。

最優秀賞	小学校の部	愛南町立福浦小学校	2 年	後藤	愛純	
	中学校の部	愛南町立一本松中学校	3 年	鈴木	理湖	
優秀賞	小学校の部	愛南町立家串小学校	6 年	宮下	魁伸	
		愛南町立平城小学校	5 年	岩崎	夏海	
	中学校の部	高知県立宿毛市愛媛県立南宇和郡愛南町				
		篠山小中学校組合立篠山中学校	2 年	立石	唯	
		愛南町立御荘中学校	1 年	益田	謙志郎	

入賞作品は、(<http://cdmir.jp/download/>) にアップしています。

2.7 愛媛大学 GIS 研究会

2.7.1 愛媛大学 GIS 研究会総会・研究会

日 時：平成 25 年 6 月 27 日（木）15：00～17：00

主 催：愛媛大学 GIS 研究会

会 場：愛媛大学社会連携推進機構 2 階研修室

参加者：14 名

プログラム：

総 会 司会 愛媛大学理工学研究科 助教 ネットラ プラカシュ

報 告 平成 24 年度活動報告

議 事 平成 25 年度活動予定について

コメント「ESRI ジャパンの GIS day の取り組みについて」

ESRI ジャパン ソリューション営業グループ課長 浅川 筆勇

講 演 「愛媛大学での GIS 活動－防災 GIS, 海外支援 GIS について」

愛媛大学防災情報研究センター客員教授 山岸 宏光

「愛媛県の遺跡 GIS」 愛媛大学 農学部 3 回生

和田 壮平

「ESRI ジャパンの GIS クラウドサービス の最新情報について」

ESRI ジャパン 技術推進グループ部長・東京大学非常勤講師 大橋 真

2.7.2 GIS 実習

日 時：平成 25 年 8 月 1 日（木）10：00～17：00

会 場：愛媛大学総合情報メディアセンター 4 階 第 4 演習室

主 催：愛媛大学 GIS 研究会

プログラム：

実習名 ArcGIS Desktop 体験コース

開催日時 平成 25 年 8 月 1 日（木）13:00～17:00

開催場所 愛媛大学 メディアセンター2 階 メディア講習室

講師 ESRI ジャパン(株) プロダクトマーケティンググループ 外崎 宣宏

受講者数 11 名

実習の内容 ①ArcMap の基本操作 ②データ表現 ③データ加工 ④検索と解析 ⑤データ編集

⑥プレゼンテーション ⑦ラスターデータの作成 ⑧地形解析 ⑨統計分析

⑩ 傾向分析 ⑪適地選定

所感（村岡准教授）

防災GIS研究会ならびに愛媛大学関係者のGIS操作技術の習熟を目的として、8/1(木)に愛媛大学メディアセンターにてGIS実習を開催しました。参加者は大学関係者7名、行政関係者2名、その他2名の総勢11名でした。実習は、講師にESRI ジャパン株式会社 外崎氏を招き、GISソフトの概要

と有用性についての解説が最初に行われ、続いて、ソフトの使用方法についての講習が実習形式で行われました。サンプルデータとわかりやすいテキストに講師から適宜解説が加えられ、非常に理解しやすい実習でした。

2.7.3 平成25年度 GIS day in 四国

日時：平成25年11月19日（火）10:00～17:00

主催：愛媛大学 GIS 研究会，愛媛大学

共催：国土交通省国土地理院四国地方測量部，（一社）地理情報システム学会

後援：愛媛大学地域創成研究センター，（社）地理情報システム学会

協賛：ESRI ジャパン（株），（株）古今書院

参加者：21名

プログラム：

午前（セミナー）社会連携推進機構 2階 研修室

開会挨拶 愛媛大学 GIS 研究会 代表

山岸 宏光

「GISによる東日本大震災被災者の行動解析」

新潟大学大学院医歯学総合研究科 助教 菖蒲川 由郷 氏

「地理空間情報事業に関わる地域企業の取り組みと今後の展望について」

（株）五星 副社長

神原孝行 氏

午後（GIS実習）メディアセンター2階メディア演習室 参加者 22名

ArcGIS for Desktop Basic 10（基本ソフト・Spatial Analyst・3D Analyst）

Google Earth EXCEL 基盤地図情報の使い方など

講師 ESRI ジャパン(株) コンサルティングサービスグループ 課長 中 雅明 氏

本実習では、愛媛大学メディアセンターに設置されている ArcGIS for Desktop Basic（旧 ArcView）を使用し、ハンズオン形式（受講者に、実際にソフトを操作していただきながら行う実習）により実施しました。ArcGIS for Desktop の基本操作、ArcGIS エクステンション（Spatial Analyst・3D Analyst）を活用した実習も行いました。また、基盤地図情報や Google Maps など、一般に公開されている地図データを背景図として利用する方法についても実習しました。最後に、南海トラフ巨大地震を題材にして、内閣府が公開している震度や液状化の予測データを Map に重ねあわせて見る方法などについて実習しました。

愛媛新聞 2013年11月20日 朝刊

地理情報 防災活用を 愛媛大研究会がセミナー

電子地図と各種データを組み合わせる地理情報システム(GIS)をテーマにしたセミナーが、松山市文京町の愛媛大で開かれた。研究者や企業関係者が、災害時の避難行動分析や防災への活用事例などを紹介した。

愛媛大GIS研究会などが主催。新潟大大学院地理学総合研究所の藤川由紀助教は、東日本大震災の東北3県で、被災者約12万人を基に同大が行った市内の離れた自治体とした避難行動分析を基にした平均避難距離が、岩手県が22キロ、秋田県が20キロ、福島県が18キロと、東北自動車道や幹線道路、新幹線などが整備され、古里へのアクセスが便利になったことが、避難行動の大きな要因になっていると説明した。

先を練って結ぶ地図をどう政策決定の重要な資料にするか、という岩手県盛岡市での被災者へのアンケート調査や、住民健康比較調査や、分市マップについても話した。(森田康裕)

■四国総合通信局がICTを取り組む紹介

ICTを取り組む紹介するウェブサイトを四国総合通信局は19日に、同局のホームページに掲載した。住居の取り組みについての「部務課」電話189(089)5010。

平成 25 年 11 月 20 日付 愛媛新聞



実習風景

2.8 要援護者避難支援研究会

平成 25 年度は、災害から要援護者とともに避難するイメージを高めるための避難シミュレータの開発を行いました。具体的には、国土区空間データを活用し、全国で活用できる基本データを整備しました。基本データとは、国土空間データから対象地域の建物データ、道路データをダウンロードするものです。次に、世帯情報や要援護者情報、避難経路、避難場所、避難困難箇所等は、行政・住民が地域の実状に応じて修正可能な機能を付与します。地震火災シミュレータについては、二神が開発した動的システムを提供します。津波・浸水については、時系列で災害状況を視覚化するシステムを提供します。土砂災害からの避難に関しては、安全な避難経路・避難場所を想定するシステムを提供します。これら、地域で想定される災害から、要援護者の個別計画と避難行動をイメージし、動的に避難するための避難シミュレータを開発しました。開発したシステムを提供することによって、全国で、地域固有の災害から犠牲者を出さないためのイメージと対策に活用して頂きたいと考えています。災害から命を守るためには、想定外を組み込んだ防災対策、避難計画が重要であると考えています。そのためには、地域で起こりうる災害を住民がイメージできること、そして、地域で避難できない要援護者を地域で支えて避難するイメージを高めることが効果的だと考えています。特に、地震時の火災延焼シミュレータを香川県丸亀市の木造密集市街地で、地元住民に地震火災リスクを見て頂いた後、連合自主防災会が結成され、地域の住民意識が大きく変わったと自主防災会長から報告を受けています。また、河川氾濫や津波を想定した避難訓練も積極的に行われています。地域で起こりうる災害を具体的に、ダイナミックに見ることで住民の意識が大きく変わります。しかし、避難行動に結びつかなければ、命を守ることができません。そのために、各種災害から避難するイメージを高めるための避難シミュレータは、災害時の臨機応変な避難行動に繋がると考えています。

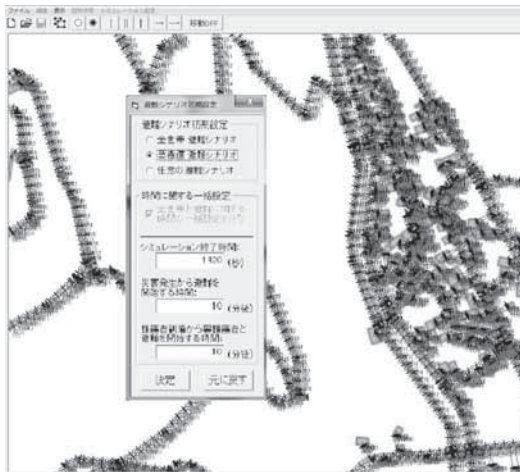


図1 要援護者の設定

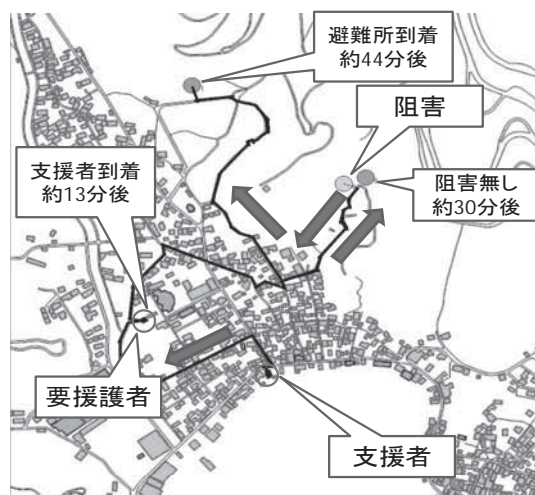


図2 避難シミュレータの実行

2.9 社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座(試行講座)

2.9.1 はじめに

(1)社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)とは

社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)とは、新たな社会資本の整備に加え、既存社会資本の維持管理・補修の計画・設計・実施技術を習得し、地域の活性化に貢献する人材です。

(2)社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座とは

社会インフラの老朽化の進行、社会インフラの再生を担う技術者の不足に対応すべく、行政職員ならびに民間企業技術者を対象として、長期的視点から地域の核となる維持管理の専門家を育成する社会人再教育プログラムです。

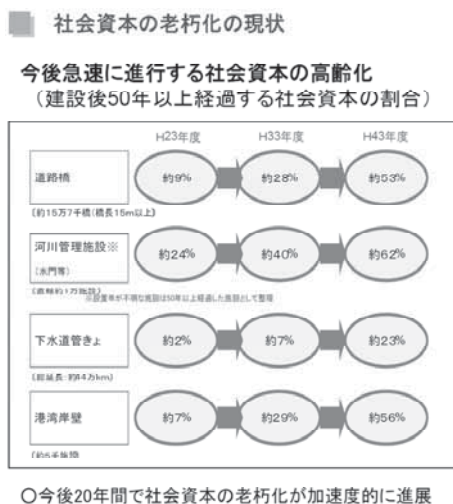
本講座を通じて、既存社会資本の維持管理・補修の計画・設計・実施に関する高度な技術を習得した技術者を毎年、一定人数養成することです。

2.9.2 愛媛大学における社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座について

(1)社会インフラ老朽化に対する地域の核となる専門技術者の養成

高度経済成長期に集中的に整備された社会資本が更新の時期を迎えつつあります。他方、公共事業を取り巻く環境は厳しさを増し、効率的かつ戦略的な施設の維持管理方法が求められています。

国土交通省によると、建設後50年以上経過した道路橋は平成33年度には28%、排水機場、水門等では40%にものぼり、インフラの老朽化が劇的に進行します。また、東日本大震災だけでなく、各地で猛威を振るう自然の厳しさに対して、利便性だけでなく安全な社会資本の重要性が認識されつつあります。



【出典】社会資本の老朽化対策会議(平成25年1月21日)

資料1「社会資本の老朽化対策会議」の設置について

(http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/point/sosei_point_mn_000003.html)

ところが、老朽化インフラが増加する一方で、インフラ再生を担う技術者が圧倒的に不足しています。

さらに自然環境，要求性能などに対応するインフラ整備の多様化もあり，技術が細分化されつつあります。

他方，俯瞰した総合力を有する技術者が減少しており，技術の伝承と発展の継続に大きな問題が立ちだかっています。

これらの課題を解決すべく，今こそ長期的視野に立って地域の核となる専門家を養成します。

愛媛大学が社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座を開講する狙いはまさにここにありません。

(2)安全・安心な社会を下支えする「地域のインフラ再生を担う中核的人材」育成

愛媛大学社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座では，社会インフラのアセットマネジメントならびに長寿命化の観点に立って，俯瞰的なものの見方ができると同時に社会基盤の“目利き”と適切な維持管理を担うことができる技術者を養成します。

また，愛媛や四国における地震災害や豪雨災害を念頭に防災に関しても地域の核となる技術者として育成します。

さらに，インフラ老朽化の劇的進行と，インフラ再生を担う技術者の圧倒的な不足に対して，産官学の垣根のない「技術と知識に基づく人的ネットワーク」を構成し，立場の枠を超えたコミュニケーションの実現を目指す考えです。

将来的には，次のような技術者の育成や取り組みを目指しています。

- ・実践知(実務経験)と形式知(技術理論と倫理観)を併せ持った技術者
- ・発注者と受注者が同等の技術／知識レベルを持って対等な事業の取り組み
- ・どの地域でも適応可能な基礎技術とそれを応用できる知識
- ・地域に根ざした技術者の育成(絶対数の確保)

(3)社会基盤メンテナンスエキスパート (ME) 養成講座の内容

各科目は，座学(講義)⇒演習⇒フィールドワーク(現地見学)を基本としています。

数年後の実施を目標に，全 120 コマ(90 分/コマ)を予定しています。1 日 5 コマとした場合，24 日間であり，平日講義の場合で 5 週間程度の期間となります。なお，平成 26 年度以降の数カ年間では 10 日間 48 コマの講座を予定しています。

講師陣は，愛媛大学環境建設工学科教員ならびに愛媛大学防災情報研究センター教員に加え，国・県などから学外専門家を講師として招く予定です。

社会基盤メンテナンスエキスパート資格認定は，論文試験と面接試験(プレゼンテーション)により行います。

2.9.3 平成 25 年度の取り組み

愛媛大学では平成 25 年度の事業実施期間中に下表に示す項目を実施しました。

表 愛媛大学平成 25 年度事業実施予定

	予定項目	概要	実施時期
1	平成 25 年度事業内容の検討	岐阜大学との連携，プロジェクト推進内容の確認／10 月後半から 12 月末まで／毎週打合せ・内容確認	平成 25 年 10 月 4 日～
2	地域の聞き取り調査	愛媛県ならびに愛媛県内市町，国，民間団体への聞き取り調査，養成講座実施に向けた打合せ・協議	平成 25 年 10 月 7 日 ～11 月 5 日
3	協議会設立	人材育成のための地域推進協議会の設立ならびに 愛媛地域定着化及びカリキュラム検討委員会の設立	<ul style="list-style-type: none"> ・愛媛メンテナンス推進協議会準備会(平成 25 年 11 月 8 日) ・愛媛地域定着化及びカリキュラム検討委員会(平成 25 年 11 月 14 日) ・愛媛メンテナンス推進協議会設立(平成 26 年 1 月 9 日)
4	試行講座準備	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の内容，カリキュラムの検討(コアカリキュラムとローカルカリキュラムの作成，養成講座の趣旨，目的及び講座内容の確認) ・ME 養成試行講座の内容，カリキュラム，講師の検討 	平成 25 年 10 月 4 日～
5	試行講座開講ならびに講演会開催	平成 25 年度講座の開講	平成 26 年 1 月 7 日 ～9 日
6	試行講座振り返り	受講者にアンケートを実施し，受講者による評価を整理	平成 26 年 1 月 10 日～
7	他地域取り組み事例調査	岐阜大学，長崎大学などの視察等	随時
8	平成 26 年度カリキュラム検討	平成 26 年度のカリキュラムの作成と確認	平成 26 年 1 月 10 日～

2.9.4 施行講座の内容

3日間にわたり、下記のカリキュラムで講座を開講しました。

月日	時間	講座名	講師	備考	
H26/1/7(火)	1 コマ目 (8:30 ～10:00)	ガイダンス(30分)	矢田部, 吉井(愛媛大)	ガイダンス終了後, 続けて座学を実施	
		地盤構造物の維持管理(60分)	山下(愛媛大), 須賀		
	2 コマ目 (10:20 ～11:50)	地盤構造物の維持管理「のり面の維持管理(のり面の基本, のり面の維持管理, 崩壊の実態, 事例演習)」	山下(愛媛大), 須賀		
		3 コマ目 (12:40 ～14:10)	アセットマネジメント概論「ストックマネジメントの取り組み」		小橋(国総研)
	4 コマ目 (14:30 ～16:00)	アセットマネジメント概論「河川構造物の維持管理」	杉原(国総研)		
5 コマ目 (16:20 ～17:50)	本日のとりまとめ	吉井, 山下(愛媛大)			
H26/1/8(水)	1 コマ目 (8:30 ～10:00)	橋梁の維持管理(補修補強)	全(愛媛大)	橋梁の維持管理の座学を実施	
	2 コマ目 (10:20 ～11:50)	橋梁の維持管理	高橋(愛媛県)		
	3 コマ目 (12:40 ～14:10)	アセットマネジメント概論(ライフサイクルコスト及び演習)	倉内(岐阜大)	岐阜大学から講師を招いて, 座学を3コマ実施。また, 最後のコマでは岐阜大学修了生による講座紹介	
	4 コマ目 (14:30 ～16:00)				
	5 コマ目 (16:20 ～17:50)				
H26/1/9(木)	1 コマ目 (8:30 ～10:00)	フィールドワーク「(主)松山伊予線 中川原橋」	森(愛媛大), 高橋(愛媛県)		愛媛県管理の現場で実地研修を実施。また, その結果について大学に戻って“振り返り”を実施。
	2 コマ目 (10:20 ～11:50)				
	3 コマ目 (12:40 ～14:10)	フィールドワークのとりまとめと発表	森(愛媛大)		
	4 コマ目 (14:30 ～16:00)	<講演会>『愛媛と四国のインフラを守る人材育成プロジェクト～選択と集中による橋/トンネル/道路の老朽化対策～』 14:30～14:35 開会挨拶 愛媛大学防災情報センター 矢田部龍一センター長 14:35～15:05 講演「社会インフラ管理におけるデータベースの役割」 国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部 鳥居部長 15:05～15:35 講演「社会基盤の現状と今後の取り組み」 国土交通省四国地方整備局 石井企画部長 15:35～16:05 講演「愛媛県社会基盤の現状と今後の取り組み」 愛媛県土木部 田村土木部長 休憩 16:05～16:15 講演「岐阜大学のME養成講座について」 岐阜大学社会資本アセットマネジメント技術研究センター 小林室長 16:15～16:45 講演「愛媛と四国のインフラを守る人材育成講座について」 愛媛大学工学部環境建設工学科 吉井学科長			
				5 コマ目 (16:20 ～17:50)	

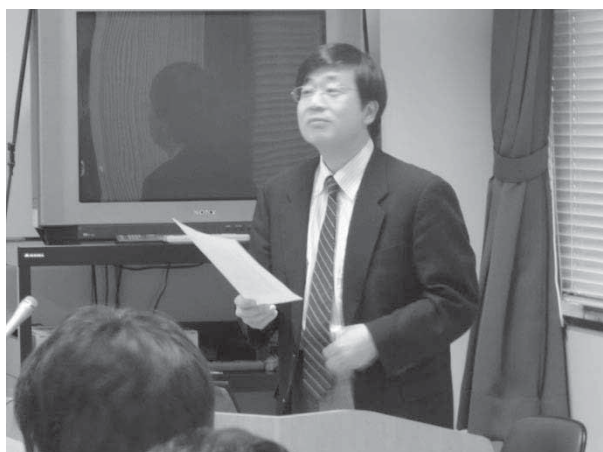
試行講座の様子は以下のとおりです。



矢田部愛媛大学防災情報研究センター長挨拶



吉井工学部環境建設工学科長 試行講座説明



吉井工学部環境建設工学科長 試行講座説明



「のり面の維持管理」 愛媛大学 山下教授



「のり面の維持管理」芙蓉コンサル 須賀講師



「のり面の維持管理」の講座の様子

試行講座 3 日目(平成 26 年 1 月 9 日(木))に実施したフィールドワークの様子は以下のとおりです。



「フィールドワーク」愛媛県の橋梁概要説明



愛媛大学 森講師による演習説明



愛媛大学 森准教授による点検の詳細方法 実演



グループによる点検検討

講演会(平成 26 年 1 月 9 日(木))の様子は以下のとおりです。



国総研 鳥居部長



石井企画部長



田村土木部長



小林先生



吉井先生



社会基盤 ME 養成試行講座修了証授与

2.9.5 長期的(将来的)な内容

数年後の実施を目標に、全 120 コマ(90 分/コマ)を予定しています。1 日 5 コマとした場合、24 日間であり、平日講義の場合で 5 週間程度の期間となります。

講師陣は、愛媛大学環境建設工学科教員ならびに愛媛大学防災情報研究センター教員に加え、国・県などから学外専門家を講師として招く予定であります。

社会基盤メンテナンスエキスパート資格認定は、論文試験と面接試験(プレゼンテーション)により行います。

2.9.6 平成 26 年度以降の取り組み予定

平成 26 年度以降の数カ年間では 10 日間 48 コマの講座を予定しています。

なお、開講時期ならびに日程割りは関係機関と調整の上、平成 26 年 4 月以降に公表予定であります。

講師陣は、愛媛大学環境建設工学科教員ならびに愛媛大学防災情報研究センター教員に加え、国・県などから学外専門家を講師として招く予定であります。

2.10 西日本高速道路（株）四国支社との平成 25 年度連携推進会議

日 時：平成 26 年 3 月 6 日（木）15：00～17：30

場 所：愛媛大学社会連携推進機構 2 階研修室

参加者：委員（愛媛大学 3 名，西日本高速道路（株） 5 名）

陪席（愛媛大学 8 名，西日本高速道路（株） 5 名）

1. 研究連携課題の状況報告について

(1) 高速道路盛土直下における空気注入工法の野外実験完了報告：富田 雄一

国土強靱化から大切な取り組みであります。液状化対応は、ほっておけないがまだ単価が高いです。高圧力、飽和領域の許容、比抵抗モニタリングコストダウン、部分施工などで工夫が必要であるとの報告があり、費用コストに関する意見がありました。

(2) 微生物を利用した補修工法における多析出可能な配合の検討：河合助教

ウレアーゼは高価なので酢酸カルシウムを使用しました。浸透水試験は 20%の低減を確認しました。今後は析出量の上昇と反応時間短縮を検討したいと考えています。湿度管理が重要で温度管理はありません。今回湿度を保つためラップしていただくと報告がありました。



(3) 交通事故リスク情報の提供：吉井教授

マスコミに対して高速道路と一般道路における事故と安全性の周知が大切です。アンケート内容を NEXCO は活用してはどうかとの話題提供がありました。

(4) 画像解析による種々のインフラ損傷評価手法：全助教

クラックの有無を白黒の正規分布で分け、最も黒の確率データをクラックとしてその延長にある黒であろう確率データをクラックとしてデータを抽出します。スス、蜘蛛の巣の区分に苦慮しています。成果としてほぼ完成で今後はエンジと研究達成について協議を進めていきます。従来の画像解析は目視です。0.2mm まで解析可能であるとの報告がありました。

2. 話題提供

(1) 西日本高速道路株式会社四国支社

①高速道路資産の長期保全及び更新，国土強靱化，成長戦略などからニーズを提供：羽田野課長

三会社で 3 兆円，四国は一次防食アンカー，トンネルインバートがメインであるとの報告がありました。

②点検向上WGにおける問題点：紙田課長

アセットマネジメントは検討したが失敗しました。四国では，電気防食は実施していないな

どの現状報告がありました。

(2) 愛媛大学

① 「コンクリート橋のヘルスマニタリングの基準値研究」：森准教授

ヘルスマニタリング→問題点は荷重の自動計測などコストダウン，振動特性をどう健全度（補修判断）します。修判断時期に向けて是非共同研究をお願いなどの報告がありました。

② 「社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座実施報告」：村岡准教授

NEXCOにも、是非協力を要請したいと考えています。特に講師と現場提供をお願いします。また、日程は、H26.9-10月に5+5=10日間の講座を行うとの報告がありました。

2.11 その他の講演会等

2.11.1 市民向け講演会「インドネシアと日本の懸け橋として」

愛媛大学防災情報研究センターは、4月12日（金）14時から社会連携推進機構2階研修室において、「インドネシアと日本の架け橋として」と題した市民向け講演会を開催し、市民、学生、留学生等52名が参加しました。

はじめに、矢田部防災情報研究センター長からあいさつ及び講師紹介があり、引き続き元愛媛大学留学生で現在インドネシア福助工業で勤務しているシギト・ウイドド氏からインドネシア（ジャワ島）の現況（交通・文化・産業）を映像を用いてユニークな紹介がありました。



また、ジャカルタの交通・ゴミ・教育の諸問題にふれ、シギト氏が関わっているインドネシアの子どもたちへの日本語、日本文化及環境等の指導を通して、子どもたちが夢を持てる、やる気溢れる、努力が

報われる社会をつくる、きっかけを作りたいと抱負を述べられました。併せて企業内においても、夢を持てる従業員の育成をコンセプトに活動しているとの報告がありました。

参加者からは従業員のやる気を起こさせるアイデアについての質問やインドネシアの自然・文化・教育・産業等の諸問題について、多数の意見交換があるなど、和気藹々の雰囲気の中で講演会が実施されました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

共 催：地盤工学会四国支部愛媛県地盤工学研究会

日 時：平成25年4月12日（金）14:00～16:00

会 場：愛媛大学産学連携推進機構2階研修室

参加者：52名

プログラム：

「インドネシアと日本の懸け橋として」

元愛媛大学留学生(現インドネシア福助工業) シギト・ウイドド 氏

2.11.2 市民向け講演会「愛媛大学と JICA が繋ぐ日本とホンジュラス、そして日本とネパール」

愛媛大学防災情報研究センターは、4月19日（金）に社会連携推進機構研修室において25名の参加を得て標記の講演会を開催しました。

本センター客員教授の廣田清治氏に、「JICA シニアボランティアが見たホンジュラスの地すべり防災」と題する講演で、日本とホンジュラスの2国間（政治、経済、文化等）の関係、ホンジュラスの地すべ

り災害の概要、それと地すべり防災に向けての日本の技術支援の有効性などについて多くの写真を用いて説明頂きました。

愛媛大学の元留学生の **Bhusal** 氏に、「ネパールと日本の懸け橋としての元愛媛大学留学生と元 JICA 研修生の活動」と題する講演で、日本で学んだ経験と知識をもとに日本とネパールの懸け橋として展開している様々な活動について、国際色豊かに説明頂きました。参加者一同、興味深い話題に熱心に耳を傾けていました。なお、**Bhusal** 氏は、会員数が 1000 名を超えるネパール最大の日本関連の組織であるネパール JICA 研修生同窓会の事務局長を務めており、今後の活躍が大いに期待されます。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

共 催：地盤工学会四国支部愛媛県地盤工学研究会

日 時：平成 25 年 4 月 19 日(金) 15:00～16:30

会 場：愛媛大学社会連携推進機構 2 階 研修室

参加者：40 名

プログラム：

「JICA シニアボランティアが見たホンジュラスの地すべり防災」

愛媛大学防災情報研究センター客員教授 廣田清治

「ネパールと日本の懸け橋としての元愛媛大学留学生と元 JICA 研修生の活動」

General Secretary JICA Alumni Association of Nepal

Dr. Ram Chandra Bhusal

2.11.3 講演会「9.11 テロ時の救援者の長期フォローアップ研究」

平成 25 年 5 月 16 日(金)南加記念ホールで、防災情報研究センター主催の市民向け講演会「9.11 テロ時の救援者の長期フォローアップ研究－東日本大震災救援者の長期健康管理の重要性－」を開催しました。

講演会には、一般市民、本学学生、専門学校学生ら約 100 人の参加がありました。講師のマウントサイナイ医科大学のマイケル・クレイン准教授から 9.11 同時多発テロの犠牲者のメンタルヘルス、主に精神科領域の疾患の治療について、ドキュメンタリーの動画や多くの写真を用いた説明がありました。特に、クレイン准教授が研究しているマウントサイナイ医科大学災害病院における活動報告では、9.11 同時多発テロで被災者の救援に当たった消防士、救護を担当した看護師、警察官等 3000 人を 9 年間調査した報告として、被災者の面談、胸部 X 線、血液検査、肺活量の検査等を実施した結果、ぜんそく、副鼻腔炎、逆流性食道炎等の身体的な症状がある方とうつ状態、パニック障害、PTSD などの精神的な症状がある方との相関が強いこと、また面談後すぐに治療が必要な被災者や少なからず何らかの疾患があると判断できる被災者が多数いたなどの報告がありました。

参加者は、凄まじい 9.11 の当時の写真やクレイン准教授の講演を興味深く聞きながら、東日本大震災救援者の長期健康管理の重要性について再認識させられる講演会となりました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

後 援：愛媛県医療対策課

日 時：平成 25 年 5 月 16 日（木）10:30～11:30

会 場：愛媛大学南加記念ホール

参加者：100 名

プログラム：

「9.11 テロ時の救援者の長期フォローアップ研究

－東日本大震災救援者の長期健康管理の重要性－

Michael Crane, MD, MSc ウントサイナイ医科大学 准教授

Director of World Trade Center Health Program

(9.11 世界貿易センターテロ被災者長期健康管理統括研究者)

逐語通訳 愛媛大学英語教育センター 中井 富紀

2.11.4 防災情報研究センター地盤防災に関する講演会

防災情報研究センターは、7月でネパールに帰国する、客員准教授の Dahal Ranjan 氏からネパールにおける地盤防災の研究成果報告などの講演をしていただき、防災関係者、一般市民、本学学生ら約 35 名の参加がありました。

Dahal Ranjan 氏は、2011 年 7 月から学術振興会の外国人特別研究員として来学され、主としてヒマラヤ地域の斜面における地盤防災を中心に研究を行ってきました。講演では、GIS を用いたネパールにおける豪雨時、地震時の地すべりのハザード評価について、力強く説明され、帰国後ネパールにおいて、地質学を学生に指導していきたいとの抱負を述べられました。

また Dahal Ranjan 氏の指導教員であった香川大学工学部教授長谷川修一氏は「南海トラフの巨大地震において、大規模な土砂災害などが、どの程度危険なのか、今後検討が必要である。」と訴えました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

後 援：地盤工学会四国支部愛媛県地盤工学研究会

日 時：平成 25 年 6 月 25 日（火）14:00～15:35

会 場：愛媛大学社会連携推進機構 2 階 研修室

参加者：35 名

プログラム：

開会挨拶

「Geo-disaster Research Progress in Nepal and Regional Scale GIS

Approach to Landslide Hazard Assessment」

(ネパールの地盤防災研究の進歩と地域的規模における GIS 地すべりハザード評価)

ネパール国立トリブバン大学准教授

愛媛大学 JSPS 外国人特別研究員、防災情報研究センター客員准教授

Dahal Ranjan Kumar

「降雨と地震による斜面災害を予測する」 香川大学工学部 教授 長谷川 修一 氏

2.11.5 「南海トラフ巨大地震に関する講演会防災に関する講演会

～自分は大丈夫だと油断していませんか～

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 26 年 2 月 5 日（水）14 時から南加記念ホールにおいて、「南海トラフ巨大地震に関する講演会～自分は大丈夫だと油断していませんか～」を開催し、一般市民、自治体職員、消防関係者など約 200 名の参加がありました。

講演に先立ち、松山市主催の学生による政策論文において最優秀賞を受賞した本学教育学部学生 8 名から、受賞論文「コミュニケーションによる松山防災プロジェクト」の紹介がありました。学生らは、自助・共助の希薄などの問題点を指摘した上で、女性からの視線で改善策を提案していました。講演では、愛媛県防災局危機管理監の薬師寺隆彦氏から「愛媛県地震被害最終報告について」と題した講演があり、愛媛県が独自に試算した被害想定を紹介がありました。



政策論文受賞報告会の様子

また、本学防災情報研究センターの森准教授及び二神准教授が「被害の具体的なイメージを描いてどう避難すべきか考えてほしい」と訴えました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

共 催：地盤工学会四国支部愛媛県地盤工学研究会

日 時：平成 26 年 2 月 5 日(水) 14：00～16：00

場 所：愛媛大学南加記念ホール

参加者：200 名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

「愛媛県地震被害想定最終報告について」

愛媛県県民環境部防災局危機管理監 薬師寺 隆彦 氏

松山市主催 第 15 回学生による政策論文 最優秀賞受賞報告会

「コミュニケーションによる松山防災プロジェクト」

愛媛大学教育学部の学生

「被害想定のうちとりかた」

愛媛大学大学院理工学研究科准教授 森 伸一郎

「南海トラフ巨大地震に備えた取り組み事例について」

愛媛大学防災情報研究センター准教授 二神 透

閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター

村岡 治道

2.12 防災情報研究センターニュース

本年度は、53件のメルマガ配信を行いました。3月末時点の登録者数は、1107名です。
 メールマガジン配信希望の方は、センターHPからお申し込みください。また、バックナンバーも
 センターHPで公開しています。

防災情報研究センター ホームページ <http://cdmir.jp/>

日付	号	タイトル
2013. 4. 1	285	<案内>市民向け講演会「インドネシアと日本の懸け橋として」開催について
2013. 4. 15	286	<案内>愛媛大学防災情報研究センター平成24年度活動報告会の開催について
2013. 4. 15	287	<案内>「2013年淡路島地震調査速報会」開催について
	288	<報告>市民向け講演会を開催しました
2013. 4. 17	289	<案内>市民向け講演会「愛媛大学とJICAが繋ぐ日本とホンジュラス、そして日本とネパール」
2013. 4. 19	290	<報告>2013年淡路島地震被害調査速報会を開催しました
2013. 4. 22	291	<報告>市民向け講演会「愛媛大学とJICAが繋ぐ日本とホンジュラス、そして日本とネパール」を開催しました
2013. 4. 24	292	<挨拶>防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦/准教授 村岡 治道
2013. 4. 30	293	<案内>「9.11テロ時の救援者の長期フォローアップ研究」講演会開催のご案内
2013. 5. 17	294	<報告>講演会「9.11テロ時の救援者の長期フォローアップ研究」を開催しました
	295	<報告>防災情報研究センター平成24年度活動報告会を開催しました
2013. 6. 3	296	<案内>平成25年度愛媛大学GIS研究会総会・講演会の開催について
2013. 6. 21	297	<案内>防災情報研究センター講演会開催について
2013. 6. 27	298	<報告>防災情報研究センター地盤防災に関する講演会を開催しました
2013. 6. 27	299	<案内>えひめ防災フォーラム2013を開催します
2013. 7. 11	300	<案内>防災講演会「災害リスクへの向き合い方」の開催について
2013. 7. 22	301	<案内>重信川の自然をはぐくむ会より「開発霞（かすみの森公園）で昆虫採集」のお知らせ
2013. 7. 22	302	<案内>学術講演会「工学者が発展途上国の貧困削減に取り組む～「土のう」による住民との道直し～」を開催します
2013. 7. 22	303	<案内>えひめ防災フォーラム2013【追加情報】
2013. 7. 30	304	<案内>えひめ防災フォーラム2013〈追加情報 No.2〉
2013. 8. 2	305	<案内>防災講演会「災害リスクへの向き合い方」の開催について
2013. 8. 5	306	<案内>えひめ防災フォーラム2013〈追加情報 No.3〉
2013. 8. 12	307	<案内>えひめ防災フォーラム2013〈追加情報 No.4〉
2013. 8. 21	308	<報告>えひめ防災フォーラム2013を開催しました
2013. 8. 23	309	<案内>愛媛CATV「えひめ防災フォーラム2013」放送決定
2013. 9. 2	310	<報告>木下誠也教授が土木学会建設マネジメント委員会論文賞を受賞
2013. 9. 18	311	<案内>第4回愛媛大学ホームカミングデイを開催します
2013. 10. 1	312	<案内>被災地調査報告会を開催します
2013. 10. 7	313	<報告>台風18号被害（京都・嵐山）及び突風災害（越谷市）の被災地調査報告会を開催しました
2013. 10. 8	314	<案内>「GIS Day in 四国 2013」開催のご案内
2013. 10. 17	315	<案内>セミナーのご案内
2013. 10. 29	316	<挨拶>新任挨拶 防災情報研究センター 教授 山下 祐一
2013. 10. 31	317	<案内>「防災キャラバンin鬼北」開催のご案内
2013. 12. 2	318	<報告>「防災キャラバンin鬼北」を開催しました
2013. 12. 9	319	<案内>社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座 講演会のご案内
2014. 1. 6	320	<挨拶>メールマガジンご愛読の皆様へ
2014. 1. 7	321	<案内>「防災キャラバンin西条」開催のご案内

2014. 1. 17	322	<案内>「南海トラフ巨大地震に関する講演会～自分は大丈夫だと油断していませんか～」開催のご案内
2014. 1. 17	323	<報告>松山市第15回「学生による政策論文」最優秀賞受賞
2014. 1. 20	324	<報告>学位論文公聴会を開催します／松山市防災シンポジウムが開催されました
2014. 1. 20	325	<報告>防災キャラバンin西条を開催しました
2014. 1. 27	326	<案内>「防災キャラバンin四国中央市」開催のご案内
2014. 2. 12	327	<報告>南海トラフ巨大地震に関する講演会を開催しました
2014. 2. 13	328	<報告>防災キャラバンin四国中央市を開催しました
2014. 3. 3	329	<報告>ホンジュラスの斜面災害とJICAボランティア活動 その1
2014. 3. 5	330	<案内>「防災キャラバンin上島町」開催のご案内
2014. 3. 10	331	<報告>ホンジュラスの斜面災害とJICAボランティア活動 その2
2014. 3. 17	332	<報告>ホンジュラスの斜面災害とJICAボランティア活動 その3
2014. 3. 18	333	<案内>「2014年3月14日伊予灘の地震調査速報会」を開催します
2014. 3. 24	334	<報告>ホンジュラスの斜面災害とJICAボランティア活動 その4
2014. 3. 26	335	<報告>「2014年3月14日伊予灘の地震調査速報会」を開催しました
2014. 3. 31	336	<報告>防災キャラバン in 上島町を開催しました/中米ホンジュラスの斜面災害とJICAボランティア活動 その5
2014. 3. 31	337	<挨拶>一般社団法人四国クリエイト協会による寄付講座「東南海・南海地震研究部門」の設置期間が満了となりました／寄付講座「東南海・南海地震研究部門」教員の退任にあたって

3. センターが受け入れた研究活動

3.1 受託研究

(1) 平成 25 年度水域生物を指標とした瀬切れ河川影響評価検討

(契約先：四国地方整備局，研究者：矢田部・三宅，契約金額：2,625,000 円)

内容：瀬切れの期間・区間の拡大が水域に生息する生物にどのような影響を及ぼしているのか調査することを目的としており，瀬切れと河川流量の実態調査及び魚類・底生動物等の水域に生息する生物の生育・生息・繁殖環境におよぼす影響に着目し，瀬切れ期間・区間の拡大が魚類等の水域に生息する生物に重大な影響を与えているかを調査検討しました。

(2) 平成 25 年度肱川管理方策検討業務

(契約先：国土交通省大洲河川国道事務所，研究者：門田，契約金額：6,573,000 円)

内容：今後の河川管理の高度化に資するために，河道の土砂管理を行う上で基礎資料となる洪水時の土砂動態，過去に実施された浮子流量観測のデータの精度検証について検討しました。

(3) 科学的・社会的好奇心を刺激する自発的減災活動の推進

(契約先：文部科学省，研究者：森，契約金額：2,999,991 円)

内容：全国の大学等における理学・工学・社会科学分野の防災研究の成果を一元的に提供するデータベースを構築するとともに，大学等の防災研究の成果の展開を図り，地域防災・減災対策への研究成果の活用を促進します。

(4) 史跡「宇摩向山古墳」地盤安定性調査業務

(契約先：四国中央市，研究者：矢田部，契約金額：189,000 円)

内容：史跡「宇摩向山古墳」に係る基礎調査結果を踏まえて行う，当該史跡の地盤特性を把握し，必要な保護措置を検討するための分析調査します。

(5) 大震時火災リスクシミュレータの提供と地域消防におけるルール形成の支援研究

(契約先：消防庁，研究者：二神，契約金額：2,709,000 円)

内容：幹線道路を対象とした道路網の信頼性評価システムを改良し，細街路を含めた区画道路網の信頼性評価システムを構築します。それを活用した事前消防力評価システムにより道路整備計画の検討と住民自主避難計画の検討を行います。それにより住民自らが，自らの命を守るための地域消防のルール作りと，自助・共助・公助に向けての役割行動の明確化，消防避難訓練の計画支援を行うことを目的とします。

(6) 地域ニーズに応えるインフラ再生技術者育成のためのカリキュラム設計

(契約先：岐阜大学（文科省再委託），研究者：吉井，契約金額：8,361,358 円)

内容：各成長分野における取り組みを先導する産学官連携コンソーシアムおよび職域プロ

プロジェクトを組織化し、産業界等のニーズを踏まえた人材養成策の策定、各分野における教育の質の向上・保証の仕組みづくり、社会人等が学びやすい学習システムの導入促進（「学習ユニット積上げ方式」によるアクセスしやすい学習環境の提供等）に関する取組を展開します。

3.2 共同研究

(1) 九州及び中部地方を給源とする火山灰の岩石学的研究

(契約先：(株)四国総合研究所，研究者：榊原，契約金額：1,100,000 円)

内容：これまで検討してきた四国西部に分布する火山灰について、その供給源を調べるために、供給源地域の火山灰について、地質学的・岩石学的研究を実施します。

(2) 高速道路盛土地盤の液状化対策に関する研究

(契約先：西日本高速道路(株)，研究者：岡村，契約金額：4,989,000 円)

内容：空気注入工法の高速道路盛土地盤への適用性について設計・施工面ならびに維持管理面の観点からその有効性を研究します。

3.3 研究助成金

(1) 中小建設業の維持に配慮した建設生産システムのあり方に関する研究

(契約先：(財)国土技術研究センター，助成金額：2,000,000 円)

(2) 重信川を舞台とした自然再生事業の啓発と保全活動の展開

(契約先：(財)河川財団，助成金額：900,000 円)

(3) 南海トラフ巨大地震等に備えた災害情報の統合化及び情報提供体制の高度化に関する研究

(契約先：(財)河川財団，助成金額：1,200,000 円)

(4) 四国の高速道路緊急開口部を活用した山間部孤立対策・救援支援のための搬送シュミレータ開発

(契約先：公益信託 NEXCO 関係会社高速道路防災対策等に関する支援基金，
助成金額：2,276,000 円)

(5) 災害時における行政機関の防災業務システム等の高度化に関する研究

(契約先：(財)日本建設情報総合センター，助成金額：1,240,000 円)

3.4 寄附金

(1) 寄附研究部門「東南海・南海地震研究部門」

(契約先：(一社)四国クリエイト協会，助成金額：120,000,000 円)

設置期間：平成 22 年 10 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

(2) その他

(株) アースコンサルタント, (株) 愛媛建設コンサルタント, (株) シアッテク, 日本プロテクト(株), (株) 荒谷建設コンサルタント, (株) パスコ, 愛媛県建設技術支援センター, 大成建設(株)

4. センター教員による研究・地域貢献活動

矢田部 龍一

社会貢献活動：

1. 2013.4.16：宇和島市と愛媛大学の更なる連携の推進をめざして：愛媛大学：愛媛大学宇和島エクステンション開所式：宇和島産業未来創造センター：50名
2. 2013.6.14：豊かさについてともに語ろう：南海放送白熱教室：南海放送：愛媛大学総合情報メディアセンター・メディアホール：120名
3. 2013.6.28：地域防災の柱は女性の温かい思いやり：松山市婦人防火クラブ研修会：松山市：松山消防庁舎：80名
4. 2013.6.18：日本を取り巻く昨今の情勢：NPO 日本環境土木工業会総会特別講演：NPO 日本環境土木工業会：ホテル・メトロポリタンエドモント：70名
5. 2013.6.24：愛媛大学の地域連携の取り組みの概要：愛媛大学社会連携推進機構講演会：愛媛大学：愛媛大学南加記念ホール：100名
6. 2013.6.24：防災情報研究センターの取り組み：愛媛大学社会連携推進機構講演会：愛媛大学：愛媛大学南加記念ホール：150名
7. 2013.6.28：アベノミクスと国土強靱化論：愛媛県ジオファイバー協会総会特別講演：愛媛県ジオファイバー協会：全日空ホテル：20名
8. 2013.7.23：産官学連携が拓く愛媛の未来：松山商工会議所総会：：松山商工会議所松山商工会館：20名
9. 2013.9.5：巨大自然災害に備える：愛南町教育委員会：愛南町防災教育推進協議会研修会：御荘文化センター：30名
10. 2013.9.24：南海・東南海地震に備えた病院・スタッフの防災対策：伊予病院職員研修会特別講演会：伊予病院：伊予病院会議室：150名
11. 2013.10.17：文系と理系の個性と役割：南海放送白熱教室：南海放送：愛媛大学総合情報メディアセンター・メディアホール：120名
12. 2013.10.22：知っていますか 南海トラフ巨大地震：愛媛県看護協会研修会：愛媛県看護会館：200名
13. 2013.10.29：松野町における南海トラフ巨大地震による被害想定：松野町防災教育推進協議会研修会：松野町教育委員会：松野町山村開発センター：20名
14. 2013.11.5：重信川自然再生事業 10年の取り組み：自然再生シンポジウム in 四国：重信川の自然をはぐくむ会：愛媛大学南加記念ホール：180名
15. 2013.11.14：鬼北町における南海トラフ巨大地震による被害想定：鬼北町防災教育推進協議会研修会：鬼北町教育委員会：鬼北町中央公民館：200名
16. 2013.12.1：迫り来る大規模自然災害の時代に備える：鬼北町防災キャラバン：愛媛大学&鬼北町：鬼北町立近永小学校屋内運動場：250名
17. 2014.2.16：パネルディスカッション：命を守る～住民の防災意識を高めるために今何をすべきか～：松山市防災士シンポジウム：松山市：松山市総合コミュニティセンター・カメラシアホール：800名

18. 2014.2.16：宇和海の防災-南海地震への備え-：愛媛大学社会連携推進機構水産イノベーションスキル
修得講座：愛媛大学：愛媛大学宇和島エクステンション：25名
19. 2014.2.16：公民学が連携したこれからの松山のまちづくり：平成25年度まちづくりフォーラム：松
山市：NPB日銀前ビル第1会議室：150名
20. 2014.3.2：総合防災対策：平成25年度松山市防災士研修会：松山市消防署：松山市消防庁舎：150
名
21. 国土交通省四国地方整備局事業評価監視委員会：委員長
22. 国土交通省四国地方整備局国地方整備局道路防災有識者
23. 国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所国道32号猪ノ鼻道路中央構造線対策委員会：委員
24. 国土交通省四国地方整備局山鳥坂ダム工事事務所鹿野川ダム施工技術向上委員会：委員長
25. 愛媛県防災会議：委員
26. 愛媛県環境審議会：部会長、委員
27. 愛媛県教育委員会学校防災教育推進委員会：委員長
28. 愛媛県教育委員会学校防災アドバイザー
29. 愛媛県建設工事総合評価審査委員会：委員
30. 愛媛県松山地方局宿泊客災害時対応指針検討会：会長
31. 松山市下水道事業経営審議会：副会長
32. 松山市北条鹿島野生鹿検討委員会：委員
33. 松山市土壌汚染対策専門委員
34. 松山市石手川ダム水源地域ビジョン推進委員会：委員長
35. 松山市石手川ダム水源地域ビジョン推進連絡協議会：会長
36. 新居浜市教育委員会新居浜市防災教育連絡協議会：アドバイザー
37. 大洲市大洲城跡石垣保存修復委員会：委員
38. 愛南町愛南町防災教育連携協力協議会：副会長
39. 愛南町愛南町防災教育推進懇談会：委員
40. 【JST】日本-中国-韓国「地球規模課題、及び北東アジア地域で重要な課題」研究交流事業等事後評
価委員
41. えひめ産業振興財団：理事
42. 愛媛県国際交流協会：副理事長
43. (公財)えひめ地域政策研究センター：評議員
44. (一社)四国クリエイト協会四国災害アーカイブス事業検討委員会：委員
45. 重信川の自然をはぐくむ会：会長
46. 特定非営利活動法人愛媛県建設技術支援センター：理事
47. NPO日本環境土木工業会えひめ支部：支部長
48. 財団法人防災研究協会非常勤研究員
49. 西日本高速道路株式会社四国支社入札監視委員会：委員
50. (株)パスコ愛媛県地震被害想定調査検討委員会：委員長

論文・研究発表:

1. Pathak DR, Yatabe R, Bhandary NP, 2014. Identification of major factors affecting spatial and temporal variation of water quality in Kathmandu Basin, Nepal using multivariate statistical analysis, *International Journal of Water* (In press).
2. Timilsina M, Bhandary NP, Dahal RK, Yatabe R, 2014. Distribution probability of large-scale landslides in central Nepal, *Geomorphology* (In press)
3. Acharya KP, Yatabe R, Bhandary NP, Dahal RK, 2014. Deterministic slope failure hazard assessment in a model catchment and its replication in neighbourhood terrain, *Geomatics, Natural Hazards and Risk*, DOI: 10.1080/19475705.2014.880856
4. Dixit AM, Yatabe R, Guragain R, Dahal RK, Bhandary NP, 2014. Non-structural earthquake vulnerability assessment of major hospital buildings in Nepal, *Georisk: Assessment and Management of Risk for Engineered Systems and Geohazards*, 8(1):1-13 (Online 2013.6, DOI 10.1080/17499518.2013.805629)
5. Ngadisih, Bhandary NP, Dahal RK, Yatabe R, 2014. Integration of statistical and heuristic approaches for landslide risk analysis: a case of volcanic mountains in West Java Province, Indonesia, *Georisk: Assessment and Management of Risk for Engineered Systems and Geohazards*, 8(1): 29-47 (Online 2013.8, DOI 10.1080/17499518.2013.826030)
6. Dahal RK, Bhandary NP, Hasegawa S, Yatabe R, 2013. Topo-stress based probabilistic model for shallow landslide susceptibility zonation in the Nepal Himalaya *Environmental Earth Sciences*, Springer Berlin Heidelberg, Online 2013.9, DOI 10.1007/s12665-013-2774-4
7. Shrestha HD, Subedi J, Yatabe R, Bhandary NP, 2013. The impact of retrofitting work on awareness raising and knowledge transfer in Aceh Province, Indonesia, *Int. J. Disaster Risk Sci.* 4 (4): 182-189, DOI:10.1007/s13753-013-0019-5
8. Bhat DR, Bhandary NP, Yatabe R, 2013. Residual-state creep behavior of typical clayey soils. *Nat Hazards*, 69(3): 2161-2178. (IF=1.639)
9. Bhat DR, Yatabe R, Bhandary NP, 2013. Study of preexisting shear surfaces of reactivated landslides from a strength recovery perspective, *J. of Asian Earth Sciences*, 77: 243-253. (IF=2.379)
10. Bhat DR, Bhandary NP, Yatabe R, 2013. Effect of shearing rate on residual strength of kaolin clay, *Electronic J. of Geotech. Eng.*, 18(G): 1387-1396. (IF=1.212)
11. Tuladhar G, Yatabe R, Dahal RK, Bhandary NP, 2013. Knowledge of disaster risk reduction among school students in Nepal, *Geomatics, Natural Hazards and Risk*, Online first 2013.7, DOI 10.1080/19475705.2013.809556
12. Bhandary NP, Dahal RK, Timilsina M, Yatabe R, 2013. Rainfall event-based landslide susceptibility zonation mapping, *Nat Hazards*, 69:365-388, DOI 10.1007/s11069-013-0715-x
13. Dixit AM, Yatabe R, Dahal RK, Bhandary NP, 2013. Initiatives for earthquake disaster risk management in the Kathmandu Valley, *Nat Hazards*, 69 (1): 631-654 (Online 2013.5, DOI 10.1007/s11069-013-0732-9, IF=1.639)

14. Dixit AM, Yatabe R, Dahal RK, Bhandary NP, 2013. Public school earthquake safety program in Nepal, *Geomatics, Natural Hazard and Risk* (Taylor and Francis, America-based international journal), pp.1-27, Online 2013.6, DOI:10.1080/19475705.2013.806363
15. Pathak DR, Yatabe R, Bhandary NP, 2013. Statistical analysis of factors affecting groundwater quality in shallow aquifer of Kathmandu, Nepal, *International Journal of Water Research*, 1(1): 12-20. (http://urpjournals.com/tocjnls/48_13v1i1_3.pdf)
16. Timilsina M, Bhandary NP, Dahal RK, Yatabe R, 2013. Typical morphometric and geological characteristics of large-scale landslides in central Nepal, *Journal of Nepal Geological Society*, Vol. 45, (Sp. Issue), pp.36-48.
17. Bhandary NP, Yatabe R, Paudyal YR, 2013. Sediment deposit profiling through estimation of ground natural period: a case of Kathmandu Valley Nepal, *Proc. International Symposium on Earthquake Engineering*, 2011.11, Tokyo, Japan Association for Earthquake Engineering, pp.
18. Tiwari RC, Bhandary NP and Yatabe R, 2013. Application of spectral element method for Stability evaluation of Nuta-Yone Landslide in Shikoku, Japan, *Proc. 11th International Symposium on Mitigation of Geodisasters in Asia, MGDA-11*, 22-28 October 2013, Kathmandu and Pokhara, Nepal, pp.107-108.
19. Bhandary NP, Paudyal YR, Dahal RK, Yatabe R, 2013. Seismic damage risk evaluation through ambient ground vibration survey in Kathmandu Valley, *Advances in Geotechnical Infrastructure* (eds: CH Leung, SH Goh, RF Shen), *Proc. 18th Southeast Asian Geotechnical Conference*, 29-31 May 2013, Singapore, Geotechnical Society of Singapore, pp.943-949.
20. Tiwari RC, Bhandary NP, Yatabe R, Dahal RK, 2013. Simplified numerical implementations in current slope instability computations, *Advances in Geotechnical Infrastructure* (eds: CH Leung, SH Goh, RF Shen), *Proc. 18th Southeast Asian Geotechnical Conference*, 29-31 May 2013, Singapore, Geotechnical Society of Singapore, pp.561-566.
21. Bhat, DR, Bhandary, NP, Yatabe, R, 2013. Method of residual-state creep test to understand the creeping behavior of landslide soils. *Proc. The 2nd World Landslide Forum, Landslide Science and Practice*, C. Margottini et al. (eds.), 2:635-642, Springer Berlin Heidelberg, ISBN 978-3-642-31444-5 (DOI 10.1007/978-3-642-31445-2_83)
22. Dhakal, S, Bhandary, NP, Yatabe, R, Kinoshita N, 2013. Finite element modelling and parametric analyses of a long-span pocket-type rockfall interceptive cable-net structure. *Proc. The 2nd World Landslide Forum, Landslide Science and Practice*, C. Margottini et al. (eds.), 6:597-605, Springer Berlin Heidelberg, ISBN 978-3-642-31318-9 (DOI 10.1007/978-3-642-31319-6_76)
23. Deepak R Bhat, ネトラ P.バンダリ, 矢田部龍一 (2013). Effect of discontinued shearing on residual strength of clayey soil materials, 地盤工学会四国支部平成 25 年度技術研究発表会・講演概要集, pp. 7-8.
24. Matebie Meten, ネトラ P.バンダリ, 矢田部龍一 (2013). Application of GIS-based fuzzy overlay approach for landslide susceptibility mapping in Selelkula area, Jema river gorge, central

- Ethiopia, 地盤工学会四国支部平成 25 年度技術研究発表会・講演概要集, pp. 83-84.
25. Kiran P Acharya, ネトラ P.バンダリ, 矢田部龍一 (2013). Preparation and replication of a deterministic slope failure hazard model in small catchments, 地盤工学会四国支部平成 25 年度技術研究発表会・講演概要集, pp. 91-92.
 26. Acharya KP, Yatabe R, Bhandary NP, Dahal RK (2013). Evaluation of porewater pressure development in topographic hollows in rainfall-induced slope failures, 第 48 回地盤工学研究発表会, 富山市, 平成 25 年 7 月 23 日～26 日, pp.2035-2036.
 27. Tiwari RC, Bhandary NP, Yatabe R (2013). Stability charts for vegetated and barren slopes in 3D spectral element framework, 第 48 回地盤工学研究発表会, 富山市, 平成 25 年 7 月 23 日～26 日, pp.1885-1886.
 28. Ngadishih, Bhandary NP, Yatabe R (2013). Logistic regression and artificial neural network models for regional-scale landslide susceptibility mapping in volcanic mountains of West Java (Indonesia), 第 48 回地盤工学研究発表会, 富山市, 平成 25 年 7 月 23 日～26 日, pp.2031-2032.
 29. Bhat DR, Bhandary NP, Yatabe R (2013). Experimental study of strength recovery from residual strength of landslide soils, 第 48 回地盤工学研究発表会, 富山市, 平成 25 年 7 月 23 日～26 日, pp.2033-2034.
 30. 上岡興仁, バンダリ・ネトラ・P., 矢田部龍一, ランジャン・クマル・ダハル (2013). GIS を用いたネパール低ヒマラヤ地域における斜面災害のリスク評価, 平成 25 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会, 平成 25 年 5 月 11 日, 松山市 (愛媛大学), 講演概要集 pp117-118.
 31. 岡本有希加, バンダリ・ネトラ・P., 矢田部龍一, 猪飼桃加 (2013). 粘性土の残留状態におけるクリーブ型直接せん断破壊に関する研究, 平成 25 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会, 平成 25 年 5 月 11 日, 松山市 (愛媛大学), 講演概要集 pp157-158.
 32. Acharya KP, Yatabe R, Bhandary NP, Dahal RK (2013). Seepage and slope stability modeling of rainfall-induced slope failures, 平成 25 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会, 平成 25 年 5 月 11 日, 松山市 (愛媛大学), 講演概要集 pp129-130.
 33. Bhat DR, Bhandary NP, Yatabe R (2013). Residual-state creep behavior of clayey soils, 平成 25 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会, 平成 25 年 5 月 11 日, 松山市 (愛媛大学), 講演概要集 pp155-156.
 34. Endalew, MM, Bhandary NP, Yatabe R (2013). GIS Based Frequency Ratio for Landslide Susceptibility Mapping in Debre Sina Area, Central Ethiopia, 平成 25 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会, 平成 25 年 5 月 11 日, 松山市 (愛媛大学), 講演概要集 pp127-128.
 35. Ngadishi, Bhandary NP, Yatabe R (2013). Hazard and vulnerability assessment for landslide risk mapping: a case of west Java Province, Indonesia, 平成 25 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会, 平成 25 年 5 月 11 日, 松山市 (愛媛大学), 講演概要集 pp119-120.

高橋 治郎

社会貢献活動：

1. 2013.5.21「南海トラフ巨大地震と防災訓練」 平成 25 年度防災トーク (約 30 名)
2. 2013.5.28「火事と地震にどう備えるか」 平成 25 年度愛媛大学城北地区(教育学部)消防訓練 講話 (約 70 名)
3. 2013.9.1「大災害時を想定した訓練の必要」2013. 9.1 桑原地区防災訓練 (約 150 名)
4. 2013.10.3「地域を知ることが防災」西谷小学校「家庭教育学級」 (約 120 名)
5. 2013.11.14「自然災害から身を守るためには」 愛媛大学教育学部と今治市教育委員会との連携による講演会 (約 150 名)
6. 2013.11.23「大地震の被害, 土居町の状況と備えについて」土居町根々見自主防災会, 防災講演会(約 50 名)
7. 2013.11.29「南海トラフ地震について」平成 25 年度技術講習会 (約 120 名)
8. 2013.12.6「南海トラフ巨大地震への対応」愛媛県消防学校警防課講演 (17 名)
9. 2013.12.8 「四国中央市の地震予測と中央構造線が動くか, 南海地震・津波予想と対策」四国中央市土居町久保自主防災会講演会 (約 70 名)
10. 2013.12.13「学校における防災教育」防災気象講演会～気象災害と防災教育を考える～(約 200 名)
11. 2014.1.11「地震などの自然災害にどう備えるか？」平成 25 年度 第 2 回 赤十字救急法等指導員研修会(約 140 名)
12. 2014.1.23「命を守る防災」平成 25 年度 第 2 回愛媛県特別支援学校 PTA 連絡協議会講演(約 60 名)
13. 2014.2.26「南海トラフ巨大地震にどう備えるか」松山市桑原地区まちづくり協議 運営支援委員会 講演会(32 名)
(学校・教育機関関係)
1. 2013.5.10 松山市立東中学校「「職業科」 地形・地質から地球を知る」講師
2. 2013.6.20 おもしろ理科出前教室「地震や津波で死なないために」講師
3. 2013.7.21-22 愛媛県立松山南高等学校 平成 25 年度 SSH 事業「四国・関西研修」(四国地質巡検) 講師
4. 2013.8.2 愛媛大学附属高等学校「平成 25 年度 2 年生夏季高大連携プログラム」講師
5. 2013.8.3 平成 25 年度青少年防災キャンプ 東予教育事務所 講師
6. 2013.10.3 園児・児童の引き渡し訓練 東温市立西谷幼稚園・小学校 講師
7. 2013.10.8 愛媛大学養育学部と今治市教育委員会との連携による研究授業への指導と助言及び講話 今治市教育委員会・上浦中学校 講師
8. 2013.10.9 東温市防災教育推進連絡会議における防災講話「学校防災の在り方」と指導 講師・アドバイザー
9. 2013.11. 15. 砥部町防災教育推進連絡協議会 講師・アドバイザー
10. 2013.11. 18 平成 25 年度 松山市防災推進連絡協議会 講師・アドバイザー
11. 2013.12. 14 科学イノベーション挑戦講座 愛媛大学 講師
(防災にまつわるマスコミ関係)

1. 2013.5.28 愛媛朝日テレビ
2. 2013.6.11 愛媛朝日テレビ
3. 2013.7.1 愛媛朝日テレビ
4. 2013.7.11 愛媛朝日テレビ
5. 2013.8.24 南海放送ラジオ
6. 2013.8.26 NHK 松山放送局
7. 2013.9.5 愛媛朝日テレビ
8. 2013.9.11 愛媛朝日テレビ
9. 2013.9.12 毎日新聞
10. 2013.12.15 愛媛新聞
11. 2013.12.16 愛媛新聞

(各種委員会委員等)

1. 松山市防災会議
2. 伊方原子力発電所環境安全管理委員会原子力安全専門部会
3. 伊方原子力発電所環境安全管理委員会
4. 愛媛県海岸施設等津波対策検討委員会
5. 西条市道前平野地下水資源調査研究委員会
6. 西条市防災対策研究協議会
7. 松山市道後温泉活性化計画審議会
8. 国道33号三坂地区事前通行規制区間検討委員会
9. 学校防災アドバイザー
10. (重信川) 河口ワーキング部会
11. 重信川流域学識者会議
12. 愛媛県総合科学博物館協議会
13. 愛媛県土壌汚染調査・対策検討委員会
14. 重信川の自然をはぐくむ会
15. 愛媛県環境審議会
16. 愛媛県環境審議会 温泉部会

論文・研究発表：

1. 高橋治郎, 来る南海トラフ地震に備える, 愛媛の地学研究, 17巻1号, 1-5, 2013. 6
2. 岡崎 晃・高橋治郎, 愛媛大学における火災への備え, 愛媛大学教育実践総合センター紀要, 31号, 1-8, 2013.7
3. 高橋治郎, 防災教育について, 愛媛大学教育学部紀要, 60巻, 143-151, 2013.10
4. 高橋治郎, 「日本書紀」にみる天武の南海地震, 愛媛の地学研究, 17巻2号, 7-9, 2013.12

竹田 正彦

社会貢献活動：

1. 2013.5.10：「自然災害 近年の地震と地震災害」：警防科研修：愛媛県消防学校
2. 2013.5.22：「頻発する自然災害」：愛媛県町村会市町職員（初級・初任者）研修：愛媛県町村会愛媛県生涯学習研修センター会議室
3. 2013.6.17：平成 25 年度第 1 回四国災害アーカイブス・ワーキング：（社）四国建設弘済会：建設クリエイティブビル
4. 2013.6.20：防災講演会：松山少年鑑別所：松山少年鑑別所
5. 2013.6.5：「頻発する自然災害」愛媛県町村会市町職員（中級）研修：愛媛県町村会：愛媛県生涯学習研修センター会議室
6. 2013.7.18：平成 25 年度第 1 回四国災害アーカイブス事業検討委員会：四国建設弘済会：建設クリエイティブビル会議室
7. 2013.7.18：平成 25 年度第 1 回「災害時の事業継続力認定」書類審査：建設 BCP 愛媛審査部会：四国建設業 BCP 等審査会愛媛県庁第 1 別館土木部会議室
8. 2013.7.22：「南海トラフ巨大地震の被害想定について」：「四国おはようネットワーク」月曜コーナー「防災ネットワーク」7:40～NHK ラジオ：NHK 松山放送局
9. 2013.7.29：「備蓄に工夫を」：「四国おはようネットワーク」月曜コーナー「防災ネットワーク」7:40～NHK ラジオ：NHK 松山放送局
10. 2013.8.20：「知事対 BCP の推進に向けて」：自治体業務継続計画研究会：防災情報研究センター：愛媛大学本部会議室
11. 2013.8.22：「土砂災害と対策」松山市防災士養成研修：松山市教育委員会：松山市保健所 6 階ホール
12. 2013.8.27：学校防災アドバイザー：久万高原町教育委員会：久万高原町立久万町民館
13. 2013.8.28：平成 25 年度第 1 回「災害時の事業継続力認定」面接審査：建設 BCPP 愛媛審査部会四国建設業 BCP 等審査会松山河川国道事務所会議室
14. 2013.8.6～：「防災について」：松山市職員危機管理研修：松山市役所 11 階大会議室
15. 2013.8.6：「巨大地震に備える」：松山西ロータリークラブ卓話：伊予鉄会館
16. 2013.8.7：「巨大地震に備える」：松山東ロータリークラブ卓話：伊予鉄会館
17. 2013.9.20：「巨大地震に備える」：道後ロータリークラブ卓話：三越 8 階レストラン
18. 2013.9.26：平成 25 年度第 1 回えひめ建設業 BCP 等審査会：愛媛県土木部県庁第二別館 5 階会議室
19. 2013.9.27：第 3 回西条市防災対策研究協議会：西条市西条市役所会議室
20. 2013.9.6：四国支部タスクフォース活動報告：土木学会全国大会研究討論会：「安全な国土への再設計」支部連合：日本大学津田沼キャンパス
21. 2013.9.6：四国支部タスクフォース活動報告：「安全な国土の再設計」土木学会支部連合タスクフォース合同会議：土木学会：土木学会会議室
22. 2013.10.22：学校防災アドバイザー：宇和島市教育委員会：宇和島市総合福祉センター
23. 2013.10.24：学校防災アドバイザー：伊予市教育委員会：伊予市教育委員会会議室

24. 2013.10.29：学校防災アドバイザー：八幡浜市教育委員会：八幡浜市保内庁舎
25. 2013.10.4：「台風 18 号被災地調査」：災害調査報告会：社会連携推進機構 2 階研修室
26. 2013.11.18：学校防災アドバイザー：松山市教育委員会：松山市立東雲小学校
27. 2013.11.30：「最近の風水害」「地震の仕組みと被害」：愛媛県防災士養成講座：愛媛県：愛媛県中予地方局会議室
28. 2013.11.7：学校防災アドバイザー：西予市教育委員会：西予市教育保健センター
29. 2013.11.9：「最近の風水害」「地震の仕組みと被害」：愛媛県防災士養成講座：愛媛県：今治市総合福祉センター会議室
30. 2013.12.12：平成 25 年度第 2 回四国災害アーカイブス事業検討委員会：四国クリエイト協会建設クリエイトビル会議室
31. 2013.12.17：平成 25 年度第 2 回えひめ建設業 B C P 等審査会：愛媛県土木部：県庁第二別館 5 階会議室
32. 2014.1.21：平成 25 年度第 2 回「災害時の事業継続力認定」書類審査：建設 BCP 愛媛審査部会：四国建設業 BCP 等審査会愛媛県庁第 1 別館土木部会議室
33. 2014.1.30：防災講演会：久万高原町教育委員会：久万高原町立久万中学校
34. 2014.1.6：学校防災アドバイザー：今治市防災教育推進連絡協議会：今治市：今治市役所第 1 別館特別会議室
35. 2014.1.6：「2014 年防災の心得」：「四国おはようネットワーク」月曜コーナー「防災ネットワーク」7:40～：NHK ラジオ：NHK 松山放送局
36. 2014.2.16：第 2 回西条市防災対策研究協議会：西条市：西条市役所会議室
37. 2014.2.19-20：平成 25 年度第 2 回「災害時の事業継続力認定」面接審査：建設 BCP 愛媛審査部会：四国建設業 BCP 等審査会：松山河川国道事務所会議室
38. 2014.3.1：「地震、大雨・洪水対策」：松山市防災研修会：松山市自主防災組織ネットワーク会議：松山市保健所・消防合同庁舎
39. 2014.3.16：第 4 回西条市防災対策研究協議会：西条市：西条市役所会議室
40. 2014.3.17：平成 25 年度第 2 回えひめ建設業 B C P 等審査会：愛媛県土木部：県庁第二別館 5 階会議室
41. 2014.9.13：九州・中国・四国地域防災に関する情報交換会：香川大学：サンポートホール高松
42. 土木学会東日本大震フォローアップ委員会 災害対応マネジメント特定テーマ委員会 幹事
43. 四国災害アーカイブス事業検討委員会 委員・幹事 ((社)四国建設弘済会)
44. 「安全な国土の再設計」土木学会四国支部タスクフォース 幹事長
45. 建設業 BCP 懇談会愛媛県部会 委員 (四国地方整備局)
46. 愛媛県建設工事総合評価審査委員会 委員 (愛媛県)
47. えひめ建設業 BCP 等審査会 委員 (愛媛県)
48. 愛媛県学校防災アドバイザー (愛媛県)
49. 西条市防災対策研究協議会 委員

松尾 芳雄

社会貢献活動：

1. 農業農村工学会農村計画研究部会常任代表幹事
2. 農業農村工学会農業農村情報研究部会運営幹事
3. 農業農村工学会代議員
4. 中国四国農政局四国土地改良調査管理事務所平成 25 年度南予用水地区環検討委員会委員長
5. 中国四国農政局四国土地改良調査管理事務所平成 25 年度道前平野地域環検討委員会委員長
6. 愛媛県建設工事総合評価審査委員
7. 愛媛県中山間ふるさと保全対策推進委員会委員長
8. 愛媛県農村環境保全向上活動検討委員会委員長
9. 愛媛県環境情報協議会委員長
10. 愛媛県松野町文化的景観調査指導委員会委員
11. 愛媛県農業大学校非常勤講師（農村社会）
12. 四国防災教育センター専門家養成事業外部評価委員会委員

論文・研究発表：

1. 松尾芳雄, 寺井詩織：昭和南海地震体験談に基づくモード行動の評価と問題；農業農村工学会大会講演会：東京都:2013.9.3

相引 眞幸

社会貢献活動：

1. Target Temperature Management of Therapeutic Hypothermia for Post-cardiac arrest patients. Mayuki Aibiki Seoul3rd Post-cardiac Arrest Symposium. 特別講演 Jan 26th 2013 182
2. 心停止後症候群に対する最新の治療 相引眞幸 松本 第 40 回日本集中治療医学会学術集会 教育講演 3月1日 2013 183
3. Bromovaleryuria improves Survival in Rat sepsis of Cecal Ligation and Puncture Model. S. Kikuchi, T. Nishihara, S. Ohtsubo, K. Umakoshi, T. Nishiyama, M. Aibiki and J. Tanaka. San Diego 36th Annual Conference on Shock, 一般口演 June 3rd 2013 184
4. Therapeutic hypothermia for post-cardiac arrest patients Mayuki AibikiTaipeiPan Asia Therapeutic Hypothermia Symposium特別講演 May 132013185
5. Cooling Methods for Hypothermia, Prognostication in Post-Cardiac Arrest Syndrome Mayuki Aibiki Taichung Taichung Therapeutic Hypothermia Symposium 特別講演 May 13 2013 186
6. Clinical Benefits of Therapeutic HypothermiaMayuki AibikiChiang Mai Hypothermia Treatment and Protocol Seminar 特別講演 May 15 2013 187
7. Therapeutic Hypothermia-Reducing Reperfusion injury, improving Neurological Outcome Mayuki Aibiki Bangkok Bangkok Therapeutic Hypothermia Symposium 特別講演 May 16 2013 188

8. Therapeutic Hypothermia-Japanese Experiences Mayuki Aibiki Bangkok 1st Target Temperature Management Symposium シンポジウム July 2013 189
9. Beneficial Effects of Therapeutic Hypothermia in PCAS patients Mayuki Aibiki Symposium of National Yong-Min University Hospital 特別講演 August 2013 190
10. Protocol of Therapeutic hypothermia for patients with PCAS Mayuki Aibiki Hat Jay Symposium of Therapeutic Hypothermia 特別講演 September 2013 191
11. Experience of therapeutic hypothermia for post-cardiac arrest patients and its future, Mayuki Aibiki, Taipei The 9th Annual Meeting of the Society of Critical Care and Emergency Medicine. 特別講演 Oct. 13th 2013 192
12. Cooling Methods and Protocol of Therapeutic hypothermia for Post-cardiac arrest patients. Mayuki Aibiki Tokyo The 7th Asian Conference of Emergency Medicine, Educational Seminar Oct. 25th 2013 193
13. 心停止後症候群における低体温療法の将来への展開 相引眞幸 松山 第31回日本集中治療医学会中国四国地方会 特別講演 Feb. 8th 2014 194

論文・研究発表：

1. Miyoshi S, Hamada H, Ito R, Katayama H, Irifune K, Suwaki T, Nakanishi N, Kanematsu T, Dote K, Aibiki M, Okura T, Higaki J Drug Design, Development and Therapy 305-316 Usefulness of a selective neutrophil elastase inhibitor, sivelestat, in acute lung injury patients with sepsis 7 2013 201
2. Mayuki Aibiki, Kensuke Umakoshi, Saori Ohtsubo, Satoshi Kikuchi, Hironori Matsumoto, Muneaki Ohshita, Soichi Maekawa and Takashi Nishiyama J Neurology and Neurophysiology 164-174 Effects of Dexamethasone on Pulmonary Oxygen Impairments in Therapeutic Hypothermia for Patients with Traumatic Brain Injury 4 2013 202
3. 馬越健介, 西山隆, 菊池聡, 大坪里織, 大下宗亮, 相引眞幸 日本臨床救急医学会雑誌 677-681 陰圧閉鎖法を用いて患肢を温存した劇症型 A 群溶血性連鎖球菌感染症による壊死性筋膜炎の 1 例 16 2013 203
4. Mayuki Aibiki, Satoshi Kikuchi, Kensuke Umakoshi, Saori Ohtsubo. Resuscitation in press Is hypothermia beneficial even for the depressed heart after the resumption of spontaneous circulation (ROSC) from out-of-hospital cardiac arrest (OHCA)? 2014 204
5. Mayuki Aibiki, Kensuke Umakoshi, Satoshi Kikuchi, Saori Ohtsubo. Crit Care Med in press Does therapeutic hypothermia improve depressed cardiac functions in post-cardiac arrest patients? 2014 205
6. 相引眞幸 今日の治療指針 47-48 蜂刺症 2013 山口徹他編 206
7. 相引眞幸, 大下宗亮, 大坪里織, 馬越健介, 菊池聡, 松本紘典, 西山隆 蘇生 91-93 心停止後症候群における低体温療法中のモニタリング 32 2013 207
8. 相引眞幸 バイオメディカル 25-27 DIC を合併した重症病態における ATIII 製剤の薬力学的検討

木村 映善

社会貢献活動：

1. 電子情報通信学会 SITE 研究会 委員
2. 愛媛県医師会 医療情報委員
3. 日本医用画像情報専門技師会 幹事
4. 特定非営利活動法人 みんなのICT 理事

論文・研究発表：

1. Murata Ken T, Watari Shinichi, Nagatsuma Tsutomu, Kunitake Manabu, Watanabe Hidenobu, Yamamoto Kazunori, Kimura Eizen, et al : A Science Cloud for Data Intensive Sciences. : Data Science Journal. : 2013 (in Printing)
2. Kuroda Tomohiro, Kimura Eizen, Matsumura Yasushi, Yamashita Yoshinori, Hiramatsu Haruhiko, Kume Naoto, et al : Applying Secret Sharing for HIS Backup Exchange. : 35th Annual International IEEE EMBS Conference : 2013(In Printing)
3. Kuroda T, Kimura E, Matsumura Y, Yamashita Y, Hiramatsu H, Kume N : Simulating Cloud Environment for HIS Backup using Secret Sharing. : Studies in health technology and informatics. : ;192:171-4. : 2013
4. Takeki Yoshikawa, Eizen Kimura, Shinji Kobayashi, Ishihara K : Verification System for Postoperative Autologous Blood Retransfusion. : Studies in health technology and informatics. : 192:p.977 : 2013
5. Kunitake M, Yamamoto K, Watari S, Ukawa K, Kato H, Kimura E, et al : Solar-Terrestrial Data Analysis and Reference System (STARS) – Its High Potentiality for Collaborative Research. : Data Science Journal : 12:WDS225-WDS8 : 2103
6. Kobayashi S, Kimura E, Ishihara K : Creating Electronic Health Records within 15 Minutes with Ruby on Rails And ISO 13606/OpenEHR Standardized Clinical Models. : Studies in health technology and informatics : 192:p.1265 : 2013
7. Eizen K, Masato S, Kazukuni K, Yoshihito N, Takuji K, Ken I : Securing SSL-VPN with LR-AKE to Access Personal Health Record. : Studies in health technology and informatics. : 192:p.930 : 2013
8. 渡邊 英伸, 黒澤 隆, 一岡 翔太郎, 木村 映善, 村田 健史, 建部 修見 : Parallel File Transfer using UDT. : 情報処理学会研究報告 : 2013 (in Printing)
9. 松井 孝文, 木村 映善, 石原 謙 : GIS ソフトと DPC データを活用した地域特性分析の試み : 診療情報管理 : 25(1):87-91 : 2013
10. 村田健史, 渡邊英伸, 山本和憲, 久保田康文, 建部修見, 田中昌宏, 木村映善,et al : Gfarm/Pwrake による NICT サイエンスクラウドの並列分散処理技法 : 情報処理学会研究報告[ハイパフォーマンスコンピューティング] : 2013(9):1-6 : 2013

11. 齋藤 英雄, 山本 仁志, 谷川 真由子, 瀬尾 哲男, 河野 聖子, 森 恵子, et al.: 課題解決へのデータ可視化モデルの構築について (物流管理における器材貼付のラベル回収及び実施入力の把握) :平成 25 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集 : 233-6 : 2014/02/13:
12. 松井 孝文, 齋藤 英雄, 大道 太一郎, 木村 映善, 石原 謙 : 電子カルテと協働する経営分析システム ~診療行為にもとづく会計情報参照のための Web 連携~:平成 25 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集 : 298-301 : 2014/02/13:
13. 木村 映善 : 総合ストレージの構築 ~階層化ストレージとオブジェクトストレージの融合~ :平成 25 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集 : 24 : 2014 2014/02/13
14. 黒田 知宏, 荒木 賢二, 奥原 義保, 木村 映善, 熊井 達, 桑 直人, et al: HIS データバックアップの基本的考え方 : 医療情報学 33(Suppl) : 98-9 : 2013
15. 黒田 知宏, 木村 映善, 松村 泰志, 山下 芳範, 平松 治彦, 桑 直人 : 秘密分散技術を用いた HIS バックアップクラウド環境の実現性評価 : 日本医療情報学 : 33(4):225-3 : 2013
16. 木村 映善, 齋藤 匡人, 高地 泰浩, 岡田 久仁子, 中登 義仁, 黒田 卓爾, et al : LR-AKE 認証と秘密分散を組み合わせた安全な医療情報共有システム : 医療情報学 33(Suppl) : 1298-301 : 2013
17. 木村 映善, 石原 謙 : セマンティクス情報を保持する microdata を利用したシステム連携の検証 : 医療情報学 33(Suppl):198-201 : 2013
18. 木村 映善 : PK-匿名化手法における情報量と精度評価 : 医療情報学 33(Suppl) : 120-3 : 2013
19. 木村 映善 : HIS の拡張・成長と OS 更新の相克は乗り越えられるか : 月刊新医療 : 40(2):92-4 : 2013
20. 木村 映善 : これからの HIS の方向性を示す : 月刊 新医療 電子カルテ&PACS 白書 2013-2014 年版:10-3 : 2013
21. 佐藤 敦, 木村 映善, 黒田 知宏 : 電子カルテバックアップデータの圧縮による秘密分散バックアップの所要時間短縮の試み : 医療情報学 33(Suppl):108-9 : 2013
22. 磯田総子, 村田健史, 渡邊英伸, 深沢 圭一郎, 山本和憲, 建部修見, 田中昌宏, 木村映善 : NICT サイエンスクラウド ~ ビッグデータ分散処理性能検証 ~ : サービスコンピューティング研究会 : 国立情報学研究所 : 2013.06.17
23. 木村映善 : レセプト研究における匿名化評価 : 「医療情報の公益利用とプライバシー保護」東京大学大学院 医学系研究科 医療経営政策学講座. : 2013 年 7 月 20 日
24. 木村 映善 : “総合ストレージの提案” ~階層化ストレージとオブジェクトストレージの融合~ : 第 33 回医療情報学連合大会 ランチョンセミナー : 2013/11/21

加藤 匡宏

社会貢献活動 :

1. 平成 25 年 5 月 16 日(木曜日)(午前 10:30-11:30) Michael Crane 准教授 招待講演会 Michael Crane, MD, MSc, マウントサイナイ医科大学 准教授(9.11 世界貿易センターテロ被災者長期健康管理統括研究者)Director of World Trade Center Health Program. (主催)愛媛大学防災情報研究センター 愛媛大学南加記念ホール 9.11 テロ時の救援者の長期フォローアップ研究—東日本大震災救援者の長期健康管理の重要性—について招待講演をいただき, 災害後医療・保健の連携と長期フォローアップ手法の管理の提言

2. 財団法人 原子力安全研究協会 委員
3. 愛媛県緊急被ばく医療ネットワーク検討会

論文・研究発表：

1. 壺井圭一,山内加奈子,加藤匡宏 A 型インフルエンザ早期発見の手がかりとなる臨床症状の調査 - 季節性インフルエンザ臨床的早期診断へのアプローチ 第 2 報 - 臨床と研究 (印刷中)

榊原 正幸

社会貢献活動：

1. 2013.6.22：カヤツリグサ科マツバイによる有害金属汚染された水・土壌のファイトレメディエーション：愛媛大学・総合地球環境学研究所 共同国際シンポジウム：愛媛大学：愛媛大学理学部講義棟 S-31：30 名
2. 2013.7.13：四国の防災と地質 -付加体地域における地質調査のポイント-：平成 25 年度日本技術士会四国支部年次大会および第 21 回 CPD セミナー：公益社団法人日本技術士会四国本部：にぎたつ会館
3. 2013.10.26：植物による放射性元素・重金属元素の除去—環境浄化技術研究の最前線：えひめ地域再生戦略研究会：愛媛大学メディアセンターメディアホール
4. 2013.11.28：マツバイによる重金属に富む坑廃水処理技術の開発：平成 25 年度第二回鉱害環境情報交換会：独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC)：JAL シティ松山：60 名
5. 環境・災害対応委員会：環境・災害対応委員：公益社団法人日本地球惑星科学連合
6. 松山市文化財保護審議会：松山市文化財保護審議会委員：松山市教育委員会
7. 松山市土壌汚染対策専門委員会：松山市土壌汚染対策専門委員：松山市環境部環境指導課
8. 四国西予ジオパーク推進協議会アドバイザー：四国西予ジオパーク推進協議会：西予市
9. 松山市環境審議会：松山市環境審議会委員：松山市環境部環境政策課
10. 2013.11.30：地質汚染-医療地質-社会地質学会奨励賞：地質汚染—医療地質—社会地質学会：「Artisanal and small scale Gold Mining in Gorontalo Utara regency, Indonesia」 Yuyu I. Arifin, Masayuki Sakakibara, Sayaka Takakura, Mohamad Jahja, Fitriane Lihawa, Marike Machmud
11. 2013.11.30：地質汚染-医療地質-社会地質学会奨励賞：地質汚染—医療地質—社会地質学会：「西南日本廃止鉱山残土堆積場における製錬スラグ風化過程の解明」末岡裕理・榊原正幸

論文・研究発表：

1. Masayuki Sakakibara, Hisanari Sugawara, Tomohiro Tsuji, Minoru Ikehara : Filamentous microbial fossil from low-grade metamorphosed basalt in northern Chichibu belt, central Shikoku, Japan : ELSEVIER : Planetary and Space Science : <http://dx.doi.org/10.1016/j.pss.2013.05.008> : 2013 年 6 月
2. 榊原正幸：放射性セシウム汚染された土壌のマツバイによるファイトレメディエーションの実用化研究：株式会社産業と環境：月刊「産業と環境」10月号：通巻 491号，61-64：2013年10月

3. Tomohiro Tsuji, Masayuki Sakakibara, Rie S. Hori : Primary relationships of basaltic intrusive rocks and siliceous sedimentary rocks in the Northern Chichibu Belt, Shikoku Island, southwest Japan : ELSEVIER : Journal of Asian Earth Sciences : Vol. 79, pp.31-41 : 2014 年 1 月
4. Yuri Sueoka, Masayuki Sakakibara : Primary Phases and Natural Weathering of Smelting Slag at an Abandoned Mine Site in Southwest Japan : MDPI : Minerals : Vol. 3, (4), 412-426 doi:10.3390/min3040412 : 2013 年 12 月
5. 榊原正幸・佐野 栄・久保田有紀・佐藤 康：福島県の水田土壌に自生するカヤツリグサ科マツバイの放射性 Cs 濃度：一般社団法人環境放射能除染学会：環境放射能除染学会誌：2014 年印刷中
6. 榊原正幸・彦田真友子・佐野 栄・世良耕一郎：カヤツリグサ科マツバイによる有害重金属汚染河川のリメディエーション：第 19 回 NMCC 共同利用研究成果発表会：岩手 2013 年 5 月 17-18 日
7. 竹原明成・榊原正幸・佐野 栄・世良耕一郎：カヤツリグサ科ハリイ属マツバイの Cs 吸収能力に関する基礎的研究：第 19 回 NMCC 共同利用研究成果発表会：岩手 2013 年 5 月 17-18 日
8. 榊原正幸・向井 董・佐藤 康・佐野 栄：カヤツリグサ科ハリイ属チャボイによる重金属汚染のリメディエーションに関する基礎的研究：第 19 回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会：京都：2013 年 6 月 13-14 日
9. 竹原明成・榊原正幸・佐野 栄：カヤツリグサ科ハリイ属マツバイの Cs 吸収能力に関する基礎的研究：第 19 回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会：京都：2013 年 6 月 13-14 日
10. Masayuki Sakakibara, Ryohei Uenosono, Sayaka Takakura : Temporal cycles in glass composition within volcanic ash from Showa Crater, Sakurajima volcano, southern Kyushu, Japan : IAVCEI 2013 Scientific Assembly : Kagoshima, Japan : July 20 - 24, 2013
11. Masayuki Sakakibara : Transdisciplinary research on mercury pollution in Northern Sulawesi, Indonesia : International Seminar and Workshop on Quality Assurance & ICT : Gorontalo, Indonesia : September 3, 2013
12. Masayuki Sakakibara : Phytoremediation of toxic heavy metal-polluted water and soils by *Eleocharis acicularis* : HNGEO2013, The International Symposium Hanoi Geoengineering 2013 : Hanoi, Vietnam, October 17-19, 2013
13. Yayu I. Arifin, Masayuki Sakakibara, Sayaka Takakura, Mohamad Jahja, Fitriane Lihawa, Marike Machmud : Artisanal and small scale Gold Mining in Gorontalo Utara regency, Indonesia : 第 23 回環境地質学シンポジウム：つくば市：2013 年 11 月 29-30 日
14. 末岡裕理・榊原正幸：西南日本廃止鉱山残土堆積場における製錬スラグ風化過程の解明：第 23 回環境地質学シンポジウム：つくば市：2013 年 11 月 29-30 日
15. 末岡裕理・榊原正幸：西南日本廃止鉱山残土堆積場に廃棄された製錬スラグの風化プロセス：第 13 回日本地質学会四国支部総会・講演会：愛媛：2013 年 12 月 21 日
16. Yayu I. Arifin, Masayuki Sakakibara, Sayaka Takakura, Mohamad Jahja, Fitriane Lihawa, Marike Machmud : Mercury Pollution from Artisanal and Small-scale Au Mining (ASGM)

Activities in Gorontalo Utara regency, Indonesia : 第 13 回日本地質学会四国支部総会・講演会 : 愛媛 : 2013 年 12 月 21 日

17. 小松正幸・高倉清香・斉藤 哲・榊原正幸 : スラウェシ島 (インドネシア), 北部火山弧のゴロンタロ地域のネオテクトニクス (予察) : 第 13 回日本地質学会四国支部総会・講演会 : 愛媛 : 2013 年 12 月 21 日

岡村 未対

社会貢献活動 :

1. 2013.11 : 地盤工学会関東支部講習会, 横浜市, (80 名)
2. 2013.09 : Geotechnical Symposium:ネパール地盤工学会, カトマンズ市, 50 名
3. 2013.12 : Engineering Symposium : ハサヌディン大学, 250 名
4. 社会資本整備審議会道路分科会 委員 (国土交通省道路局)
5. 堤防研究会 委員 (国土交通省 水資源国土保全局)
6. 堤防研究会耐震 WG 委員 (国土交通省 水資源国土保全局)
7. 四国地方整備局総合評価地域小委員会 委員 (国土交通省四国地方整備局)
8. 伊方原子力発電所環境安全管理委員会技術専門部会 委員 (愛媛県)
9. 伊方原子力発電所環境安全管理委員会 委員 (愛媛県)
10. Earthquake Geotechnical Engineering and Associated Problems 委員 (国際地盤工学会)
11. Coastal and river disaster mitigation and rehabilitation 委員会 委員 (国際地盤工学会)
12. International Journal of Physical Modelling in Geotechnics 編集委員会 委員 (国際地盤工学会)
13. Geotechnology for Natural Hazards 国内委員会 委員 (地盤工学会)
14. 地盤工学会四国支部 評議員 (地盤工学会四国支部)
15. 地盤工学会四国支部四国地域地盤問題研究会 委員長 (地盤工学会四国支部)
16. 土木学会アジア土木学協会連合協議会担当委員会 幹事
17. 土木学会四国支部 四国ブロック南海地震研究委員会 幹事
18. 地盤工学会 理事・総務部長
19. 地盤工学会 代議員
20. 地盤工学会 表彰委員会 副委員長
21. 集積場管理対策研究会 (経済産業省原子力保安院) 委員
22. 土木学会地盤工学委員会堤防小委員会 委員長
23. 土木学会教育企画人材育成委員会 委員長
24. (財)FLIP 研究会 顧問
25. Air-Des 工法研究会 顧問
26. ネパールエンジニアリングカレッジ客員教授
27. 27.2013 年 6 月 地盤工学会誌 年間最優秀賞 : 地盤工学会
28. 28.2014 年 6 月 地盤工学会功労賞
29. 29.2014 年 6 月 地盤工学会事業企画賞

論文・研究発表

1. Mitsu Okamura and Toshiyuki Inoue (2012): Preparation of fully saturated models for liquefaction study, *Int. J. Physical Modelling in Geotechnics*, Vol. 12, No. 1
2. Hideaki Yasuhara, Debendra Neupane, Kazuyuki Hayashi, Mitsu Okamura (2012): Experiments and Predictions of Physical Properties of Sand Cemented by Enzymatically-Induced Carbonate Precipitation, *Soils and Foundations*, Vol. 52, No. 3, pp.539-549.
3. 森島直樹, 林健二, 廣瀬栄樹, 金晃奂, 今井康雅, 鈴木明憲, 北出圭介, 岡村未対, 飛田哲男(2014) : 2011 年東日本大震災において地震動で被災した河川堤防の事例解析, *土木学会論文集 A1 (構造・地震工学)* Vol.70, No. 4
4. Mitsu Okamura, Shuji Tamamura and Rikuto Yamamoto (2013): Seismic stability of embankment subjected to pre-deformation due to foundation consolidation. *Soils and Foundations*, Vol. 53, No. 1, pp. 11-22.
5. Yuichi Tomida and Mitsu Okamura(2013.6): Centrifuge Tests and Numerical Analysis on Effects of Desaturation as a Liquefaction Countermeasure for Existing Embankments, *International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering*, Istanbul, Turkey
6. Chih-Wei Lu , Tzu-Ling Huang, Pai-Chia Su, Mitsu Okamura, Narayan Marasini (2013.9):Countermeasures against soil liquefaction using air injection technique in a centrifuge test,
Proceedings of the 15th Conference on Current Researches in Geotechnical Engineering in Taiwan, Yunlin, Taiwan
7. Narayan Prasad Marasini and Mitsu Okamura (2013.10): InLiquefaction potential analysis and probable remedial measure for existing structure in Kathmandu Valley,
The 11th International Symposium on Mitigation of Geo-disasters in Asia (MGDA-11), Nepal
8. Yuichi Tomida and Mitsu Okamura (2013.10): Verification of desaturation technique as a liquefaction countermeasure for existing embankments,
The 11th International Symposium on Mitigation of Geo-disasters in Asia (MGDA-11), Nepal

小林 範之

社会貢献活動:

1. 2013 年 8 月 28 日:入力地震動の作成と解析手法の概説～国営造成農業用ダム耐震性能照査マニュアルに基づいて～:「ため池防災・減災」に係る研修会:愛媛県:愛媛県立図書館 5F 多目的ホール:101 名
2. 愛媛県農業水利施設保全対策検討会:(アドバイザー):愛媛県/客員研究員:(財)日本水土総合研究所
3. 建設工事総合評価審査委員会:(委員):愛媛県
4. 農業農村整備事業推進実行委員会(委員):愛媛県
5. 史跡松山城整備検討委員会:(委員):松山市
6. 宇和島城保存整備検討委員会:(委員):宇和島市

7. 地盤工学会論文集編集委員会：（委員）：地盤工学会
8. 農業農村工学会材料施工部会：（幹事）：農業農村工学会
9. 農業農村工学会学会賞選考委員会：（専門委員）：農業農村工学会
10. 日本雨水資源化システム学会：（理事）：日本雨水資源化システム学会
11. 日本雨水資源化システム学会編集委員会：（委員長）：日本雨水資源化システム学会

論文・研究発表:

1. 小林範之・吉武美孝:常時微動測定による漏水箇所の検討:平成 25 年度農業農村工学会大会講演会:東京:2013 年 9 月 4 日
2. 小林範之・岩見麻由:個別要素法による底樋改修時の盛土に発生するアーチ作用の検討:日本雨水資源化システム学会第 20 回研究発表会:松江市:2013 年 11 月 2 日

千代田 憲子

社会貢献活動

1. 2013.6.24:愛媛の文化②-水引:産業科学基礎 高大連携教育プログラム:愛媛大学附属高等学校:愛媛大学附属高等学校・多目的学習室:1 年生 120 名
2. 2013.10.27:沿道景観の貢献要素について-ワークショップを通して:平成 25 年度景観法・歴史まちづくり法活用勉強会:国土交通省四国整備局:高松サンポート合同庁舎・アイホール:約 60 名
3. 景観施策アドバイザー:四国地方整備局
4. 愛媛県景観形成アドバイザー:愛媛県
5. 愛媛県公共事業評価委員会:委員:愛媛県
6. 愛媛県地方港湾審議会:委員:愛媛県
7. 愛媛県屋外広告物審議会:委員:愛媛県
8. 松山市景観審議会:委員長:松山市
9. 松山市都市景観景観賞選考部会:委員:松山市
10. 今治市景観まちづくり会議:委員長:今治市
11. 非常勤講師:久留米大学
12. 重信川河口ワーキング部会:委員:重信川の自然をはぐくむ会
13. 愛媛県文化財保護審議会:委員:愛媛県
14. 愛媛県美術品等収集評価委員会:委員:愛媛県
15. 愛媛県伝統的特産品産業振興対策委員会:委員長:愛媛県
16. 愛媛県総合科学博物館協議会:委員:愛媛県
17. JA 共済小・中学校交通安全ポスターコンクール愛媛県審査会:委員長:JA 共済連愛媛
18. 愛媛広告賞:審査員:愛媛広告協会

論文・研究発表

1. 千代田憲子:沿道景観の貢献要素に関する考察:愛媛大学教育学部紀要:第 60 巻, 291-298:2013・10

2. 千代田憲子 : Mizuhiki Works '13-II:h70×w65×d30cm 他 11 点 : Noriko Chiyoda Mizuhiki Works & Installation : ルーチェベルデオープンスペース : 2013・11.16-11.23
3. 千代田憲子:テキスタイル造形とインスタレーションの先にあるもの:月刊愛媛ジャーナル:vol.133, 78-81 : 2014・3

吉井 稔雄

社会貢献活動 :

1. 社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座 : 愛媛大学
2. 愛媛と四国のインフラを守る人材育成プロジェクト～選択と集中による橋/トンネル/道路の老朽化対策～ : 愛媛大学
3. 土木計画学研究委員会 学術小委員会委員
4. 都市計画学会中国四国支部幹事
5. Editorial Board members of International Journal of ITS Research (IJIR), ITS Japan
6. (社)交通工学研究会査読委員
7. (社)交通工学研究会 TOE 分科会委員
8. (社)交通工学研究会事業委員会委員
9. 松山市都市計画審議会委員
10. 阪神高速道路株式会社交通技術委員会幹事
11. 愛媛県 都市計画審議会委員
12. (株)高速道路総合技術研究所高速道路のネットワークシミュレーションモデルの構築検討委員会委員
13. 愛媛県開発審査会委員

論文・研究発表 :

1. 吉井稔雄, 川原洋一, 大石和弘, 兵頭知 : 高速道路における交通事故発生リスク情報の提供に関する研究, 第 33 回交通工学研究発表会論文報告集, pp.103-109, 2013.9
2. 吉井稔雄, 高山雄貴, 松本洋輔 : 集計 QK を利用したランプ流入制御手法の有効性評価, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.69, No.5, I_579-I_586, 2013.12.
3. 高山雄貴, 山本誠也, 吉井稔雄 : 輸送市場を考慮した都市集積モデルの分岐解析, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.69, No.5, I_327-I_333, 2013.12.
4. 倉内慎也, 石村龍則, 吉井稔雄 : 地方都市における自動車保有者のカーシェアリングサービスに対する利用意向の分析, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.69, No.5, I_423-I_431, 2013.12.
5. 山本誠也, 高山雄貴, 吉井稔雄 : 2 次元空間における土地利用パターンの自己組織化, 平成 25 年度四国支部技術研究発表会, 愛媛大学, 2013.5
6. 市場彰彦, 高山雄貴, 吉井稔雄 : 集積の経済を考慮した SCGE モデルによる交通施策の影響分析, 平成 25 年度四国支部技術研究発表会, 愛媛大学, 2013.5
7. 麻生雅之, 高山雄貴, 吉井稔雄 : 新経済地理学に基づく SCGE モデルによる地域細分化の影響分析, 平成 25 年度四国支部技術研究発表会, 愛媛大学, 2013.5
8. 前原慎也, 吉井稔雄, 高山雄貴 : 集計 QK 制御を用いた交通流制御に関する研究, 平成 25 年度四国

支部技術研究発表会, 愛媛大学, 2013.5

9. 青木俊介, 吉井稔雄, 高山雄貴: 路面電車が共存する交差点におけるムーブメント制御方法に関する研究, 平成 25 年度四国支部技術研究発表会, 愛媛大学, 2013.5
10. 岡賢人, 吉井稔雄, 高山雄貴: 飲酒運転時の自転車走行特性に関する研究, 平成 25 年度四国支部技術研究発表会, 愛媛大学, 2013.5
11. 兵頭知, 吉井稔雄, 高山雄貴, 瀧澤昂兵: 四国の高速道路における事故発生リスク要因分析, 平成 25 年度四国支部技術研究発表会, 愛媛大学, 2013.5
12. 倉内慎也, 前川朝尚, 吉井稔雄: ガソリン税制に対するメンタル・アカウンティングの基礎的分析, 第 47 回土木計画学研究発表会, 広島工業大学, 2013.6.
13. 麻生雅之, 高山雄貴, 吉井稔雄: 集積の経済を考慮した SCGE モデルにおける地域細分化の影響評価, 第 47 回土木計画学研究発表会, 広島工業大学, 2013.6.
14. 吉井稔雄, 前原慎也, 高山雄貴: 東南アジア諸都市への導入に適した集計 QK 制御の考案, 第 47 回土木計画学研究発表会, 広島工業大学, 2013.6.
15. 兵頭知, 吉井稔雄, 高山雄貴: 車両検知器の 5 分間データを利用した交通流状態別事故発生リスク分析, 第 47 回土木計画学研究発表会, 広島工業大学, 2013.6.
16. 片岡源宗, 吉井稔雄, 二神透, 大口敬: 救急救命搬送サービス時間に関する研究, 第 48 回土木計画学研究発表会, 大阪市立大学, 2013.11.
17. 片岡源宗, 吉井稔雄, 二神透, 大口敬: 救急救命搬送要請頻度に関する分析, 第 48 回土木計画学研究発表会, 大阪市立大学, 2013.11.
18. Toshio Yoshii and Yuki Takayama: DEVELOPMENT OF A TRAFFIC ACCIDENT SIMULATION MODEL ON URBAN EXPRESSWAY NETWORKS, OPTIMUM 2013 – International Symposium on Recent Advances in Transport Modelling, Kingscliff, Australia, 2013.4

中村 孝幸

社会貢献活動:

1. 2013. 8.17-8.27: JASSO 帰国外国人留学生研究指導制度による研究指導・特別講演: Myanmar Maritime University(ミャンマー海事大学), 約 100 人
2. 土木学会・海洋開発委員会・委員
3. 愛媛県・低入札価額審査会・委員
4. (一財)災害科学研究所・研究員
5. 沿岸新技術研究会(災害科学研究所)・副会長
6. 波力発電研究会(災害科学研究所)・副会長

論文・研究発表:

1. 中村孝幸: 新型津波防波堤の須崎湾における効果: ながれ: 31 巻, pp.33-38, 2013 年・1 月
2. 中村 孝幸, 阿部 洋士, Firman HUSAIN, 井内 國光: 潮流発電の高効率化のための新型流向制御板に関する研究: 土木学会論文集 B3 (海洋開発) Vol. 69 No. 2, pp. I_13-I_18, 2013 年 7 月
3. 中村 孝幸, 鍵本 慎太郎, HUSAIN Firman: 単一遊水室型防波堤と従来型防波堤の波浪制御機能に関する研究: 土木学会論文集 B3 (海洋開発) Vol. 69 No. 2, pp. I_252-I_257, 2013 年 7 月

4. 中村 孝幸, 阿部 洋士, Firman HUSAIN, 波と流れを受ける直立型水車のエネルギー変換効率に関する研究, 土木学会論文集 B3 (海岸工学), Vol. 69 No. 2, pp.L_1301-L_1305, 2013 年 11 月
中村 孝幸, 山先 達也, 松葉 陽治郎: 大船渡湾口津波防波堤の効果に及ぼす開口部 3 次元形状の影響について, 土木学会論文集 B3 (海岸工学), Vol. 69 No. 2, pp.L_751-L_755, 2013 年 11 月
5. 中村 孝幸, 山先 達也, 松葉 陽治郎: 大船渡湾口津波防波堤の効果に及ぼす開口部 3 次元形状の影響について, 土木学会論文集 B3 (海岸工学), Vol. 69 No. 2, pp.L_751-L_755, 2013 年 11 月
6. 中村孝幸, 山先達也: 大船渡湾の湾水振動特性と湾口津波防波堤の効果的な配置法について, 土木学会四国支部・21 世紀の南海地震と防災, 2013 年 1 月
7. Firman Husain, Takayuki Nakamura and Shintaroh Kagimoto: PERFORMANCE OF A DOUBLE-WATER-CHAMBER TYPE SEA WALL FOR LONG WAVE DISSIPATIONS: Proc. of International Sessions in Conference of Coastal Engineering, JSCE, Vol. 4, 2013, November.

森脇 亮

社会貢献活動:

1. 3 月 16 日: 再生可能エネルギー普及のための産学官連携について: 愛媛大学, 松山市: 愛媛大学・南加記念ホール: 200 名
2. ダム管理フォローアップ委員会 (国内 国土交通省四国地方整備局)
3. リバーカウンセラー (国内)
4. 河川・溪流環境アドバイザー (国内 国土交通省四国地方整備局)
5. 四国地方整備局総合評価地域小委員会 (国内 国土交通省四国地方整備局)
6. 愛媛県建設工事総合評価審査委員 (国内 愛媛県)

論文・研究発表:

1. Ryo MORIWAKI, Keiko WATANABE and Kazuyuki MORIMOTO: URBAN DRY ISLAND PHENOMENON AND ITS IMPACT ON CLOUD BASE LEVEL: Journal of Japanese Society of Civil Engineering: Vol. 1: pp. 521-529, 2013
2. 山本拓男: 松山平野における水蒸気分布を利用した降雨予測可能性の検討: 平成 25 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会: 愛媛大学: 2013 年 5 月 11 日
3. 松尾悠平: 土地利用の違いが雲の形成に与える影響～松山平野における日射量及び後方散乱強度観測による検討～: 平成 25 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会: 愛媛大学: 2013 年 5 月 11 日
4. 宮川晃輔: 風の多地点モニタリングによる局地気象の事例解析～海陸風の侵入挙動と収束による豪雨の発生～: 平成 25 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会: 愛媛大学: 2013 年 5 月 11 日
5. 大石直輝: 松山平野における人工排熱・粗度分布の推定と気象モデル WRF を用いた感度分析: 平成 25 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会: 愛媛大学: 2013 年 5 月 11 日
6. 藤森祥文: 松山平野の地下水資源の現状と井戸取水の影響: 平成 25 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会: 愛媛大学: 2013 年 5 月 11 日

羽鳥 剛史

社会貢献活動：

1. 2013年9月9日「想定外をいかに乗り越えるか」愛南町防災講演会「災害リスクへの向き合い方」御荘文化センター大ホール
2. 2013年10月24日「社会病理としての放置駐輪問題」全国自転車問題自治体連絡協議会松山全日空ホテル
3. 2013年12月13日「公的討議の意義と課題」国土交通省講演会
4. 2014年1月27日「南海トラフ地震を想定した防災対策について」大洲市平野公民館壮年学級
5. 環境省「平成25年度ESD環境教育プログラムの作成・展開業務（四国地域）」に関する実行委員会委員
6. 西予市「はちのじ」まちづくり構想可能性調査選定委員
7. 松山市自転車等駐輪対策協議会委員
8. 文部科学省地域防災対策支援研究プロジェクト課題「科学的・社会的好奇心を刺激する自発的減災活動の推進」（愛媛大学防災情報研究センター）実施担当

論文・研究発表：

1. 羽鳥剛史, 小林潔司, 鄭蝦榮: 討議理論と公的討論の規範的評価, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol. 69, No. 2, pp.101-120, 2013.
2. 羽鳥剛史, 藤井聡, 住永哲史: 地域コミュニティ保守行動の規定要因に関する実証的研究: “地域カリスマ”による超利他的動機の人格的要因と環境的要因, 行動計量学, Vol. 40, No. 1, pp. 43-61, 2013.
3. Kobayashi, K., Hatori, T., and Jeong, H.: Trust. In: Kobayashi, K., Syabri, I., Dwi, I. R., Jeong A., & Jeong, H. (Eds). Community Based Water Management and Social Capital, Intl Water Assn, 2014.
4. Kobayashi, K., Hatori, T., and Jeong, H.: Forest governance and social capital: Structure and function. In: Westlund, H. & Kobayashi, K. (Eds.) Social Capital and Rural Development in the Knowledge Society, 21-49, E. Elgar, 2013.
5. Schmöcker, J.-D., Hatori, T., and Watling, D.: Dynamic process model of mass effects on travel demand, Transportation, March, 2013.
6. 羽鳥剛史, 梶原一慶, 曾我部蓮: 内省機会の提供が保護価値の変容に及ぼす影響. 日本社会心理学会第54回大会, 沖縄国際大学, 2013年11月3日.
7. 羽鳥剛史, 松本一也, 竹村和久: アリストテレス倫理学に基づく規範的幸福尺度の構成. 日本心理学会第77回大会, 札幌コンベンションセンター, 2013年9月21日.
8. 羽鳥剛史: 公共放送の信頼規定因に関する実証的検討. 日本行動計量学会第41回大会, 東邦大学, 2013年9月4日.
9. 曾我部蓮, 梶原一慶, 羽鳥剛史: 内省機会の提供が保護価値の変容に及ぼす影響. 土木計画学研究・講演集, Vol. 46, CD-ROM. 2013.
10. 羽鳥剛史, 中神ちなつ: 地域住民の発言行動の心理的プロセスに関する研究. 土木計画学研究・講演集, Vol. 46, CD-ROM. 2013.

11. 中神ちなつ, 羽鳥剛史: 地域コミュニティにおける発言行動の心的プロセスに関する研究. 平成24年度土木学会四国支部技術研究発表会. 2013.5.11.
12. 曾我部蓮, 羽鳥剛史: 公共事業における保護価値の規定要因に関する研究. 平成24年度土木学会四国支部技術研究発表会. 2013.5.11.
13. 松本和也, 羽鳥剛史: アリストテレス倫理学に基づく幸福の規範尺度の構成とその規定要因に関する研究. 平成24年度土木学会四国支部技術研究発表会. 2013.5.11.
14. 佐藤桂子, 羽鳥剛史: 広域的放置駐輪問題を対象としたコミュニケーション施策の効果検証. 平成24年度土木学会四国支部技術研究発表会. 2013.5.11.

二神 透

社会貢献活動:

1. 平成25年10月29日, 愛媛県高圧ガス保安大会における招待対講演, 東京第一ホテル松山, 約300名
2. 平成25年12月6日, 一般財団法人 河川情報センター 河川情報シンポジウム 特別テーマ講演「水害避難シナリオ・シミュレータの開発と適用」, ベルサール半蔵門 (東京都千代田区麹町), 約500名
3. 平成25年12月8日, 新居浜市高津川公民館にて防災講演, 高津公民館, 約50名
4. 平成26年1月29日, 新居浜市泉川公民館にて防災講演, 泉川公民館 (泉川まちづくり協議会), 約40名
5. 防災に強いまちづくり検討会委員 (四国地方整備局)
6. 石手川流域ビジョン委員会
7. 重信川の自然をはぐくむ会 (NPO)
8. 愛媛県国土利用計画審議会委員 (愛媛県)
9. 愛媛県河川整備検討委員会 (愛媛県)
10. 愛媛県土地収用事業認定審議会 (愛媛県)
11. 愛媛地域防災力研究連携協議会避難問題研究会座長 (愛媛大学)
12. 平成24年度愛媛県教育委員会学校防災アドバイザー (愛媛県)
13. 愛媛県地震被害想定調査検討委員会委員 (愛媛県)
14. 上島町防災会議委員 (上島町)
15. あいテレビ番組審議会委員 (あいテレビ)

論文・研究発表:

1. 二神透, 秋月恵一, 松山優貴, 國方祐希: 津波避難地域を対象とした要援護者支援システムの開発, 土木学会論文集F6 (安全問題), 安全問題・論文集7頁2013.
2. 秋月恵一, 二神透: 松山市を対象とした救急車両の走行速度の現状分析, 回土木計画学講演集, CD-ROM6頁, 2013.
3. 二神透, 秋月恵一: 愛媛県中予医療圏を対象としたドクターカー出動促進のための救命効果分析, 第47回土木計画学講演集, CD-ROM6頁, 2013.
4. 二神透: 連合自主防災組織を対象としたリスク・コミュニケーション形成論に関する研究,

第 47 回土木計画学講演集, CD-ROM6 頁, 2013.

5. 松山優貴, 二神透, 大本翔平: 大震時火災延焼シミュレーション・システムを用いたリスク・コミュニケーション実践研究, 第 47 回土木計画学講演集, CD-ROM6 頁, 2013.
6. 片岡源宗, 吉井稔雄, 二神透, 大口敬: 救急救命搬送要請頻度に関する分析, 第 48 回土木計画学講演集, CD-ROM6 頁, 2013.
7. 二神透: 大震時火災延焼シミュレーション・システムを用いた双方向リスク・コミュニケーション
第 48 回土木計画学講演集, CD-ROM6 頁, 2013.
8. 片岡源宗, 吉井稔雄, 二神透, 大口敬: 救急救命搬送サービス時間に関する研究, 第 48 回土木計画学講演集, CD-ROM6 頁, 2013.
9. 秋月恵一, 二神透, 國方祐希: 要援護者避難支援システムの開発と津波避難地域への適用研究, 第 48 回土木計画学講演集, CD-ROM6 頁, 2013.
10. 池田達朗, 二神透, 松山優貴: 愛媛県中予医療圏を対象としたドクターカー出動促進のための救命率向上効果の評価, 平成 24 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会, 愛媛大学, 2013 年 5 月 11 日.
11. 大本翔平, 二神透, 秋月恵一: 地震火災延焼シミュレーション・システムを利用したリスク・コミュニケーションに関する研究, 平成 24 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会, 愛媛大学, 2013 年 5 月 11 日.
12. 松山優貴, 二神透: 重点密集市街地における地区内避難確率向上に向けた適用研究, 平成 24 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会, 愛媛大学, 2013 年 5 月 11 日.
13. 秋月恵一, 二神透: 避難ペトリネット作成システムを利用した内水氾濫への適用研究, 平成 24 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会, 愛媛大学, 2013 年 5 月 11 日.

木下 誠也

社会貢献活動:

1. 2014.3.28: 発注者責任懇談会, 国土交通省 (東京都千代田区)
2. 2014.3.24: 水資源分科会, 国土交通省 (東京都千代田区)
3. 2014.3.17: 水資源分科会, 国土交通省 (東京都千代田区)
4. 2014.3.7: 公共事業執行システム研究小委員会, 土木学会 (東京都新宿区)
5. 2014.2.26: 「これからの入札契約制度について」, 愛媛入札防災研究会, 四国地方整備局 (松山市)
6. 2014.2.25: 河川整備評価委員会, 河川財団 (東京都中央区)
7. 2014.2.24: 水資源分科会, 国土交通省 (東京都千代田区)
8. 2014.2.21: 土木学会公共事業執行システム研究小委員会, 土木学会 (東京都新宿区)
9. 2014.2.20: 流域水管理研究会, (一社) 流域水管理研究所 (東京都千代田区)
10. 2014.2.19: 発注者責任懇談会, 国土交通省 (東京都千代田区)
11. 2014.2.14: 日本建設業連合会大阪講演会, 日本建設業連合会 (大阪市中央区)
12. 2014.2.12: 建設マネジメント委員会論文編集小委員会, 土木学会 (東京都新宿区)
13. 2014.2.10: 建設マネジメント研究会, 日本大学 (東京都千代田区)
14. 2014.2.7: 公共工事システム研究会, 高知工科大学 (土佐山田市)

15. 2014.2.5 : インドネシア公共調達・防災研究調査 (ジャカルタ)
16. 2014.1.31 : 紀の川河川研究会, 中央大学 (東京都文京区)
17. 2014.1.31 : 発注者責任懇談会, 国土交通省 (東京都千代田区)
18. 2014.1.28 : 建設物価評価委員会, (一財) 建設物価調査会 (東京都中央区)
19. 2014.1.27 : 流域管理研究会, (一社) 流域水管理研究所 (東京都千代田区)
20. 2014.1.23 : 紀の川河川研究会, 近畿地方整備局 (大阪市中央区)
21. 2014.1.21 : 建設マネジメント研究会, 国土交通省 (東京都千代田区)
22. 2014.1.20 : 水資源分科会, 国土交通省 (東京都千代田区)
23. 2014.1.17 : 木曾川河川研究会, 中部地方整備局 (岐阜市)
24. 2014.1.15 : 「これからの河川管理のあり方」, 四国地方整備局 (高松市), サポート高松
25. 2014.1.10 : 水資源分科会, 国土交通省 (東京都千代田区)
26. 2014.1.7 : 「官公庁・公共事業体における調達－内外の相違と展望」, 東京工業大学・JSA 標準化討論会 (東京都目黒区)
27. 2013.12.26 : 建設マネジメント研究会, 国土交通省 (東京都千代田区)
28. 2013.12.25 : 発注者責任研究懇談会, 国土交通省 (東京都千代田区)
29. 2013.12.13 : 水資源分科会, 国土交通省 (東京都千代田区)
30. 2013.12.11 : 建設マネジメント研究発表会, 土木学会 (東京都新宿区)
31. 2013.12.10 : 建設マネジメント委員会, 土木学会 (東京都新宿区)
32. 2013.12.9 : 公共事業執行システム研究小委員会, 土木学会 (東京都新宿区)
33. 2013.12.9 : 維持管理小委員会, 土木学会 (東京都新宿区)
34. 2013.12.6:発注者責任研究懇談会, 国土交通省 (東京都千代田区)
35. 2013.12.4 : International Comparative Study on Procurement of Engineering Consultancy Services for Public Works, Social System Management Symposium 2013,SSMS,(Sydney)
36. 2013.11.28 : 「公共調達を考える」, (一社)広島県測量設計業協会 (広島市)
37. 2013.11.26 : 水資源研究会, 国土交通省 (東京都千代田区)
38. 2013.11.25 : 水資源分科会, 国土交通省 (東京都千代田区)
39. 2013.11.21 : 紀の川河川研究会, 淀川水防研究会 (和歌山市)
40. 2013.11.20 : 経済調査研究会, 経済調査会 (東京都千代田区)
41. 2013.11.18 : 国際建設技術研究会, 国際建設技術協会 (東京都千代田区)
42. 2013.11.15 : 土木学会維持管理小委員会, 土木学会 (東京都新宿区)
43. 2013.11.11 : 木曾川河川研究会, 建設技術研究所 (東京都中央区)
44. 2013.11.6 : 「日本の公共調達制度の特徴と課題」, (一社)日本建設業連合会 建築部 技術提案制度専門部会 (東京都千代田区)
45. 2013.10.30 建設物価評価委員会, (一財) 建設物価調査会 (東京都中央区)
46. 2013.10.28 : 水資源分科会, 国土交通省 (東京都千代田区)
47. 2013.10.26 : 「公共事業発注方式の動向ほか」, (一社)中部地域づくり協会 (飯田市)
48. 2013.10.23 : 土木学会論文賞選考委員会, 土木学会 (東京都新宿区)
49. 2013.10.22 : J A C I C標準化委員会, 日本建設情報総合センター (東京都港区)

50. 2013.10.18 : 建設マネジメント委員会論文編集小委員会, 土木学会 (東京都新宿区)
51. 2013.10.15 : 公共事業執行システム研究小委員会, 土木学会 (東京都文京区)
52. 2013.10.11 : 建設マネジメント委員会論文編集幹事会, 土木学会 (東京都新宿区)
53. 2013.10.10 : 「公共事業執行システム改革について」, (一社)建設コンサルタンツ協会 RCCM 講習会 (大阪市)
54. 2013.10.8 : 「公共事業執行システム改革について」, (一社)建設コンサルタンツ協会 RCCM 講習会 (那覇市)
55. 2013.10.2 : 「公共事業執行システム改革について」, (一社)建設コンサルタンツ協会 RCCM 講習会 (東京都千代田区)
56. 2013.10.1 : 維持管理小委員会, 土木学会 (東京都文京区)
57. 2013.9.27 : 公共事業執行システム研究小委員会第 2 テーマ研究会, 土木学会 (東京都港区)
58. 2013.9.26 : 鹿野川ダム施工技術委員会, 四国地方整備局 (大洲市)
59. 2013.9.20 : 道路建設研究会, 道路建設業協会 (東京都千代田区)
60. 2013.9.18 : 流域管理研究会, (一社)流域水管理研究所 (東京都千代田区)
61. 2013.9.13 : 建設マネジメント委員会論文編集幹事会, 土木学会 (東京都新宿区)
62. 2013.9.13 : 建設マネジメント研究会, 中部地域づくり協会 (当挙位と新宿区)
63. 2013.9.12 : 建設コンサルタント研究会, 土木学会 (東京都新宿区)
64. 2013.9.11 : J A C I C 会社基盤情報委員会, 日本建設情報総合センター (東京都港区)
65. 2013.9.5 : 流域管理研究会, (一社)流域水管理研究所 (東京都千代田区)
66. 2013.9.4 : 公共工事品質確保研究会講演, 全日本建設技術協会 (東京都千代田区)
67. 2013.9.3 : 建設マネジメント研究会, 日刊建設工業新聞社 (東京都港区)
68. 2013.8.29 : 「公共事業執行システム改革の道筋～建設産業・建設技術の持続的発展にむけて～」, 松山会総会 (松山)
69. 2013.8.29 : 「公共工事調達の今後のあり方について」, (社)全日本建設技術協会 第 584 回建設技術講習会 入札契約制度改革と公共工事の品質確保 (高松市)
70. 2013.8.21 : 流域管理研究会, (一社)流域管理研究所 (東京都千代田区)
71. 20013.8.8 : 公共事業執行システム研究小委員会, 土木学会 (東京都新宿区)
72. 2013.8.7 : 建設マネジメント委員会論文編集小委員会, 土木学会 (東京都新宿区)
73. 2013.8.1 : 「公共事業執行システム改革に向けての課題と地方公共団体の技術力実態調査について」, 土木学会建設マネジメント委員会成果報告会
74. 2013.7.23 : 建設物価評価委員会, (一財)建設物価調査会 (東京都中央区)
75. 2013.7.12 : 公共工事システム研究会, 高知工科大学 (土佐山田市)
76. 2013.7.8 : 四国災害アーカイブス委員会, 四国クリエイト協会 (高松市)
77. 2013.6.25 : 「公共調達に関する現状と課題及び今後の展望」, NPO 法人 建設技術ポータルセンター講演会 (名古屋)
78. 2013.6.12 : 紀の川河川研究会, 近畿地方整備局 (和歌山市)
79. 2013.6.12 : 木曾川河川研究会, 建設技術研究所 (名古屋市)
80. 2013.6.11 : 「品質と価格のバランスが取れた調達のための企業実績評価に関する研究」, 国土技術研

究センター研究報告会（東京都港区）

81. 2013.6.10：建設マネジメント委員会論文編集小委員会，土木学会（東京都新宿区）
82. 2013.6.7：建設マネジメント研究会，西日本高速道路（株）（大阪市中央区）
83. 2013.6.5：流域管理研究会，（一社）流域管理研究所（東京都千代田区）
84. 2013.6.3：公共事業執行システム研究小委員会，土木学会（東京都新宿区）
85. 2013.6.3：建設マネジメント委員会論文編集幹事会，土木学会（東京都新宿区）
86. 2013.5.31：防災情報研究センター活動報告会，愛媛大学（松山市）
87. 2013.5.27：水管理研究会，国土交通省（東京都千代田区）
88. 2013.5.25：「防災訓練」，淀川水防・地震コーディネーター（大阪）
89. 2013.5.24：淀川水防研究会，近畿地方整備局（大阪市中央区）
90. 2013.5.23：公共工事システム研究会，高知工科大学（土佐山田市）
91. 2013.5.21：紀の川治水研究会，建設技術研究所（松山市）
92. 2013.5.17：淀川水防研究会，近畿地方整備局（大阪市中央区）
93. 2013.5.11：「国土強靱化と四国の社会資本整備」，平成 25 年度土木学会四国支部第 19 回技術研究発表会 フォーラム（松山）
94. 2013.5.10：土木学会四国支部講演会，土木学会（松山市）
95. 2013.5.8：流域管理研究会，（一社）流域管理研究所（東京都千代田区）
96. 2013.5.7：流域管理研究会，（一社）流域管理研究所（東京都千代田区）
97. 2013.4.24：建設物価調査委員会，（一財）建設物価調査会（東京都中央区）
98. 2013.4.17：公共事業執行システム研究小委員会，土木学会（東京都新宿区）
99. 2013.4.15：木曾川河川研究会，建設技術研究所（名古屋市）
100. 2013.4.6：「公共調達について」，建設技術研究所講演会（東京都中央区）
101. 2013.4.6：「公共調達について」，建設技術研究所講演会（東京都中央区）
102. 2013.4.5：流域管理研究会，（一社）流域水管理研究所（東京都千代田区）
103. 建設マネジメント委員会委員（土木学会）
104. 建設マネジメント委員会，公共事業執行システム研究小委員長（土木学会）
105. 建設マネジメント委員会，論文集編集小委員長（土木学会）
106. 建設マネジメント委員会，維持管理に関する入札・契約制度検討小委員会委員
107. 技術士第二次試験 試験委員
108. 国際大ダム会議 環境委員会 委員
109. 四国災害アーカイブス事業検討委員会委員（一般社団法人 四国クリエイト協会）
110. 流域水管理研究所 企画運営委員長（一般社団法人 流域管理研究所）
111. 建設物価調査会評価監視委員会 委員（一般財団法人 建設物価調査会）
112. 鹿野川ダム施工技術向上委員会委員（国土交通省）
113. 高知の新たな公共工事システム研究会委員（高知工科大学）
114. 国土審議会専門委員（国土交通省）
115. 水資源開発分科会 調査企画部会委員（国土交通省）
116. 社会基盤情報標準化委員会及び幹事会委員（一般財団法人 日本建設情報総合センター）

- 117. 発注者責任を果たすための今後の建設生産・管理システムのあり方に関する懇談会委員（国土交通省）
- 118. 東京大学工学部社会基盤学科「公共経営学」後期 非常勤講師
- 119. 高知工科大学 社会システムマネジメントコース「行政経営」後期 客員教授
- 120. 2013.8.1：土木学会建設マネジメント委員会論文賞受賞：公益社団法人土木学会

論文・研究発表：

- 1. 村岡治道, 木下誠也, 竹田正彦, 星加隆夫, 関谷慎吾: 「疲弊する地域建設企業の現状と発災直後の啓開対応に関する考察～愛媛県を対象として～」:(社)土木学会 土木学会論文集 F4 (建設マネジメント) 特集号 Vol.69, No.4 P.37～40 :2013.12.11
- 2. Seiya.KINOSHITA:International Comparative Study on Procurement of Engineering Consultancy Services for Public Works:The 9th International Symposium on Social Management Systems:2013.12.3
- 3. 木下誠也:入札契約制度の変遷と今日的課題—談合に代わるもの :都市問題 2014.2月号 vol.105 自治体の入札と契約 特集2 : 2014.2.1
- 4. 木下誠也:「様変わりしたアメリカの公共調達に学ぶ」:日刊建設工業新聞 所論緒論 : 2013.11.18
- 5. 木下誠也:「海外における入札契約方式の動向」:道路建設 No.741 : 2013.11
- 6. 木下誠也:「座談会:入札契約制度の課題と今後の進むべき方向」:道路建設 No.741 :「座談会:入札契約制度の課題と今後の進むべき方向」 : 2013.11
- 7. 木下誠也:「日本流をめざしたフレームワーク調達」:日刊建設工業新聞 所論緒論 : 2013.8.29
- 8. 木下誠也:「入札契約制度の現状と今後の展望」:建設業しんこう : 2013.8
- 9. 木下誠也:「公共事業執行システムの将来像」:JACIC 情報 / 日本建設情報総合センター 編 第 108 号 5-14 頁 : 2013.7
- 10. 木下誠也:「英国における技術判断重視の公共調達」:日刊建設工業新聞 所論緒論
- 11. 木下誠也:「公共事業執行システム改革の道筋—日本再生に向けて」:都市問題 2013.6月号 vol.104 公共事業と地域社会・特集2 : 2013.6
- 12. 2013.12.4 : Social System Management Symposium 2013,SSMS,(Sydney)

村岡 治道

社会貢献活動

- 1. 2013.8.13 : 南海トラフ巨大地震の被害想定の見直しについて : 四国中央市 防災教育推進連絡協議会 : 四国中央市教育委員会 : 四国中央市福社会館 4階多目的ホール : 69 名
- 2. 2013.9.2 : 地震の瞬間への備え : ラジオ番組「防災ネットワーク」 : NHK松山放送局
- 3. 2013.9.9 : 避難への備え : ラジオ番組「防災ネットワーク」 : NHK松山放送局
- 4. 2013.9.30 : 水と食料の備蓄 : ラジオ番組「防災ネットワーク」 : NHK松山放送局
- 5. 2013.10.23 : 南海トラフ巨大地震の被害想定の見直しについて : 平成 25 年度 宇和島市防災教育推進連絡協議会 : 宇和島市教育委員会 : 宇和島市庁舎地下 1 階会議室, 他 : 108 名

6. 2013.10.29: 南海トラフ巨大地震の被害想定の見直しと学校と自主防災組織との望ましい連携のあり方について: 八幡浜防災教育推進連絡協議会: 八幡浜市教育委員会: 八幡浜市保内庁舎大会議室及び第4会議室: 37名
7. 2013.11.7: 南海トラフ巨大地震の被害想定の見直しと学校と自主防災組織との望ましい連携のあり方について: 平成25年度 西予市防災教育推進連絡協議会: 西予市教育委員会: 西予市教育保健センター 4階大ホール: 51名
8. 2013.11.18: 南海トラフ巨大地震の被害想定の見直しについて: 松山市防災教育推進連絡協議会: 松山市教育委員会: 松山市教育研究所: 114名
9. 2013.12.10: 巨大地震による大津波に備える: 伊方町立伊方中学校講演会: 伊方町立伊方中学校: 伊方町立伊方中学校体育館: 200名
10. 2013.12.17: 南海トラフ巨大地震に大学人として備える: 平成25年度愛媛大学城北地区総合防災訓練: 愛媛大学: メディアホール: 100名
11. 2014.1.6: 南海トラフ巨大地震の被害想定の見直しと学校と自主防災組織との望ましい連携のあり方について: 今治市防災教育推進連絡協議会: 今治市教育委員会: 今治市総合福祉センター「愛らんど今治」4階 多目的ホール1: 62名
12. 2014.1.7: 南海トラフ巨大地震の被害想定の見直しと学校と自主防災組織との望ましい連携のあり方について: 新居浜市防災教育推進連絡協議会: 新居浜市防災教育推進連絡協議会: 新居浜市庁舎5階大会議室及び53会議室: 49名
13. 2014.1.17: 避難訓練現地指導補助: 宇和島市立戸島小学校平成25年度第4回避難訓練: 宇和島市立戸島小学校
14. 2014.1.19: 防災キャラバン in 西条: 愛媛大学防災情報研究センター, 西条市共催: 西条市文化会館小ホール: 150名
15. 2014.1.20: 出費のかかる水・食料の備蓄も確実に: ラジオ番組「防災ネットワーク」: NHK松山放送局
16. 2014.1.27: 出費のかかる耐震化も確実に: ラジオ番組「防災ネットワーク」: NHK松山放送局
17. 2014.2.8: 防災キャラバン in 四国中央市: 愛媛大学防災情報研究センター, 四国中央市共催: 土居文化会館 (ユウホール): 40名
18. 2014.3.3: 東日本大震災から3年-1-: ラジオ番組「防災ネットワーク」: NHK松山放送局
19. 2014.3.9: NHK東日本大震災プロジェクト「明日へ—支えあおう—」 「震災から3年“明日(あした)へ”のつどい」: NHK松山放送局: 松山市立子規記念博物館 4階講堂: 200名
20. 2014.3.11: 個人として, 経営者として, 南海トラフ巨大地震に備える: 新居浜・西条経済研究会3月例会: 新居浜・西条経済研究会: リーガロイヤルホテル新居浜 2階伊予北の間: 100名
21. 2014.3.12: 個人として, 経営者として, 南海トラフ巨大地震に備える: 宇摩経済研究会3月例会: 宇摩経済研究会: ホテルグランフォーレ(愛媛県四国中央市): 70名
22. 2014.3.16: 迫る南海トラフ巨大地震。急がれる家庭での対策: 備えあれば憂いなし 防災セミナー 災害と住まいを考える: 愛媛新聞社: 愛媛新聞社本社1階ホール・ロビー: 100名
23. 2014.3.30: 防災キャラバン in 上島町: 愛媛大学防災情報研究センター, 上島町共催: せとうち交流館: 160名

24. 土木学会公共事業執行システム研究小委員会：委員：土木学会公共事業執行システム研究小委員会
25. 大洲市防災教育推進連絡協議会：学校防災アドバイザー：大洲市教育委員会
26. 西条市防災教育推進連絡協議会：学校防災アドバイザー：西条市教育委員会
27. 平成 25 年度 宇和島市防災教育推進連絡協議会：学校防災アドバイザー：宇和島市教育委員会
28. 八幡浜防災教育推進連絡協議会：学校防災アドバイザー：八幡浜市教育委員会
29. 平成 25 年度 西予市防災教育推進連絡協議会：学校防災アドバイザー：西予市教育委員会
30. 松山市防災教育推進連絡協議会：学校防災アドバイザー：松山市教育委員会
31. 今治市防災教育推進連絡協議会：学校防災アドバイザー：今治市教育委員会
32. 新居浜市防災教育推進連絡協議会：学校防災アドバイザー：新居浜市防災教育推進連絡協議会
33. 学校防災教育推進委員会：学校防災アドバイザー：愛媛県教育委員会
34. 九州国際大学サバイバルキャンプ"KED"：防災専門家：九州国際大学経済学部ビジネスリーダー・コース

論文・研究発表：

1. 村岡治道，吉井稔雄，山下祐一，矢田部龍一：社会人再教育計画について：平成 25 年度地盤工学会 四国支部技術研究発表会講演概要集：pp.105-106：2013.11
2. 村岡治道，木下誠也，竹田正彦，星加隆夫，関谷慎吾：疲弊する地域建設企業の現状～愛媛県を対象として～：第 31 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会論文集(CD-ROM)：pp.37-40：2013.12

5. 管理・運営

5.1 運営委員会議事録

平成 25 年度第 1 回防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成 25 年 5 月 10 日（金）13：00～13：40

場 所：社会連携推進機構 2 階研修室

出席者：矢田部センター長、竹田副センター長、木下教授、瀬野社会連携支援部長、千代田教授、
二神准教授（相引教授代理）、村岡准教授

陪席者：池内副課長、竹村 T L、大野事務補佐員

議 題

審議事項

1.客員教授等任用について

矢田部センター長から資料 1 に基づき、愛媛県県民環境部長の岡田氏及び愛媛県土木部長の田村氏の客員教授の任用について、履歴書、客員教授候補者推薦理由書及び業績目録の説明があり、併せて愛媛地域防災力研究連携協議会発展のために必要であるとの報告がありました。なお、社会連携機構推進会議、人事委員会の審議を得て、本人承諾の上、7 月 1 日付けで任用の手続きを行うこととしています。

2.平成 24 年度活動報告会の開催について

矢田部センター長から資料 2 に基づき、5 月 31 日（金）開催の平成 24 年度活動報告について、防災情報研究センター活動報告は、矢田部センター長が、また羽藤先生と宮本先生に講演をお願いしているとの報告がありました。この報告会において、えひめ防災フォーラム 2013 のパンフレットを配付するようにとの指示がありました。

3. えひめ防災フォーラム 2013 について

矢田部センター長から資料 3 に基づき、8 月 20 日（火）にひめぎんホールメインホールで開催するとの説明がありました。また、基調講演の演題について、確認しておくようにとの指示がありました。なお、パネルディスカッションのテーマは矢田部センター長が、決定するとの報告がありました。

4. 防災キャラバン開催状況について

矢田部センター長から資料 4 に基づき、昨年度までに 10 市町（西予市においては、山間部と海岸部で 2 回）で実施しました。未開催市町については、事務から今後実施に向けた協力依頼をする旨の連絡をするように指示がありました。また併せて未開催市町からの講演依頼については、各市町の危機管理等の部局からの依頼については、原則受け付けないようとの指示がありました。（教員が個人的に依頼を受けたものは積極的に受け入れます。）

5. 平成 24 年度補正予算復興関連災害情報提供強化による地域・行政支援事業について

竹田副センター長から資料 5 に基づき、防災に係る市町等の情報を共有するために、災害情報プラットフォーム（サーバー）等の整備を行い、災害時においても稼働できるようにバックアップ体制の整備を行

うとともに、これらの災害が起きたときの情報の収集や情報が発信できる設備を取り付けたいとの説明がありました。

竹田副センター長から併せて確認事項として、1. サーバーの設置場所は、社会連携推進機構の3階副センター長室とすること。2. ソーラーパネルの設置場所は、社会連携推進機構の屋上を活用すること。3. 情報収集車両の購入については、現在未定であるが、オフロードタイプの車種を検討しているとの説明があり了承されました。特に社会連携推進機構が移動する計画がないこと、屋上の基礎がしっかりしていること、駐車場については、埋め込みではない仮設のものを検討する旨の指示がありました。

6. 愛媛地域防災力研究連携協議会第4回研究会の開催について

村岡准教授から資料6に基づき、愛媛地域防災力研究連携協議会第4回研究会の開催について、従来は5月の報告会の午前中に開催していたが、各先生方の授業の関係があり、今年度は、防災フォーラム2013の午前中に、大学本部の会議室で開催するとの説明があり、了承されました。なお、この研究会は四国クリエイティブ協会に報告書を提出しなければならないとの説明がありました。

民間の防災組織を横断的にまとめる連携組織（調整会議）のような組織を設置するにあたり、愛媛県、松山市、教育委員会には、大きな情報があり、それを収集しておけば、一度に情報を発信できます。このようなデータベースが必要であるとの説明が矢田部センター長からありました。

報告事項

1. 9.11 テロ時の救援者の長期フォローアップ研究の開催について

矢田部センター長から資料7に基づき、救急医療の講演がある旨の説明がありました。

2. 平成26年度公開講座「防災士養成講座」について

矢田部センター長から、松山市消防局から公開講座の依頼があったこと、場所の確保及び一部カリキュラムについて、大学教員に依頼したいし、来年度開催するとの説明がありました。

平成25年度第2回防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時：平成25年9月11日（金）

出席者：矢田部センター長、高橋副センター長、竹田副センター長、木下教授、相引教授、松尾教授、吉井教授、榊原教授、瀬野社会連携支援部長

議 題：

審議事項

1. 愛媛大学防災情報研究センター特定職員（教員）の選考について

文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」に岐阜大学（総括担当）が採択され、構成機関になっていた愛媛大学に人件費等が配分されることとなり、平成25年10月1日付けで防災情報センター教授（特定教員）として山下祐一氏を任用することとしました。また、任期は、平成26年2月28日までとします。なお、持ち回り運営委員会とし、各委員に上記審議事項を諮った結果、全員異議なく了承されました。

平成 25 年度第 3 回防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成 25 年 5 月 10 日（金）14：00～14：35

場 所：社会連携推進機構 2 階センター長室

出席者：矢田部センター長，竹田副センター長，高橋副センター長，松尾教授，榊原教授，村岡准教授
（木下教授代理），瀬野社会連携支援部長

陪席者：竹村 TL，大野事務補佐員

議 題

1. えひめ防災フォーラム 2013（8 月 20 日開催）の実施報告及びえひめ防災フォーラム 2014 の開催について

村岡准教授から資料 1 に基づき，8 月 20 日（火）ひめぎんホールメインホールにおいて，約 1,700 名の参加があり，会場も 1 階から 3 階までを使用するなど，盛会に終了したとの報告がありました。なお，使用した経費は約 500 万円です。来年度については，会場を 8 月 12 日（木）で予約しているが，プログラムについては，今後継続審議をするとの説明があり，了承されました。

2. 愛媛地域巨大災害救援・復旧・復興連携協議会（仮）構想について

村岡准教授から資料 2 に基づき，標記構想の枠組みを作成していくにあたり，それぞれの組織と（すき間）の橋渡しの存在として設置を考えていきたいとの説明がありました。なお，矢田部センター長から趣意書の作成とクリエイト協会を協議会のメンバーに入れること，寄附金の成果として，協議会を設立することの報告会を開催すること等の指示がありました。また，愛媛県との調整を上手にやってほしいとの依頼がありました。

3. 防災キャラバンの実施について

矢田部センター長から資料 3 に基づき，12 月 1 日に鬼北町で開催する旨の説明がありました。矢田部センター長が挨拶を，竹田教授が講演を行うことので了承がありました。

4. 平成 26 年度公開講座「防災士養成講座」について

矢田部センター長から資料 4 に基づき，松山市消防局からの新規事業として開催します。受講料は 1 万円とすることので了承されました。

5. 松山市消防士シンポジウムの共催依頼について

矢田部センター長から資料 5 に基づき，松山市から共催依頼及びコーディネーターの依頼があったとの説明があり，了承されました。

6. 平成 24 年度復興予算の執行について

竹田教授から社会連携機構の建物に太陽光パネル（発電）と蓄電池の発注の手続きを実施していること，防災のデータベースについては，金額が分かり次第，業者に発注をかけるとの説明がありました。

報告事項

1. 木下教授が土木学会建設マネジメント委員会論文賞を受賞

矢田部センター長から資料 6 に基づき，報告がありました。

2. 地域ニーズに答えるインフラ再生技術者育成のためのカリキュラム設計について

村岡准教授から資料7に基づき、文部科学省のリカレント教育のプロジェクト（主幹校は岐阜大学）であるとの報告がありました。なお、第2回持ち回り運営委員会の審議結果として、山下祐一氏を特定教授として採用する旨の手続きを実施するとの報告がありました。

3. 平成25年度防災士研修会について

矢田部センター長から資料8に基づき、松山消防局主催の9月に実施予定であった研修会の日程を変更して開催するとの報告がありました。

4. 市民向け講演会「インドネシアと日本の架け橋として」を開催（4月12日）

矢田部センター長から資料9に基づき、報告がありました。

5. 淡路島地震被害調査速報会を開催（4月18日）

矢田部センター長から資料10に基づき、淡路島で震度6弱の地震があり、その速報会を開催したとの報告がありました。

6. 市民向け講演会「愛媛大学とJICAが繋ぐ日本とホンジュラス、そして日本とネパール」を開催（4月19日）

矢田部センター長から資料11に基づき、ホンジュラスとネパールの現状に関する講演会を開催したとの報告がありました。

7. 市民向け講演会「9.11テロ時の救援者の長期フォローアップ研究－東日本大震災救援者の長期健康管理の重要性－」を開催（5月16日）

矢田部センター長から資料12に基づき、教育学部の加藤先生の招へいで一般向けの講演会を実施したとの報告がありました。

8. 平成24年度活動報告会を実施（5月31日）

矢田部センター長から資料13に基づき、報告がありました。162名の参加がありました。

9. 市民向け講演会「地盤防災に関する講演会」を開催（6月25日）

矢田部センター長から資料14に基づき、報告がありました。

10. 宿泊客災害時対応指針検討会委員の就任について

矢田部センター長から資料15に基づき、道後温泉における大規模災害があった際の対応について依頼のあったものであるとの報告がありました。

11. 四国災害アーカイブス事業検討委員会委員の委嘱について

矢田部センター長から資料16に基づき、四国クリエイト協会からの依頼であるとの報告がありました。

12. 平成25年度学校防災アドバイザーの委嘱について

矢田部センター長から資料17に基づき、愛媛県教育委員会から5名の依頼があり、20市町の教育委員会との連携が深まるとの報告がありました。

13. 愛南町防災教育推進協議会及び愛南町防災教育推進懇談会委員について

矢田部センター長から資料18に基づき、防災教育に関する委員派遣があったとの報告がありました。

14. 「高知の新たな公共工事システム研究会」委員の委嘱について

矢田部センター長から資料19に基づき、高知工科大学から依頼があったとの報告がありました。

15. 社会基盤情報標準化委員会及び同幹事会委員の委嘱について
矢田部センター長から資料 8 に基づき、報告がありました。

平成 25 年度第 4 回防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時：平成 25 年 10 月 11 日（金）

出席者：矢田部センター長，高橋副センター長，竹田副センター長，木下教授，相引教授，松尾教授，
吉井教授，榊原教授，瀬野社会連携支援部長

議 題：

審議事項

1. 愛媛大学防災情報研究センター兼任教員の委嘱について

委嘱の依頼者

現職名 大学院理工学研究科生産環境工学専攻都市環境工学

氏 名 羽鳥 剛史准教授

委嘱期間 運営会議承認日～平成 26 年 3 月 31 日（平成 26 年 4 月 1 日以降更新の予定あり）

委嘱の理由

文部科学省「地域防災対策支援研究プロジェクト」

委託事業名「科学的・社会的好奇心を刺激する自発的減災活動の推進」

実施期間 愛媛大学防災情報研究センター兼任教員森伸一郎准教授（上記プロジェクト代表者）が採択され（10 月 7 日），委託事業の業務の一部を羽鳥剛史准教授に担当いただくため。

なお，持ち回り運営委員会とし，各委員に上記審議事項を諮った結果，全員異議なく了承されました。

平成 25 年度第 5 回防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成 25 年 11 月 29 日（金）11：00～11：40

場 所：社会連携推進機構 2 階研修室

出席者：矢田部センター長，竹田副センター長，吉井教授，相引教授，松尾教授，木下教授，
山下教授(松尾教授代理)，二神准教授（高橋副センター長代理），瀬野社会連携支援部長

陪席者：村岡准教授，竹村 T L，大野事務補佐員

審議事項：

1. 平成 26 年度年度計画について

矢田部センター長から資料 1 に基づき説明があり，年度計画として社会基盤メンテナンスエキスパートME養成講座を追加するようとの指示がありました。

2. 平成 25 年度防災キャラバンの実施について

二神准教授から資料 2 に基づき説明があり，今年度鬼北町，西条市，四国中央市で開催することで

了承されました。なお、矢田部センター長から講演会終了後、(市の幹部職員や自主防災組織の皆様などとの)情報交換会を開催した方がいいのではないかとの意見がありました。

3. えひめ防災フォーラム 2014 及び平成 26 年度防災キャラバンの開催について

二神准教授から資料 3 に基づき説明があり、えひめ防災フォーラム 2014 と平成 26 年度の防災キャラバンの窓口を二神准教授が行うことが了承されました。なお、矢田部センター長から、なるべく早い時期にすべての市町で開催できるように調整することの指示がありました。

4. 災害情報プラットフォーム（平成 24 年度復興予算）について

竹田教授から資料 4 に基づき説明があり、現地調査用の車と無停電電源装置等の契約が終わり、これからGISプラットフォームの発注と無線ヘリなどの購入を計画しているところであるとの進捗状況の報告がありました。また併せてプラットフォームの提供システムの運用イメージの概略説明がありました。相引教授から無停電電源について、持続時間の問題が生じるが、発電電源を入れなかった理由について質問があり、竹田教授から(東日本大震災時のように)燃料の補給がないことを前提として整備しているとの回答がありました。

5. 平成 25 年度社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座－試行版－について

6. 講演会「社会基盤に関する現状と課題及び社会基盤ME養成講座について」

7. 平成 26 年度社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座について

吉井教授から資料 5～7 に基づき説明があり、平成 26 年度社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座を 2 週間程度の期間で開催し、30 歳代の技術者を育成していきたいとの説明がありました。(愛媛社会基盤連携協議会を開催し、準備を行っています。)また今年度試行講座を 1 月 7 日～9 日に開催(講義等 10 コマ)、9 日の午後には一般市民対象とした講演会(3 コマ分)、懇親会を予定しているとの説明があり、了承されました。矢田部センター長から講演会には、マスコミにも周知してほしいとの依頼がありました。

8. 寄附講座の報告会の開催について

竹田教授から資料 8 に基づき説明があり、寄附講座も最終年度となり、四国クリエイト協会から報告会及び報告書の打合せを行っているところであり、内容は、広く四国全体に生かせる成果を期待されています。また報告会の開催時期としては、四国クリエイト協会から来年 3 月より、忙しい時期でもあり、4 月に入ってから開催でいいのではないかとの意見をいただいているとの説明がありました。矢田部センター長から報告書の役割分担をし、社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座や木下先生が関わっている委員会の報告など全員で対応してほしいとの指示がありました。

9. 愛媛地域防災力研究連絡協議会第 2 号委員の追加について

二神准教授から資料 9 に基づき説明があり、気象台から協議会に加入の申し入れがあり、第 2 号委員として加入することに異論はありませんでした。手続きについては、後日確認することとしました。

10. 平成 26 年度の客員教授について

矢田部センター長から資料 10 に基づき説明があり、来年度の客員教授としては、羽藤先生、ネパール マダブ クマル先生、柏谷先生、鳥居先生、廣田先生、ダハル ランジャン クマール先生、岡田部長、田村部長に 1 年間お願いすることと了承されました。なお、川崎局長は、三浦局長に変更しているので、来年度から変更でお願いすることとしました。山岸先生は 70 歳を超えるため、採用

しないこととしました。

報告事項

1. 社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座

愛媛社会基盤連携協議会準備会 11月8日開催

地域定着化及びカリキュラム検討委員会 11月14日開催

山下教授から資料11及び12に基づき報告があり、準備会を開催したとの報告がありました。併せて、地域定着化及びカリキュラムの検討委員会を開催し、各参加者から団塊の世代が退職しても技術が伝承できるような講座にしていくことが確認されました。矢田部センター長から四国電力とNEXCOを含めるようにとの指示がありました。

2. 「被災地調査報告会」を開催(10月4日)

竹田教授から資料13に基づき報告がありました。防災情報研究センター調査団を結成してみてもどうかとの意見がありました。

3. (一社)建設物価調査会評価監視委員会の委員の委嘱について

木下教授から資料17のとおり報告がありました。

4. 発注者責任を果たすための今後の建設生産・管理システムのあり方に関する懇談会の委員の委嘱について

木下教授から資料18のとおり報告がありました。公共調達制度の抜本的改革を非公式に実施しているもので、会計法を骨抜きにしてしまう議員立法を審議中であるとの報告がありました。

5. 愛媛県消防学校「警防課」の講師派遣について

矢田部センター長から資料19のとおり報告がありました。

6. 愛媛県防災士養成講座の講師派遣について

矢田部センター長から資料20のとおり報告がありました。

7. 愛媛県防災気象講演会の講師派遣について

矢田部センター長から資料21のとおり報告がありました。

8. 四国中央市防災教育研究授業の講師派遣について

矢田部センター長から資料22のとおり報告がありました。津波シミュレーターの利用について小・中学生が使用できるものがあればいいとの意見がありました。

9. 新居浜市連携協定に係る講演会の講師派遣について

矢田部センター長から資料23のとおり報告がありました。

10. 西長戸町内会研修会の講師派遣について

矢田部センター長から資料24のとおり報告がありました。

11. その他

・竹田教授、二神准教授から来年度の体制について、審議しなければならないとの質問があり、矢田部センター長から予算案を事務で原案を作成してほしいとの依頼があり、次回12月下旬に開催する運営委員会で議論することとしました。

・相引教授から病院としてのBCPについて、今後防災情報研究センターの助言をお願いしたいとの

依頼がありました。

平成 25 年度第 6 回防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成 25 年 12 月 24 日（火）10：00～10：55

場 所：社会連携推進機構 2 階センター長室

出席者：矢田部センター長，高橋副センター長，竹田副センター長，松尾教授，
山下教授（吉井教授代理），二神准教授（相引教授代理），
村岡准教授（木下教授代理），瀬野社会連携支援部長

陪席者：竹村 T L，大野事務補佐員

審議事項：

1. 外部評価委員会委員の任用更新について

矢田部センター長から資料 1 に基づき説明があり，外部評価委員 4 名の再任が認められました。なお，任期は，平成 26 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日の 2 年間とします。

2. 防災情報研究センター兼任教員の任期更新について

矢田部センター長から資料 2 に基づき説明があり，兼任教員 14 名（部門長 4 名を含む）の再任が認められました。なお，任期は，平成 26 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日の 2 年間とします。

3. 防災フォーラム 2014 について

二神准教授から資料 3 に基づき説明があり，矢田部センター長から今年度好評であったとの評価をいただきました。来年度は 5 回目の開催として集大成としてのフォーラムにするためのアイデアをお願いしたいとの依頼がありました。

4. 防災キャラバンの実施状況について

二神准教授から資料 4 に基づき説明があり，12 月 1 日に鬼北町で開催したが，今年度予定どおり西条市，四国中央市，上島町で開催することの確認がありました。また，未開催市町については，1 月にすべての市町において平成 26 年度に開催できるかどうかの確認を行うことで，了承されました。また，矢田部センター長から連携協定を締結していない市町もあり，組織的な繋がりを強化したいとの説明がありました。

5. 平成 26 年度当初予算計画（案）について

竹田教授から資料 5 に基づき説明があり，寄附講座が今年度で終了することから，来年度センターの運営経費についての計画的な予算執行が必要であるとの説明がありました。矢田部センター長から外部資金，特に大型の間接経費を取りにいくこと及び愛媛大学公開講座の収入をセンター運営経費として使用していかざるをえない状況であるとの補足がありました。

報告事項：

1. 平成 25 年度防災キャラバンの実施について

－平成 25 年 12 月 1 日 鬼北町立近永小学校屋内運動場－
矢田部センター長から資料 6 に基づき説明がありました。

2. 河川整備基金助成事業（環境整備部門）選考委員会の委員委嘱について
矢田部センター長から資料 7 に基づき説明がありました。
3. 河川美化・緑化助成事業選考委員会の委員委嘱について
矢田部センター長から資料 8 に基づき説明がありました。
4. 伊方中学校「巨大地震による大津波に備える」講師派遣について
矢田部センター長から資料 9 に基づき説明がありました。また村岡准教授から、当日の講演の感想がありました。また矢田部センター長から原発に関する防災について、将来的には、愛媛大学でも提携していかなければならないとの説明がありました。
5. その他
 - ・二神准教授から 12 月 6 日河川情報センターにおいて招待講演を実施した旨の報告がありました。
 - ・社会基盤メンテナンスエキスパート (ME) 講座をホームページに掲載することの指示がありました。
 - ・東南海・南海地震研究部門は、竹田教授が部門長として継続することとしました。
 - ・高橋副センター長から松山地方気象台主催の講演会を実施した旨の報告がありました。
 - ・矢田部センター長から 1 月下旬ぐらいに、12 月愛媛県の被害想定が発表されることもあり、かみ砕いた講演会を開くように調整するようとの指示がありました。（竹田教授と二神准教授）

平成 25 年度第 7 回防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時：平成 25 年 12 月 26 日（木）

出席者：矢田部センター長，高橋副センター長，竹田副センター長，木下教授，相引教授，松尾教授，吉井教授，榊原教授，瀬野社会連携支援部長

議 題：

審議事項

1. 愛媛大学防災情報研究センター特定職員（教員）の退職について

(1) 文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」において特定教員として任用された山下祐一教授の期間満了に伴う退職

平成 26 年 2 月 28 日退職予定

(2) 寄附講座「東南海・南海地震研究部門」において特定教員として任用された木下誠也教授の期間満了に伴う退職

平成 26 年 3 月 31 日退職予定

(3) 寄附講座「東南海・南海地震研究部門」において特定教員として任用された村岡治道准教授の期間満了に伴う退職

平成 26 年 3 月 31 日退職予定

※平成 26 年 2 月 5 日開催の人事委員会に付議予定。

なお、持ち回り運営委員会とし、各委員に上記審議事項を諮った結果、全員異議なく了承されました。

平成 25 年度第 8 回防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時：平成 26 年 1 月 22 日（火）

出席者：矢田部センター長，高橋副センター長，竹田副センター長，木下教授，相引教授，松尾教授，
吉井教授，榊原教授，瀬野社会連携支援部長

議 題：

審議事項

1. 愛媛大学防災情報研究センター研究部門「アーバンデザイン研究部門」の設置及び学長裁量定員による教員の配置について

資料 1 のとおり，防災情報研究センターの研究部門として，「アーバンデザイン研究部門」を松山市都市再生整備協議会からの寄付講座として設置します。（設置に伴い，資料 3 のとおり，愛媛大学防災情報研究センター規則の一部改正を行います。なお，南海・南海トラフ巨大地震部門は，寄附講座が今年度で終了することから南海トラフ巨大地震研究部門に名称を変更します。また，資料 2 のとおり学長裁量定員による教授を配置します。（※平成 26 年 2 月 5 日開催の人事委員会に付議予定）

なお，持ち回り運営委員会とし，各委員に上記審議事項を諮った結果，全員異議なく了承されました。

平成 25 年度第 9 回防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時：平成 26 年 2 月 14 日（金）

出席者：矢田部センター長，高橋副センター長，竹田副センター長，木下教授，相引教授，松尾教授，
吉井教授，榊原教授，瀬野社会連携支援部長

議 題：

審議事項

1. 客員教授（3 名）任用について（新規）

資料 1 に基づき，（株）第一コンサルタンツ代表取締役社長の右城氏，防災情報研究センター特任教授の木下氏（平成 26 年 3 月 31 日付け退職）及び国土交通省四国地方整備局長の三浦氏の客員教授の 3 名について，愛媛地域防災力研究連携協議会発展のために，平成 26 年 4 月 1 日付けで，防災情報研究センターの客員教授として新規に任用することです承されました。なお，今後の手続きとしては，社会連携機構推進会議，人事委員会の審議を得て，本人承諾の上，4 月 1 日付けで任用の手続きを行うこととしています。

5.2 外部評価委員会議事録

平成 25 年度防災情報研究センター前期外部評価委員会

日 時：平成 25 年 10 月 23 日（水）14：00～14：55

場 所：社会連携推進機構 2 階研修室

委員出席者：

放送大学愛媛学習センター所長	森 孝明
南海放送（株）社長室局次長	白石 享三
愛媛県技術士会会長	須賀 幸一
（株）いよぎん地域経済研究センター取締役社長	山崎 正人

陪 席 者：

矢田部センター長，高橋副センター長，竹田副センター長，松尾教授，吉井教授，
瀬野社会連携支援部長，竹村 T L，大野事務補佐員

議事に先立ち，矢田部防災情報研究センター長から今年度気象災害等厳しい状況が続いており，防災情報研究センターの役割について，外部から大きな期待が寄せられているところであるとの挨拶があり，委員及び陪席者の紹介（資料 1），資料の確認等がありました。

なお，委員長には，外部評価委員会要項第 4 条に基づき，森孝明放送大学愛媛学習センター所長が選出されました。

審議事項

1. センター活動の概要報告について

矢田部防災情報研究センター長から資料 3，別紙及び関係冊子等に基づき，平成 25 年度の上半期における活動報告等がありました。

2. 受託研究及び共同研究に対する評価審査について

矢田部防災情報研究センター長から資料 4 に基づき，受託研究 2 件，共同研究 2 件について内容の説明を行い，下記のような質問があったが，特に問題は認められないと判断されました。

共同研究 1 「高速道路盛土地盤の液状化対策」

研究者 岡村 未対

発表者 矢田部 龍一

共同研究 2 「九州及び中部地方を給源とする火山灰の岩石学的研究」

研究者 榊原 正幸

発表者 矢田部 龍一

受託研究 1 「平成 25 年度水域生物を指標とした瀬切れ河川影響評価検討」

研究者 矢田部 龍一

発表者 矢田部 龍一

受諾研究 2 「大震時火災リスクシミュレータの提供と地域消防におけるルール形成の支援研究」

研究者 二神 透

発表者 矢田部 龍一

森委員長から共同研究 1（液状化対策）について、昨年度と今年度の研究内容についての質問があり、矢田部センター長から昨年度は地盤調査、計測法、施工を検討し、今年度具体的に不飽和工法（空気注入工法）の高速道路盛土地盤への適用性について研究し、現地で地盤調査しているところであるとの回答がありました。

また、山崎委員から最近、鴨川や伊豆大島などの災害が報道され、国民も防災に対する意識が高まってきていると指摘がありました。愛媛大学防災情報研究センターとして、行政や国民に対してどのようなアプローチを行っていけばよいと考えられているのかとの質問がありました。これに対して矢田部センター長から首長の防災意識を高める（責任を持つ）ことが重要であると回答がありました。防災フォーラムにおいては、参加者に対して（自分の町は自分たちで守らなければならない。）公言しなければならないと考えています。防災フォーラムを通して行政が一体となり、防災意識を高めることを目的に実施しているところでもあります。次に防災を担当する職員、地域の防災士などを、教育を通して支援しているところでもあります。長期的には学校における防災教育をアドバイザーとして支援しているところでもあります。高橋副センター長から伊豆大島の現状の補足説明がありました。その中で住民が地域を知らず、学校教育においても置き去りになっており、また青年に対する防災教育の課題についての指摘がありました。

白石委員から共同研究 1（液状化対策）について、いつ頃から実用化するのかとの質問がありました。矢田部センター長から、今年度施工法等のチェックなど、対策方法も増やして行くことも考えられると回答がありました。公共事業については予算の関係もあり、順次道路を守っていく計画であります。実際には徳島道において、行われているところであり、有効な研究であると考えたとの回答がありました。

須賀委員から愛南町において、全小・中学校において、防災の発展的プログラムを実施しているところであるとの説明がありました。

3. センター活動への助言について

白石委員から最近では多岐にわたる成果を上げていることに対して、感謝の発言がありました。

報道機関を啓蒙することも併せてお願いしたいとの依頼がありました。

須賀委員から地域ニーズに応えるインフラ再生技術者の育成のレベルについての質問があり、矢田部センター長から中級から上級者向けであるとの回答がありました。

最後に、矢田部センター長から今年度愛媛大学防災情報研究センターでは、限られた人数の中で首長や市民を対象としたイベントの実施、高度養成者育成のカリキュラムの作成、実施、津波・火災のシュミレーション、小学校を対象とした防災教育のパッケージ化、松山市と連携した防災士の育成を年間 200 名～400 名実施するなど防災への啓発活動として防災キャラバンや講演会を実施していくこととしてお

り、そのことを実現するためにも外部組織との繋がりを深め、組織連携を具体化していきたいとの抱負を述べ、謝辞としました。

平成 25 年度防災情報研究センター後期外部評価委員会

日 時：平成 26 年 3 月 25 日（火）14：00～14：55

場 所：社会連携推進機構 2 階研修室

委員出席者：

放送大学愛媛学習センター所長	森 孝明
愛媛県技術士会会長	須賀 幸一
(株)いよぎん地域経済研究センター取締役社長	山崎 正人

陪 席 者：

矢田部センター長、高橋副センター長、竹田副センター長、松尾教授、木下教授、村岡准教授、瀬野社会連携支援部長、竹村 T L、大野事務補佐員

議事に先立ち、矢田部防災情報研究センター長が、平成 26 年 3 月 14 日（金）に起こった地震（松山：震度 4 南予：震度 5）について各機関マニュアル通りの対応ができたと評価しました。しかし、本格的な南海トラフ巨大地震が起こっても今回のように対応が可能かどうか、防災情報研究センターにおいても、さまざまな角度から検討が必要であるとの挨拶があり、委員及び陪席者の紹介（資料 1）、資料の確認等がありました。

なお、委員長には、外部評価委員会要項第 4 条に基づき、森孝明放送大学愛媛学習センター所長が選出されました。

審議事項

1. センター活動の概要報告について

矢田部防災情報研究センター長から資料 3 に基づき、平成 25 年度の下半期における活動報告等がありました。

2. 受託研究に対する評価審査について

矢田部防災情報研究センター長から資料 4 に基づき、受託研究 3 件の説明がありました。

受託研究 1「地域ニーズに応えるインフラ再生技術者育成のためのカリキュラム設計」

研究者 吉井 稔雄

発表者 矢田部 龍一

受託研究 2「平成 25 年度肱川管理方策検討業務」

研究者 門田 章宏

発表者 矢田部 龍一

受託研究 3「科学的・社会的好奇心を刺激す自発的減災活動の推進」

研究者 森 伸一郎

発表者 矢田部 龍一

須賀委員からは、技術者不足が指摘され、現在四国内だけでも約 400 名以上の技術者が必要であること、また技術者養成のカリキュラムもなく、本来であれば国が策定していかななくてはならないと報告をいただきました。ただし、今回愛媛大学で開催した人材養成講座は、有意義で実践的な研修であることから継続的な研修が望まれるとの補足説明がありました。

3. センター活動への助言について

木下東南海・南海地震研究部門長・村岡防災情報研究センター准教授が退任されるため、挨拶がありました。

最後に、矢田部センター長から今年度愛媛大学防災情報研究センターでは、さまざまな形で地元・社会インフラ整備の最前線に立っていくこととしており、そのことを実現するためにも、外部組織との繋がりを深め、組織連携を具体化していきたいとの抱負を述べ、謝辞としました。

6. 規程等

6.1 愛媛大学防災情報研究センター規則

〔平成18年4月1日
規則第 64 号〕

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同施設として、自然科学と防災技術の融合により自然災害の実態を解明し、防災・減災のための新たな学際分野を創出し、もって地域の人材育成を含めた地域防災の拠点としてアジア及び地域社会に貢献することを目的とする。

(研究部門等)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 災害救急医療・ケア研究部門
- (2) 地域防災システム研究部門
- (3) 社会基盤整備部門
- (4) アジア・地域防災情報ネットワーク部門
- (5) 東南海・南海地震研究部門

2 前条の目的を達成するため、必要に応じて、センターに地域サテライトを置くことができる。

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 寄附研究部門教員
- (5) 兼任教員
- (6) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

2 第2条の目的を達成するため、必要に応じて特定領域の学識を有する専任教員を置くことができる。

(管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、国立大学法人愛媛大学社会連携推進機構管理委員会（以下「管理委員会」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

(緊急対策委員会)

第7条 センターに、緊急の防災対策を検討するために緊急対策委員会を置くことができる。

(センター長)

第8条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから管理委員会が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第9条 副センター長候補者は、本学の専任の教授のうちから、センター長が当該教授の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された副センター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（部門長）

第10条 部門長は、当該部門の寄附研究部門教員又は兼任教員のうちから、センター長が委嘱する。

2 部門長の委嘱期間は、センター長が定める。ただし、委嘱期間の末日は、当該部門長を委嘱するセンター長の任期の末日を超えないものとする。

（寄附研究部門教員）

第11条 寄附研究部門教員は、管理委員会が推薦し、学長が選考する。

（兼任教員）

第12条 兼任教員は、本学の専任教員のうちからセンター長の推薦により、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。

（職務）

第13条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長から指示された具体的な事項を行う。

3 部門長は、当該部門の業務を処理する。

4 兼任教員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事する。

5 センター職員は、センターの業務に従事する。

（協力教員）

第14条 センターに、協力教員を置くことができる。

2 協力教員は、センター長があらかじめ定めた期間、センターの活動に参加することができる。

3 協力教員は、本学の専任教員のうちから、センター長が委嘱する。

（客員教授等）

第15条 センターに、客員教授等を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、愛媛大学客員教授等選考基準の定めるところによる。

（客員研究員）

第16条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

（事務）

第17条 センターに関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

（雑則）

第18条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年10月14日から施行し、平成22年10月1日から適用する。

6.2 愛媛大学防災情報研究センター運営委員会規程

平成18年4月1日
規則第 65 号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本事項に関すること。
- (2) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 社会連携支援部長
- (5) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門部会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

6.3 愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程

平成 18 年 11 月 10 日
社会連携推進機構管理委員会

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）における外部評価（以下「評価」という。）の実施に関する基本的事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 評価は、愛媛大学以外の機関等から申込のあった共同研究及び受託研究が、愛媛大学において受け入れる研究としてふさわしいものであるかについて客観的な立場で検証し、その評価及び改善への助言等を行うことにより、共同研究及び受託研究の業務の適正化を図り、もって、センターの円滑な運営に資するものとする。

(評価審査)

第3条 評価に係る審査は、法令、学内諸規則及び社会良識に照らして厳正中立に行わなければならない。
2 評価審査の結果には、共同研究及び受託研究を実施する上での問題点の有無等について、その具体的な判断理由を明示するものとする。

(審査機関)

第4条 前条の審査を行うために、センターに愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）を置く。
2 外部評価委員会に関する事項は、別に定める。

(審査の時期)

第5条 審査は、原則として、半期ごとの定期審査とする。
2 外部評価委員会への審査の要請は、センター長が行う。

(審査結果の効力)

第6条 センター長は、外部評価委員会の定期審査による評価及び改善への助言等を十分に尊重し、共同研究及び受託研究の実施にあたらなければならない。

(事務)

第7条 センターの外部評価に関する事務は、社会連携支援部社会連携課が所掌する。

附 則

この規程は、平成 18 年 11 月 10 日から施行する。

6.4 愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要項

平成 18 年 11 月 10 日
社会連携推進機構管理委員会

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程第4条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 共同研究及び受託研究のテーマ又は内容が、学術的又は社会貢献としての価値を損なうものでないか。
- (2) 共同研究又は受託研究を実施する者が、社会規範を逸脱したと思われる行為を行っていないか。
- (3) 前各号のほか、愛媛大学（以下「本学」という。）が実施するにふさわしくない事情が認められないか。

(組織)

第3条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる本学外の委員をもって組織する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の学術分野に関連のある有識者 2人
 - (2) 民間機関の有識者 2人
 - (3) その他社会連携推進機構長が必要と認めた者
- 2 前項第2号の委員は、同一の機関から選出することができない。
 - 3 第1項の委員は、社会連携推進機構長が推薦し、学長が任命する。
 - 4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときは直ちにこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 外部評価委員会に委員長を置き、委員長は、委員の互選とする。

- 2 委員長は、センター長の要請に基づき外部評価委員会を開催し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 外部評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(審査結果の報告)

第7条 委員長は、外部評価委員会における評価の審査結果を、速やかにセンター長に報告しなければならない。

(事務)

第8条 外部評価委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか、外部評価委員会の審査に関し必要な事項は、外部評価委員会が定める。

附 則

- 1 この要項は、平成18年11月10日から施行する。
- 2 この要項施行後、最初に任命される第3条第1項各号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。